

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Communication consciousness of boys and girls in their homes

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001291

国立国語研究所報告 33

家庭における子どものコミュニケーション意識

渡 辺 友 左

国立国語研究所

1968

家庭における子どものコミュニケーション意識

渡 辺 友 左

国立国語研究所

1968

刊行のことば

国民の日常の言語生活の実態を知ることは、国語の将来を考えるために、まず必要なことである。国立国語研究所は、創設以来、国民の言語生活の実態把握を一つの大きな目的として、研究をつづけてきた。この目的のために、しばしば特定地点に着眼して、その地域における言語および言語生活の実態調査を行なった。昭和24年の八丈島の言語調査をはじめとして、以後、福島県白河市、山形県鶴岡市、長野県飯田市、三重県上野市、愛知県岡崎市、北海道各地などで、標準語の普及度、言語変化の要因、共通語化の過程、敬語使用の実態など、諸種の角度から調査研究をつづけた。近くは、昭和37年に新潟県長岡市、昭和38年に島根県松江市で、国民各層の言語生活の実態調査を行なった。

現在、第4研究部の第二資料研究室（室長飯豊毅一）は、特定地域社会の成員について言語使用の実態を調査し、社会構造との関係を研究しているが、同研究室に属する渡辺友左は、長岡市・松江市における調査にも参加し、松江市の調査の中では、特に、小中学生および高校生の家庭における言語行動に焦点をすえた調査を分担した。渡辺は、この研究課題について、さきに属していた言語効果研究室において研究をつづけ、昭和39年度の同研究室長林四郎、同室員高橋太郎らとともに、福島市および福島県伊達郡梁川町で調査を重ねた。渡辺は、昭和40年に現在の第二資料研究室に移り、飯豊室長のもとで前記の研究に従事しているが、このたび、言語効果研究室で行なった調査の分析結果をまとめることができたので、ここに『家庭における子どものコミュニケーション意識』と題して刊行することとした。

家庭の中で、親と子がどのようにことばをかわすか、親の性別・子の性別によってコミュニケーションの内容・方向・形式などにどのような傾向が形作られるか、また、都市的社会と農村的社会とで家庭内コミュニケーションのあり方にどのような差異が見られるか、などの問題について、疑問の一端を明らかにしたと思う。この結果が、今後の標準語や敬語について、国語施策を考えるのに役立つばさいわいである。

本書の刊行に際して、この調査に御協力くださった、松江市、福島市、梁川町の当路のかたがたにあつくお礼を申し上げる。

昭和43年11月

国立国語研究所長 岩淵悦太郎

目 次

刊行のことば

ま え が き	1
---------------	---

調査の目的・内容・対象・実施・担当者などに

ついて	2
-----------	---

1. 調査の目的と調査の内容..... 3
2. 調査の対象.....10
3. 調査の実施.....18
4. 調査の担当者.....19

調査結果のあらまし.....	20
----------------	----

1. 子どもは困ったことの相談を家族のだれにしたいと思っ
ているか.....20
2. 子どもにとって話しやすい相手・話にくい相手はだれか...27
3. 家庭で子どもがよく話す相手・話さない相手はだれか.....32
4. 子どもは親と話をすることが好きか嫌いか.....37
5. 子どもは親に自分の希望や意見をいうか.....40
6. 子どもは親と話すとき話すほうが多いか
聞くほうが多いか.....44
7. 子どもは家庭でだれに叱られることが多いか.....50
8. 叱る人を親に限った場合はどうか.....54
9. 子どもは親をどう呼ぶか.....65
10. 子どもは家庭であいさつをどの程度しているか.....71
11. 子どもは親といっしょに仕事をしたり
遊んだりすることがあるか.....88
12. 家庭の中でよく話す人・あまり話さない人はだれか.....98
13. 子どもは教室の中ででも積極的にものを言うか..... 111
14. 子どもはバス・電車の中ででも積極的にものを言うか..... 123

15.	子どもと親との結びつきについて……………	129
16.	向性検査の結果について……………	132
17.	農家の子どもの言語行動について……………	137

ま え が き

この報告書は、次の「調査の目的・内容・対象・実施・分担者などについて」のところで述べているように、国立国語研究所第2研究部言語効果研究室が昭和39年秋に福島市と福島県伊達（だて）郡梁川（やながわ）町で、小・中・高校の児童生徒を対象にして実施した意識調査の調査結果のあらましと、それに国立国語研究所の昭和38年度『国民各層の言語生活の実態調査のための委員会(B)』が昭和38年秋と39年春、島根県松江市で、小・中・高校の児童生徒を対象にして実施した意識調査の調査結果のあらましとを一つにまとめたものである。

この報告書の刊行が調査の行なわれた年から4年以上も遅れたのは、これら二つの意識調査の主たる分担者であったわたくし（渡辺）が、昭和40年4月1日付で第2研究部言語効果研究室から第4研究部第2資料研究室に配置換えになり、同研究室で新しい研究課題を分担することになったという事情があったからである。この新しい研究課題の仕事に忙殺されていたため、昭和39年秋に実施した福島市と梁川町での調査は、翌40年3月末までに一往のあらい集計はすんでいたものの、その後細かな部分にわたっての集計整理と、その結果にもとづいての報告書の原稿執筆の仕事は、のびのびとなっていた。しかし、昭和43年度にはいり、第2資料研究室でのわたしの仕事に若干の時間的・労力的なゆとりができたので、のびのびになっていた、この細かな部分についての集計整理に43年5月から再び手をつけることができるようになった。その結果、原稿執筆の仕事にも6月中旬からはいることができ、7月中旬にそれも終えることができた。貴重な時間をさいて、わたしたちの調査にこころよく協力してくださった福島市・梁川町・松江市の多くの小・中・高校の校長先生をはじめ多くの先生がた、それに児童生徒の皆さんに、ここにあらためて厚くお礼を申し上げたい。

最後に、出版費が少ないことのため、本来この報告書で報告しておかなければならない性質のものでやむを得ず割愛したものがいくつかあることをお断わりしておく。

調査の目的・内容・対象・実施・分担者などについて

1. 調査の目的と調査の内容

子どもは、親子を中心とした家庭内のコミュニケーションについてどのような意識をもっているか。その意識は、小学生と中学生と高校生とではどう違うか。同じ小中高校生でも、男子と女子とではどう違うか。都市の子どもと農村の子どもとではどうか。職業の違う家庭の子どもの間ではどうか等々。

これらの事柄について、国立国語研究所言語効果研究室は、昭和39年秋福島市とその近くの福島県伊達（だて）郡梁川（やながわ）町で小中高校の子どもを対象に質問紙法による簡単な意識調査をした。質問の内容は、次のとおりである。（家庭の外での子どもの言語行動についての意識をたずねる質問もいくつか終わりの部分につけてある。）この報告書は、これらの質問に対する子どもの回答の集計結果のあらましをまとめたものである。

1. 現在いっしょに住んでいる家族は、だれとだれですか。下のいちばん左のらんの、それぞれあてはまるところを○でかこみ、次のらんに名まえを書いてください。年令も職業も、わかれば書いてください。（現在いっしょにいない人は、書かないでください。）

○でかこむ	名 ま え	年 令	職 業
父			
母			
祖 父			
祖 母			
兄 ₁			
兄 ₁ よ め			
姉 ₁			
姉 ₁ む こ			
兄 ₂			
姉 ₂			
弟 ₁			
弟 ₂			
妹 ₁			
妹 ₂			

2. あなたは、朝起きてから、おとうさんやおかさんにあいさつしますか。あてはまるものを○でかこんでください。（以下同じです。）
- ア. いつもする。 イ. しないこともあるが、するほうが多い。
 ウ. したり、しなかったり。 エ. めったにしない。
 オ. 全然しない。
3. (あいさつをする人だけ) なんと行って、あいさつをしますか。

4. あなたは、食事のはじめに、あいさつをしますか。
- ア. いつもする。 イ. しないこともあるが、するほうが多い。
 ウ. したり、しなかったり。 エ. めったにしない。

- オ. 全然しない。
5. (あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

6. 食事のおわりは、どうですか。
 ア. いつもする。 イ. しないこともあるが、するほうが多い。
 ウ. したり、しなかったり。 エ. めったにしない。
 オ. 全然しない。
7. (あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

8. あなたは、夜ねるとき、おとうさんやおかあさんにあいさつをしますか。
 ア. いつもする。 イ. しないこともあるが、するほうが多い。
 ウ. したり、しなかったり。 エ. めったにしない。
 オ. 全然しない。
9. (あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

10. 家族のみなさんは、みんなで話をしながら食事をするもののほうが多いですか。
 それとも、あまり話をしないで食事をするもののほうが多いですか。
 ア. みんなで話をしながら食事をする人が多い。
 イ. あまり話をしないで食事をする人が多い。
 ウ. どちらともいえない。
11. 食事のときに、よく話すのは、だれですか。

- あまり話さないのは、だれですか。

- おもにどんなことが話題になりますか。

12. 食事以外のときに、家族のかたが集まって、くつろいで雑談や世間話などをする
 ようなことがありますか。
 ア. よくある。 イ. あまりない。
 ウ. ほとんどない。
13. そのようなときに、あなたは、よく話すほうですか。それとも、だまっているほう
 ですか。
 ア. よく話すほうだ。 イ. だまっているほうだ。
 ウ. どちらともいえない。
14. 家族の中で、よく話すのは、だれとだれですか。

- あまり話さないで、聞くほうにまわっているのは、だれとだれですか。

おもにどんなことが話題になりますか。

-
15. あなたのおうちでは、なにかをきめるために、家族のかたがみんなで相談するよ
うなことがありますか。

ア. ある。 イ. ない。

16. (「ある」と答えた人だけ) 最近、どんなことを相談しましたか。

-
17. あなたは、朝登校するとき、家族のかたにあいさつして、家を出ますか。

ア. いつもする。 イ. しないこともあるが、するほうが多い。

ウ. したりしなかったり。 エ. めったにしない。

オ. 全然しない。

18. (あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

-
19. 学校から帰ったときは、どうですか。

ア. いつもする。 イ. しないこともあるが、するほうが多い。

ウ. したりしなかったり。 エ. めったにしない。

オ. 全然しない。

20. (あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

-
21. 家族の中で、あなたがふだんいちばん多く話をする相手のかたは、だれですか。

.....

その次に、あなたが多く話をする相手のかたは、だれですか。

.....

反対に、話すことがいちばん少ないと思う相手のかたは、だれですか。

.....

その次に、少ないと思う相手のかたは？

-
22. こまったことがあったとき、あなたは、ふつう、家族の中で、だれに最初に相談
したいと思いますか。

23. あなたがおうちでご両親と食事をしているとき、ご両親に話しかけるばあいは、
なんて言って呼びかけますか。

ア. おとっつあん

イ. おとうちゃん

ウ. パパ

エ. おとうさん

オ. とうちゃん

カ. とうさん

キ. パパさん

ク. おとうさま

ア. おっかさん

イ. かあちゃん

ウ. おかあさん

エ. おかあちゃん

オ. おかあちゃま

カ. ママ

キ. おかあさま

ク. ママさん

エ. どちらかという、聞くほうが多い。 オ. 聞くほうが非常に多い。
カ. わからない。

37. あなたは、おとうさんに聞いてもらいたい希望や意見があるとき、いつもそれをはっきりおとうさんに言いますか。

- ア. 言う。 イ. 言わない。 ○なぜですか。
- | | |
|---|---------------------|
| { | a. おとうさんに話す機会がないから。 |
| | b. はずかしい気がするから。 |
| | c. なんとなく話しにくいから。 |
| | d. しかられるから。 |
| | e. その他 (.....) |

ウ. 希望や意見をもったことがない。

38. おかあさんに聞いてもらいたい希望や意見があるとき、いつもそれをはっきりおかあさんに言いますか。

- ア. 言う。 イ. 言わない。 ○なぜですか。
- | | |
|---|---------------------|
| { | a. おかあさんに話す機会がないから。 |
| | b. はずかしい気がするから。 |
| | c. なんとなく話しにくいから。 |
| | d. しかられるから。 |
| | e. その他 (.....) |

ウ. 希望や意見をもったことがない。

39. あなたは、おうちの中で、だれかにしかられることがありますか。

ア. よくある。 イ. ときどきある。 ウ. ほとんどない。

40. (「ある」と答えた人だけ) だれにしかられることが多いですか。

.....

41. あなたは、おとうさんにしかられることがありますか。

ア. よくある。 イ. ときどきある。 ウ. ほとんどない。

42. (「ある」と答えた人だけ) どんなことでしかられることが多いですか。

.....

43. おかあさんにしかられることがありますか。

ア. よくある。 イ. ときどきある。 ウ. ほとんどない。

44. (「ある」と答えた人だけ) どんなことでしかられることが多いですか。

.....

45. 先生から答案をかえしてもらいました。よく見ると、正しい答えなのにまちがいにされています。先生に言って、なおしてもらいたいと思います。こんなとき、あなたは、そのことを先生にすぐ言えるほうですか。それとも、言えないほうですか。

- ア. すぐ言えるほうだ。 イ. 言えないほうだ。
ウ. わからない。 エ. その他 (.....)

46. 教室で、先生がみんなに質問をされました。それが、あなたに答えられるようなものだったら、あなたは、どうしますか。

- ア. すぐ手をあげる。 イ. 人が手をあげるのをみってから、手をあげる。

ウ.手をあげない。 エ.わからない。

オ.その他(.....)

47. ホームルームの時間などで、あなたは、みんなの前で自分の意見をのべるほうですか。それとも、だまっているほうですか。

ア.いつも意見をのべるほうだ。 イ.意見をのべることが多いほうだ。

ウ.だまっていることが多いほうだ。 エ.いつもだまっているほうだ。

48. (「だまっていることが多いほうだ」または「いつもだまっているほうだ」と答えた人だけ)だまっているのは、なぜですか。

ア.意見がないから。

イ.意見はあるが、言うのがはずかしいから。

ウ.その他(.....)

49. クラスの中で、よく意見をのべるのは、だれとだれですか。(氏名をはっきり書いてください。以下同じ)

.....

だまっているのは、だれとだれですか。

.....

おもしろいことを言って、みんなを笑わせるのは、だれとだれですか。

.....

50. ひとりでバス(電車)に乘りました。切符を買って、車掌さんからおつりをもらいましたが、10円たりません。車掌さんに言って、もらおうと思います。バスにはほかに人が乗っています。こんなとき、あなたは、そのことをすぐ車掌さんに言えるほうですか。

ア.すぐ言えるほうだ。 イ.言えないほうだ。

ウ.わからない。

オ.その他(.....)

51. バス(電車)に乘りました。何人かの人が乗っています。向かい側の席にすわっている、見知らぬおばさんがハンカチを落としましたが、気がつかないでいます。こんなとき――

A. あなたは、そのおばさんに教えてあげたいと思いますか。

ア. そう思う。 イ. そうは思わない。

B. あなたは、おばさんに教えてあげるのを、はずかしいと思いますか。

ア. はずかしいと思う。 イ. はずかしいとは思わない。

C. あなたは、実際にそのおばさんに教えてあげますか。

ア. 教えてあげる。 イ. 教えてあげない。 ウ. 教えてあげたり、教えてあげなかったりする。 エ. わからない。

52. あなたが尊敬している人をふたりだけ書いてください。

.....

次にあげた質問に答えてください。質問どおりであれば、「はい」に○、その反対ならば、「いいえ」に○をつけてください。どちらにも決められない場合は、その

ままにしておいてください。

- | | | |
|-------------------------------|----|-----|
| 1. ちょっとしたことでも気になりますか。 | はい | いいえ |
| 2. すぐ決心がつきますか。 | はい | いいえ |
| 3. 大事をとって、実行にひまどりますか。 | はい | いいえ |
| 4. 決心をあとから変えることができますか。 | はい | いいえ |
| 5. 思案するより活動するほうが好きですか。 | はい | いいえ |
| 6. 陰気ですか。 | はい | いいえ |
| 7. 失敗にこりますか。 | はい | いいえ |
| 8. のんきですか。 | はい | いいえ |
| 9. 無口ですか。 | はい | いいえ |
| 10. 感情をすぐおもてに現わしますか。 | はい | いいえ |
| 11. よくはしゃぎますか。 | はい | いいえ |
| 12. 気が変わりやすいですか。 | はい | いいえ |
| 13. 物事にこり固まりますか。 | はい | いいえ |
| 14. しんぼう強いですか。 | はい | いいえ |
| 15. りくつつぼいですか。 | はい | いいえ |
| 16. 議論が過激になりやすいですか。 | はい | いいえ |
| 17. 用心深いですか。 | はい | いいえ |
| 18. 動作がきびきびしていますか。 | はい | いいえ |
| 19. 仕事が綿密ですか。 | はい | いいえ |
| 20. 派手な仕事が好きですか。 | はい | いいえ |
| 21. 仕事に夢中になりますか。 | はい | いいえ |
| 22. 空想家ですか。 | はい | いいえ |
| 23. 潔癖すぎますか。 | はい | いいえ |
| 24. 持ち物をなげやりにしますか。 | はい | いいえ |
| 25. むだ使いが多いですか。 | はい | いいえ |
| 26. 話し好きですか。 | はい | いいえ |
| 27. 気むずかしやですか。 | はい | いいえ |
| 28. じょうだんを言いますか。 | はい | いいえ |
| 29. おだてられやすいですか。 | はい | いいえ |
| 30. 強情ですか。 | はい | いいえ |
| 31. 不満が多いですか。 | はい | いいえ |
| 32. 自分の評判が気にかかりますか。 | はい | いいえ |
| 33. 他人の批判がしたいですか。 | はい | いいえ |
| 34. 自分のことを他人にまかせられますか。 | はい | いいえ |
| 35. 人から指図されるのがいやですか。 | はい | いいえ |
| 36. 人の上に立って、うまく治めてゆくことができますか。 | はい | いいえ |
| 37. 他人の意見をすなおに聞き入れますか。 | はい | いいえ |
| 38. よく気がききますか。 | はい | いいえ |

39. かくし立てをしますか。	はい	いいえ
40. 他人にすぐ同情をしますか。	はい	いいえ
41. 他人を信じすぎますか。	はい	いいえ
42. うらみが忘れられないですか。	はい	いいえ
43. はにかみ屋ですか。	はい	いいえ
44. ひとりぼっちでいるのが好きですか。	はい	いいえ
45. 友だちを作るのに骨がおれますか。	はい	いいえ
46. 人前で平気で話せますか。	はい	いいえ
47. 人目につくところでは、いつも引込んでいますか。	はい	いいえ
48. 意見の違う人とでも気軽につき合ってゆけますか。	はい	いいえ
49. 世話好きですか。	はい	いいえ
50. おしまずに物を与えますか。	はい	いいえ

このうち、全体で50問から成る最後の質問（淡路・岡部式向性検査）は、調査そのものの性質からして、小学生には無理と考え、小学生には実施していない。実施したのは、中学生と高校生だけである。

なお、国立国語研究所の『国民各層の言語生活の実態調査のための委員会(B)』は、昭和38年度に島根県松江市で同市市民の言語生活に関する調査をいくつか実施したが、その際同市の小中高校生を対象に、上に掲げた福島市・梁川町での調査と大部分共通した内容の調査を実施している。そこで、この松江市での調査の結果も、福島市・梁川町での調査結果にあわせて、以下に報告することにする。

2. 調査の対象

A 集計の対象になった子どもの数

福島市と福島県伊達郡梁川町、それに松江市の、それぞれ下記の小中高校の児童生徒計 3,078 名に調査票を配って記入してもらい、それを回収することができた。

(1) 福島市——都市——	男	子	計
福島市立第1小学校5年生全員	100	72	172
" 杉妻小学校 " "	67	50	117
" 清沢小学校 " "	20	13	33
" 第1中学校2年生全員	254	222	476

福島県立福島高等学校 2 年生 3 クラス	156	0	156
" 福島女子高等学校 2 年生 3 クラス	0	153	153
(2) 福島県伊達郡梁川町——農村——			
梁川町立梁川小学校 5 年生全員	97	84	181
" 粟野（あわの）小学校 5 年生全員	43	37	80
" 五十沢（いさざわ）" " "	24	22	46
" 梁川中学校 2 年生全員	246	226	472
福島県立梁川高等学校 2 年生全員	70	186	256
(3) 松江市——都市——			
松江市立津田小学校 5 年生 2 クラス	35	41	76
" 白瀧（しらかた）小学校 5 年生 2 クラス	54	36	90
" 内中原（うちなかはら）小学校 5 年生 2 クラス	50	37	87
" 第 1 中学校 2 年生 2 クラス	52	44	96
" 第 2 中学校 " "	46	43	89
" 第 3 中学校 " "	50	51	101
" 第 4 中学校 " "	47	42	89
島根大学付属中学校 " 1 クラス	26	24	50
島根県立松江南高等学校 2 年生 2 クラス	33	70	103
" 松江商業高等学校 " "	47	61	108
" 松江工業高等学校 " "	47	0	47

計 1,564 1,514 3,078

ただし、この 3,078 名の子ども全部の調査票が集計整理の対象となつたのではない。調査の主たるねらいは子どもが親とのコミュニケーションについてどのような意識をもっているかを明らかにすることにある。したがって、現在両親をとともにもっていない子ども、または、もっていても現在何かの事情でいっしょに生活していない子どもが記入した調査票は、最初から集計整理の対象からはずした方がよい。いわゆる特殊児童が記入した調査票もはずした方がよいだろう。そこで、子どもが調査票の第 1 問（3 ページを見よ）記入した内容とクラス担任の教師からの教示とによってこれらのものを除外すると、第 1 表の

ようになる。以下に述べる調査結果は、これらの子どもの調査票を集計整理した結果である。

第1表 集計整理の対象となった児童生徒数

		男	女	計
福島市	福島1小	93	70	163
	杉妻小・清沢小	79	61	140
	福島1中	239	218	457
	福島高校・福島女子高	153	150	323
梁川町	梁川小	96	81	177
	梁野小・五十沢小	66	57	123
	梁川中	240	218	458
	梁川高	70	182	252
松江市	小	135	109	244
	中	211	194	405
	高	125	127	252
計		1,507	1,467	2,974

なお、杉妻小学校と清沢小学校は、戦後福島市に合併された旧信夫（しのぶ）郡杉妻村にあり、同じ福島市の中でも都市近郊農村的な色彩をかなりの程度残している所を学区とする。一方、福島1小は旧福島市内にあって、福島市の中でも最も都市的な地域を学区としている。そこで、杉妻・清沢二つの小学校は被調査者の数がそれぞれ少ないこともあって、一つにまとめて集計したが、これと福島1小とを合わせて集計することはしなかった。

梁川町の場合も、粟野小学校と五十沢小学校は、戦後梁川町に合併された旧伊達郡粟野村と五十沢村にある。旧梁川町を学区とする梁川小学校に比べれば、同じ梁川町でも、二つの小学校は、ともにより純農村的な地域を学区とする。そこで、この二つは、それぞれ被調査者の数が少ないこともあって、いっしょにして集計した。しかし、梁川小といっしょにはしなかった。

松江市の場合は、小・中・高校いずれもいくつかの学校にわたっているので、これは、小学・中学・高校の三つにまとめた。

B 集計の対象になった子どもの家庭の家族構成

3 ページに掲げた調査票の第1問の記入内容にもとづいて、子どもの家庭の家族構成を調べてみると、第2表に示すような結果になった。

第2表 被調査者の家庭の家族構成

家族構成の類型	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 沼沢小	1中	高校	梁小	野五小 十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
a ₁ 祖父母+父母+きょうだい	10.4	12.9	7.9	4.6	24.3	25.2	15.5	12.3	13.5	9.9	6.0
a ₂ 祖父+父母+きょうだい	7.4	4.3	3.1	1.7	4.0	10.6	4.6	6.3	4.1	2.5	6.3
a ₃ 祖母+父母+きょうだい	13.5	15.7	12.5	8.3	19.2	21.1	20.7	16.7	18.9	14.6	13.9
(a ₁)祖父母+父母	0	0	0.2	0	0.6	0.8	0.4	0	0	0.5	0
(a ₂)祖父+父母	0	0.7	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.4
(a ₃)祖母+父母	0.6	2.9	0.4	1.7	0.6	0	0	0	2.0	1.7	2.0
a ₁ ～(a ₃) 計	31.9	36.5	24.1	16.3	48.7	57.7	41.2	35.3	36.5	29.4	28.6
b 兄よめ・姉むこ+父母	0	1.4	3.5	4.6	1.7	0	7.2	18.7	1.6	3.7	15.5
c 父母+きょうだい	63.2	55.0	63.9	63.6	42.4	39.0	44.5	40.5	52.5	57.0	41.2
d 父母	1.2	5.0	2.8	9.6	2.8	0	2.0	3.6	2.5	4.0	5.6
e 母+きょうだい	0	2.1	4.4	4.3	2.8	3.3	3.9	1.6	2.9	4.7	4.4
f 母	0	0	0.2	1.7	1.1	0	0	0	1.6	0.7	3.6
g 父+きょうだい	0	0	1.1	0	0.6	0	1.1	0.4	0.4	0.5	1.1
h 父	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	163 (100,0)	140 (100,0)	457 (100,0)	303 (100,0)	170 (100,0)	123 (100,0)	458 (100,0)	252 (100,0)	244 (100,0)	405 (100,0)	252 (100,0)

この表を見て、いくつか気づくことをあげれば、次のようになる。

① a₁～(a₃)の3世代家族は、小・中・高校いずれの場合も、福島・松江が少なく、梁川が多い。これに対して、c・dの2世代家族は、小・中・高校いずれの場合も、福島が多く、梁川が少ない。松江も、小・中学は50%台が多いが、高校だけが41.2%と少ない。いずれにせよ、これは都市と農村の家族構成のちがいを示している。

② きょうだいがなくて、子どもは本人だけという家庭((a₁)・(a₂)・(a₃)・d・f・h)は、福島・梁川・松江の別、それに小・中・高校の別を問わず、

非常に少ない。もっとも、福島・梁川・松江の高校のdがそれぞれ9.6%・3.6%・5.6%と、小・中学校に比して若干多い。これは本人が高校生であるだけに、そのきょうだいに成人が多く、それだけ遊学・就職・結婚などによって現在いっしょに生活していない兄や姉があるためであろう。

③ 片親だけの欠損家庭(d・e・f・g・h)は非常に少ない。特に父と本人だけというhの類型は皆無である。これは、おそらく配偶者をなくした男性は、同じく配偶者をなくした女性よりも、再婚の機会をより多くつかんでいるということを物語っているであろう。

④ 兄よめまたは姉むこが同じ家族の成員であるというbの類型は、福島・梁川・松江のいずれの場合も非常に少ない。強いていえば、福島・梁川・松江のいずれも高校生の場合が多い(梁川と松江が特にそうである)。これも②の場合と同じで、本人が高校生であるだけに、兄や姉の年齢が小・中学生の場合よりも相対的に高いためであろう。

C 集計の対象になった子どもの家庭の職業

3ページに掲げた第1問の記入内容にもとづいて、子どもの家庭の職業を調べてみると、第3表に示すような結果になった。ここで農家というのは、(1)、父母がともに農業か、(2)父が農業、母が無職、のどちらかの場合をさす。父母以外の家族成員の職業は問わない。父母のどちらかが農業以外の職業についている場合は、農家としないで、「その他」にまわした。また、ここで「俸給生

第3表 子どもの家庭の職業構成

(1) 福島市

	1 小			衫 妻 小 清 沢 小			1 中			高 校		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
農 家	0	0	0	15	14	29	25	21	46	13	10	23
	0	0	0	19.0	23.0	20.7	10.5	9.6	10.0	8.5	6.7	7.6
俸 給 生 活 者	40	40	80	41	30	71	100	112	212	82	96	178
	43.0	57.1	49.1	51.9	49.2	50.7	41.8	51.4	46.4	53.6	64.0	58.7
商 家	30	21	51	3	4	7	36	31	67	21	21	42
	32.3	30.0	31.3	3.8	6.6	5.0	15.1	14.2	14.7	13.7	14.0	13.9
そ の 他	23	9	32	20	13	33	78	54	132	37	23	60
	24.7	12.9	19.6	25.3	21.3	23.6	32.6	24.8	28.9	24.2	15.3	19.8
計	93	70	163	79	61	140	239	218	457	153	150	303

(ロ) 梁川町

	梁 小			粟野小 五十沢小			梁 中			高 校		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
農 家	29 30.2	25 30.9	54 30.5	52 78.8	43 75.4	95 77.2	141 58.8	143 65.6	284 62.0	37 52.9	122 67.0	159 63.1
俸給生活者	16 16.7	18 22.2	34 19.2	3 4.5	2 3.5	5 4.1	22 9.2	13 6.0	35 7.6	7 10.0	20 11.0	27 10.7
商 家	10 10.4	9 11.1	19 10.7	1 1.5	0 0	1 0.8	23 9.6	14 6.4	37 8.1	6 8.6	12 6.6	18 7.1
そ の 他	41 42.7	29 35.8	70 39.5	10 15.2	12 21.1	22 17.9	54 22.5	48 22.0	102 22.3	20 28.6	28 15.4	48 19.0
計	96	81	177	66	57	123	240	218	458	70	182	252

(ハ) 松江市

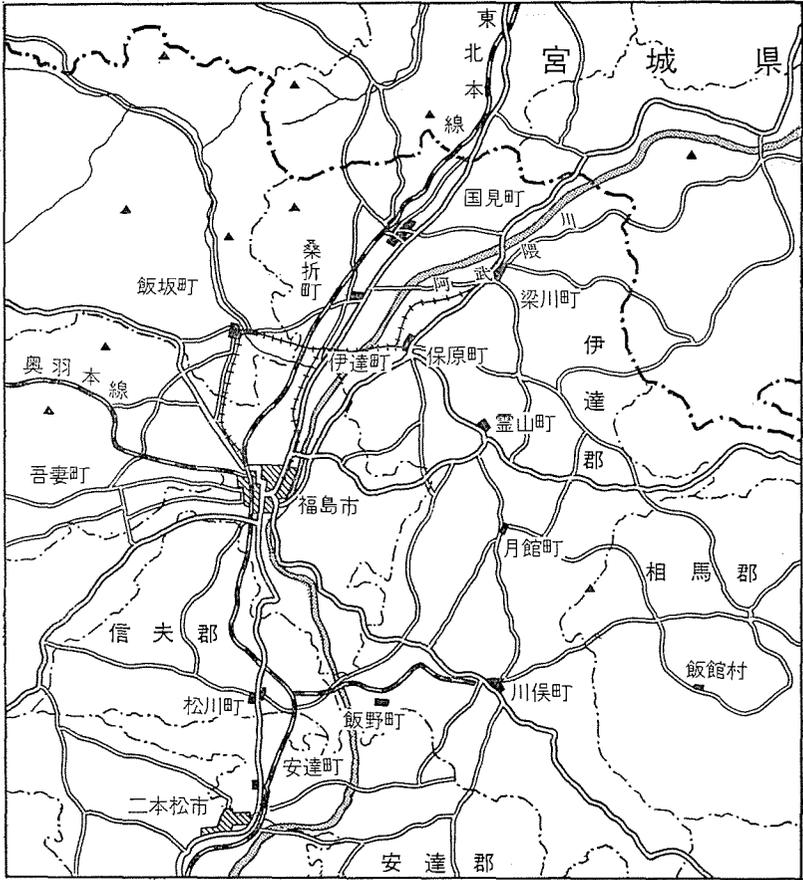
	小 学			中 学			高 校		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
農 家	8 5.9	10 9.2	18 7.4	26 12.3	28 14.4	54 13.3	23 18.4	27 21.3	50 19.8
俸給生活者	25 18.5	23 21.1	48 19.7	100 47.4	83 42.9	183 45.2	38 30.4	45 35.4	83 32.9
商 家	73 54.1	54 49.5	127 52.0	26 12.3	27 13.9	53 13.1	23 18.4	21 16.5	44 17.5
そ の 他	29 21.5	22 20.2	51 20.9	59 28.0	56 28.9	115 28.4	41 32.8	34 26.8	75 29.8
計	135	109	244	211	194	405	125	127	252

備考：各欄の下の数字は、最下段の欄の数字を100とする百分比。

「活者」というのは、(1) 両親がともに俸給生活者か、(2) 父が俸給生活者、母が無職、のどちらかの場合をさす。父母のどちらかが自営業である場合は、「その他」にまわした。父母以外の家族成員の職業は問わない。これは「農家」の場合と全く同じ。「商家」も、この「農家」「俸給生活者」の場合に準じている。

なお福島市・梁川町・松江市の昭和35年における産業(大分類)別・職業(大分類)別15才以上就業者数は、第4表・第5表に示すとおりである。

梁川町は、福島市の東北約18kmの所にある面積約82.5km²・人口約2万5千の町である(次ページの地図を参照)。第3・4・5表を見ればわかるように、福島市や松江市に比べれば、ずっと農村的色彩の強い町である。



第4表 職業（大分類）別15才以上就業者数

(昭和35年国勢調査)

	福 島 市	梁 川 町	松 江 市
総 数	61,740 100.0	12,735 100.0	49,454 100.0
I 専門的・技術的職業従事者	4,480 7.3	380 3.0	3,954 8.0
II 管理的職業従事者	1,659 2.7	96 0.8	1,491 3.0
III 事務従事者	9,433 15.3	392 3.1	8,222 16.6
IV 販売従事者	8,108 13.1	850 6.7	6,459 13.1
V 農林・漁業従事者	15,168 24.6	8,599 67.5	13,356 27.0
VI 採鉱・採石従事者	80 0.1	16 0.1	39 0.1
VII 運輸・通信従事者	2,485 4.0	153 1.2	1,806 3.7
VIII 技能工・生産工程従事者および単純労働者	14,906 24.1	1,994 15.6	10,159 20.5
IX サービス職業従事者	5,419 8.8	253 2.0	3,965 8.0
X 分類不能の職業	2 0	2 0	3 0

備考：各欄の下の数字は、総数に対する百分比。

第5表 産業（大分類）別15才以上就業者数

(昭和35年国勢調査)

	福 島 市	梁 川 町	松 江 市
総 数	61,740 100.0	12,735 100.0	49,454 100.0
I 農 業	15,020 24.3	8,588 67.4	12,802 25.8
II 林業・狩猟業	270 0.4	7 0.1	107 0.2
III 漁業・水産養殖業	8 0	3 0	531 1.1
IV 鉱 業	154 0.2	20 0.2	48 0.1
V 建 設 業	3,268 5.3	377 3.0	2,617 5.3
VI 製 造 業	9,231 15.0	1,339 10.5	5,465 11.1
VII 卸売業・小売業	12,593 20.4	1,089 8.6	10,602 21.4
VIII 金融・保険・不動産業	1,735 2.8	68 0.5	1,868 3.8
IX 運 輸 ・ 通 信 業	3,998 6.5	183 1.4	2,460 5.0
X 電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	638 1.0	10 0.1	580 1.2
XI サ ー ビ ス 業	10,358 16.8	903 7.1	8,981 18.2
XII 公 務	4,462 7.2	146 1.2	3,390 6.9
XIII 分類不能の産業	5 0	2 0	3 0

備考：各欄の下の数字は、総数に対する百分比。

3. 調査の実施

調査は、それぞれの学校の教室で児童生徒に調査票を配布し、その場で記入してもらって、それを回収するという方法をとった。なお小中学生については、調査者が一問ずつ読んで、その都度記入に必要な事項を教示してから、子どもたちに記入してもらい、それがすんだら次の設問に進むというふうにした。福島市と梁川町での調査は、昭和39年11月9日から13日までの間に学校別・クラス別に実施した。同じく松江市での調査は、中・高校は昭和38年10月2日から

5日までの間に、小学校は昭和39年3月10・11日の両日に実施した。

4. 調査の担当者

福島市と梁川町での調査は、当時第2研究部言語効果研究室に所属していた林四郎（現第4研究部長）・高橋太郎（現同研究室長）・渡辺友左（現第4研究部第2資料研究室）の3名が共同であったり、松江市での調査は、当時松江市での調査の委員会に所属していた委員のうち齊賀秀夫（現第3研究部長）と渡辺友左の両名があたった。このうち渡辺が調査の最初の企画の段階から最後の集計整理の段階まで主として従事した。研究補助員屋久茂子と中島美智子が一部作業を助けた。

調査結果のあらまし

1. 子どもは困ったことの相談を家族のだれにしたいと思っているか

〔第22問〕 こまったことがあったとき、あなたは、ふつう家族の中で、だれに最初に相談したいと思いますか。

A 学校別および学校×男女別にみた場合

子どもは、困ったことがあったとき、家族のだれに最初に相談したいと思っているか。このことを上記の質問文で聞いてみた。

子どもの回答をまず学校別、さらにそれを男女別に集計してみると、第6表(イ)(ロ)の二つの表に示すような結果になる。いずれも無答を除く。

表中各欄の数字の読みかたを説明する。たとえば、(イ)表で福島1小の父の欄にある13.0という数字は、最初に相談する相手として調査票に記入された父親の数が父親全体の数の13.0%をしめているということを表わしている。

3ページに掲げた調査票の第1問の記入内容を整理することによって、わたしたちは、子どもの家庭の成員別総数をかぞえだすことができる。第7表(イ)(ロ)(ハ)の三つの表がそれである。たとえば、福島1小の93人の男子は、全体で父を91人、母を93人、祖父を16人、祖母を23人、兄を40人……もっているという具合である。第6表(イ)(ロ)の表中各欄の数字は、最初に相談する相手として記入した家族成員の数がこの第7表(イ)(ロ)(ハ)のそれぞれの成員別総数に対してしめる百分比を表わしている。

この百分比を以下選択率と呼ぶことにする。この第22問では、この選択率が大きいものほど、子どもの最初の相談相手に選ばれることが多く、反対にこの選択率がゼロに近いものほど、最初の相談相手には選ばれることが少ないということを示す。

なお念のため、第6表(ロ)の読みかたを説明しておく、各欄ともに上段の数字は男子の選択率、下段の数字は女子の選択率である。以下これと類似の形式をとった表がたくさん現われるが、読みかたは、すべてこれに準ずる。

第6表 こまったことがあったとき、あなたは、ふつう、家族のなかで、だれに最初に相談したいと思いますか。

(イ) 学校別

(単位：パーセント)

相談する相手	福島市				梁川町				松江市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
父	13.0	21.2	9.3	11.3	20.0	28.6	15.9	9.5	21.0	11.7	7.6
母	75.5	64.3	71.0	72.9	72.7	67.5	67.9	74.2	67.9	61.2	66.7
祖父	0	0	0	5.0	2.0	2.2	2.0	2.0	4.7	1.9	0
祖母	7.5	9.1	7.1	0	10.0	1.7	6.3	4.8	12.9	14.8	1.8
兄	9.4	3.8	10.1	10.4	4.3	1.2	5.9	6.5	11.5	10.6	8.9
姉	9.1	12.8	17.0	9.6	9.7	5.7	13.1	28.6	13.3	17.3	29.7
弟	5.8	1.5	1.9	0.6	1.5	0	1.1	0	0	3.7	0
妹	5.9	0	1.0	1.5	3.8	0	0.4	2.2	2.6	1.2	1.7
兄よめ	0	0	0	0	0	0	9.7	7.3	0	0	0
姉むこ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(ロ) 学校×男女別

(単位：パーセント)

相談する相手	福島市				梁川町				松江市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
父	15.4	26.3	11.8	12.9	19.6	34.9	19.1	19.1	20.2	17.6	13.2
	10.0	14.8	6.4	9.9	20.5	7.7	5.7	5.7	22.1	5.2	2.4
母	69.9	64.6	62.6	69.9	70.5	62.1	69.6	69.6	64.2	57.3	57.1
	82.9	63.9	80.1	76.0	75.3	74.3	76.0	76.0	72.5	65.5	76.0
祖父	0	0	0	10.0	4.0	4.0	9.1	9.1	4.0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	5.6	2.9	0
祖母	13.0	13.0	13.2	0	9.5	0	0	0	12.8	21.2	4.2
	0	4.8	0	0	10.5	8.0	6.2	6.2	13.2	8.9	0
兄	12.5	6.5	15.3	10.0	7.0	1.9	11.6	11.6	14.9	13.0	15.3
	6.7	0	4.5	10.8	2.1	0.8	4.2	4.2	7.1	6.8	1.9
姉	8.5	2.5	14.7	5.9	12.5	6.4	10.0	10.0	16.2	11.9	25.0
	10.5	21.7	19.8	16.7	7.0	20.7	37.7	37.7	10.2	23.0	32.8
弟	8.8	2.4	3.6	0	2.9	0	0	0	0	4.0	0
	0	0	0	1.2	0	0.8	0	0	0	3.5	0
妹	4.0	0	0	0	5.6	0	0	0	0	0	1.4
	7.7	0	1.9	2.7	2.4	0.8	2.9	2.9	5.3	2.1	2.2
兄よめ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	10.5	10.7	10.7	0	0	0
姉むこ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

備考：各欄とも上に男子，下が女子。

第7表 家族の成員別総数

(イ) 福島市

	1 小			杉妻小 清沢小			1 中			高 校		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
父	91	70	161	76	61	137	229	203	432	140	142	282
母	93	70	163	79	61	140	235	216	451	153	150	303
祖 父	16	13	29	14	11	25	26	26	52	10	10	20
祖 母	23	17	40	23	21	44	53	46	99	22	24	46
本 人	93	70	163	79	61	140	239	218	457	153	150	303
兄	40	45	85	46	33	79	117	111	228	40	37	77
姉	47	30	77	40	46	86	136	111	247	68	36	104
弟	34	18	52	42	26	68	112	98	210	73	82	155
妹	25	26	51	22	20	42	86	106	192	58	75	133
兄よめ	0	0	0	2	0	2	9	7	16	7	5	12
姉むこ	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	2

(ロ) 梁川町

	梁 小			粟野小 五十沢小			梁 中			高 校		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
父	92	78	170	63	56	119	226	209	435	68	175	243
母	95	81	176	66	57	123	234	214	448	69	179	248
祖 父	25	26	51	25	20	45	50	48	98	11	38	49
祖 母	42	38	80	34	24	58	88	87	175	19	65	84
本 人	96	81	177	66	57	123	240	218	458	70	182	252
兄	43	49	92	52	31	83	147	125	272	43	95	138
姉	56	57	113	47	40	87	139	129	268	30	61	91
弟	34	31	65	33	28	61	132	133	265	38	125	163
妹	36	42	78	22	29	51	112	132	244	33	102	135
兄よめ	1	1	2	0	0	0	12	19	31	13	28	41
姉むこ	1	0	1	0	0	0	1	1	2	0	6	6

(イ) 松江市

	小 学			中 学			高 校		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
父	129	104	233	210	193	403	114	124	238
母	134	109	243	220	203	423	126	129	255
祖 父	25	18	43	19	34	53	19	13	32
祖 母	47	38	85	52	56	108	24	32	56
本 人	135	110	245	221	204	425	127	131	258
兄	74	56	130	115	74	189	59	53	112
姉	76	59	135	118	113	231	40	61	101
弟	43	42	85	101	86	187	57	75	132
妹	38	38	76	69	96	165	70	45	115
兄 よ め	2	2	4	7	3	10	18	19	37
姉 む こ	0	0	0	1	4	5	0	2	2

第6表(イ)(ロ)の二つの表から、次のことがわかる。

(1) 福島・梁川・松江の小中高校の別、それに男女の別のいずれを問わず、母親の選択率は、母親以外（父親を含め）の選択率に比してはるかに高い。試みに父親の選択率とだけ比較してみよう。母親の選択率から父親の選択率を差引いてみると、第8表のようになる。男女をこみにした全体では、どの学校で

第8表 母親の選択率－父親の選択率

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
全 体	62.5	43.1	61.7	61.6	52.7	38.9	57.0	64.7	46.9	49.5	59.1
男 子	54.5	38.3	50.8	57.0	50.9	27.2	38.5	50.5	44.0	39.7	43.9
女 子	72.9	49.1	73.7	66.1	54.8	52.3	66.6	70.3	50.4	60.3	73.6

も母親の選択率と父親の選択率の間には大体40%から65%におよぶ大きな開きがある。

(2) ただし、母親と父親の選択率を男女別にみると、その間には次の二つの違いがある。

(a) 母親の選択率では女子が男子よりも高く、父親の選択率では男子が女子

よりも高い。つまり相対的のことではあるが、男子→父親の結びつきは女子→父親の結びつきよりも強く、反対に男子→母親の結びつきは女子→母親の結びつきよりも弱い。ただし、これには母親の場合杉妻小・清沢小に、父親の場合梁川小と松江小学の二つに、それぞれ例外がある。(第6表(ロ))

(b) 母親の選択率と父親の選択率との間にある開きは、どの学校でも女子のほうが男子よりも大きい。これには例外がない。つまり、どの学校でも子ども→母親の結びつきは、子ども→父親の結びつきよりも強いが、その強さの程度は男子よりも女子の場合のほうがいちじるしいのである。(第8表)

(3) 祖父・祖母の選択率は、概して非常に低い。祖父と祖母とを比較すれば、福島の高校と粟野小・五十沢小の二つを除けば、あとはすべて祖父のほうが祖母よりも低い。(第6表(イ))

これを男女別にみると、祖父の選択率が祖母の選択率よりも高いのは、女子の場合には1例もなく、男子の場合には福島高、粟野小・五十沢小、梁川高の3例があるだけである。それ以外は、すべて祖母の選択率が祖父の選択率よりも高いか、または両者ともにゼロのいずれかである。(第6表(ロ))

つまり、祖父と祖母とでは、しいていえば、祖父のほうが祖母よりも敬遠される傾向がある。そして、このことは、男子よりも女子のほうにより一貫した傾向となって現われているということになる。

(4) 兄弟姉妹の選択率をみると、次のことがわかる。

(a) どの学校でも、兄・姉の選択率のほうが弟・妹の選択率よりも高い。

(第6表(イ))

(b) 男女別にみると、まず兄の選択率では、福島高の1例を除いてあとは、すべて男子のほうが女子よりも高い。いっぽう姉の選択率は、梁小、粟野小・五十沢小、松江小学の三つを除いて、ほかはすべて女子のほうが男子よりも高い。弟の選択率では、男子が女子よりも高い例が6例。これに対して、女子よりも低い例は1例しかない。妹の選択率では、女子が男子よりも高い例は8例。その反対に男子よりも低い例は1例しかない。

つまり、以上のことを総合すると、年齢的には年下よりも年上のきょうだい、男女別には異性のきょうだいよりも同性のきょうだいの選択率のほうが高くな

る傾向がある。同性・異性のきょうだいの中にみられるこの傾向は、父親・母親に対する男子・女子の選択率の場合と共通するところがある。(2)(a)を参照)

(5) 兄よめ・姉むこの選択率は、全く低い。ともにほとんどすべてがゼロである。特に姉むこは、男女の別を問わずどの学校でもゼロである。

(6) 子どもの回答が都市(福島・松江)と農村(梁川)の違いによって小中高校ともに傾向的に違うということは、あまり認められない。

B 職業別にみた場合

調査票の第1問に子どもが記入した内容にしたがって、子どもの家庭の職業を大づかみに分類すると、14ページに掲げた第3表のようになる。どの学校も農家・俸給生活者・商家の数の分布に大きなかたよがりがある。そこでこの中から福島1中と梁川中学・松江中学の三つだけについてその選択率をみると、第9表のようになる。なお、家族の成員別総数は、第10表に示すとおりである。

第9表 こまったことがあったとき、あなたは、ふつう、家族の中で、だれに最初に相談したいと思いますか。(単位：パーセント)

	福 島 1 中			梁 川 中 学			松 江 中 学		
	農 家	俸給生 活者	商 家	農 家	俸給生 活者	商 家	農 家	俸給生 活者	商 家
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
父	22.7	12.1	14.3	21.0	45.0	28.6	19.2	15.6	16.7
	4.8	7.5	0	8.6	9.1	0	3.6	3.0	14.0
母	66.7	66.0	48.6	60.9	68.2	56.5	60.2	61.0	61.5
	90.5	78.4	87.1	72.1	69.2	85.7	64.3	73.5	66.7
祖 父	0	0	0	5.0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0
祖 母	33.3	0	30.0	6.3	0	0	7.7	14.3	0
	0	0	0	10.4	0	0	5.3	0	25.0
兄	0	24.2	6.3	7.0	0	22.2	10.0	16.2	14.8
	5.0	6.5	5.3	0	0	0	0	0	10.0
姉	6.7	14.8	20.0	6.7	0	0	5.3	5.7	33.3
	12.5	25.0	5.9	20.2	28.6	37.5	29.4	32.4	14.3
弟	7.1	4.9	6.3	1.1	0	0	0	12.9	0
	0	0	0	1.1	0	0	0	3.1	0
妹	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	3.5	0	0	0	11.1	0	4.5	0
兄よめ	0	0	0	11.1	0	0	0	0	0
	0	0	0	13.3	0	0	0	0	0
姉むこ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第10表 家族の成員別総数

	福 島 1 中			梁 川 中 学			松 江 中 学			
	農 家	僱給生 活者	商 家	農 家	僱給生 活者	商 家	農 家	僱給生 活者	商 家	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
父	22	99	35	138	20	21	26	96	24	
	21	107	28	140	11	14	28	78	26	
母	24	100	35	138	22	23	26	100	26	
	21	111	31	140	13	14	28	83	27	
祖 父	8	7	3	40	3	3	6	6	1	
	8	11	6	39	3	1	14	9	5	
祖 母	9	18	10	64	3	8	13	21	4	
	8	19	7	67	3	5	19	19	8	
本 人	25	100	36	141	22	23	26	100	26	
	21	112	31	143	13	14	28	83	27	
兄	14	33	19	86	9	18	17	37	27	
	20	46	16	87	7	6	10	26	10	
姉	15	61	15	90	7	15	19	53	12	
	8	56	17	89	7	8	17	37	14	
弟	14	41	16	91	8	10	17	31	20	
	9	53	11	93	4	4	13	32	9	
妹	10	37	14	68	14	6	7	30	7	
	15	57	10	88	8	9	18	44	19	
兄よめ	4	0	1	9	0	0	2	1	2	
	2	2	3	15	1	1	1	2	0	
姉むこ	0	0	0	1	0	0	0	1	0	
	0	2	0	1	0	0	1	0	3	

学校別および学校×男女別にみた場合にうかがうことができた傾向（23ページ）は、職業別にみた場合にも、ほぼ同じ形で現われている。しかし福島・梁川・松江の三つを通じて、子どもの回答が職業の違いによって共通的に異なるということはない。

- (1) どの職業でも、男女の別を問わず、母親の選択率が最も高い。
- (2) ただし、どの職業でも母親の選択率では女子が男子よりも高く、反対に父親の選択率では男子が女子よりも高い。
- (3) 母親の選択率と父親の選択率との間にある開きは、どの職業でも女子のほうが男子よりも大きい。
- (4) 祖父・祖母の選択率は低い。とりわけ祖父の選択率は祖母の選択率よりも低い。

(5) 概して兄弟の選択率は、弟妹の選択率よりも高い。同じく、概して同性のきょうだいの選択率のほうが異性のきょうだいの選択率よりも高い。

(6) 兄よめ・姉むこの選択率は非常に低い。

2. 子どもにとって話しやすい相手・話しにくい相手はだれか

[第32問] (A) 家族の中で、あなたがいちばん話しやすいと思う人は、だれですか。.....

(B) 反対に、家族の中で、いちばん話のしにくいと思う人は、だれですか。
.....

A 学校別および学校×男子別にみた場合

上の設問に対する子どもたちの回答を集計整理して、まず学校×男女別にその選択率を求めてみると、次の第11・第12表の二つに示すとおりになる。無答

第11表 家族の中で、あなたがいちばん話のしやすいと思う人は、だれですか。

(単位：パーセント)

話し やすい 相手	福 島 市				梁 川 町			
	1 小		1 中		1 小		1 中	
	男	女	男	女	男	女	男	女
父	12.1	22.4	7.9	2.1	22.8	25.4	14.6	5.9
	10.0	18.0	5.9	4.2	20.5	25.4	7.7	4.6
母	49.5	46.8	51.1	48.4	38.9	31.8	40.2	58.0
	54.3	50.8	53.7	72.7	56.8	57.9	52.3	58.1
祖父	0	0	4.5	0	0	8.0	6.0	18.2
	0	0	0	0	0	0	2.1	5.3
祖母	4.3	4.3	15.1	4.5	21.4	5.9	15.9	15.8
	0	4.8	2.2	0	7.9	12.5	11.5	12.3
兄	30.0	15.2	23.1	12.5	23.3	30.8	17.7	11.6
	20.0	3.0	9.0	10.8	8.5	12.9	5.6	8.4
姉	10.6	12.5	20.6	11.8	21.4	6.4	12.9	16.7
	36.7	28.3	34.2	30.6	12.3	17.5	32.6	34.4
弟	35.3	33.3	18.7	16.4	20.6	12.2	23.5	13.2
	33.3	7.7	6.1	8.5	16.1	14.3	10.5	3.2
妹	24.0	27.3	10.5	19.0	5.6	63.6	9.8	9.1
	30.8	20.0	22.6	5.3	14.3	13.8	15.2	18.6
兄よめ	0	0	0	0	0	0	8.3	0
	0	0	0	0	0	0	5.3	3.6
姉むこ	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0

第12表 反対に、家族の中で、いちばん話のしにくいと思う人は、だれですか。

(単位：パーセント)

話 し に 相 く 手	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
父	35.2	35.5	43.2	35.7	28.3	23.8	37.2	42.6
	34.3	39.3	44.3	40.1	34.6	23.1	45.9	40.6
母	4.3	13.9	4.7	0.7	10.5	9.1	5.1	4.3
	0	8.2	4.2	0	4.9	7.0	6.1	3.4
祖 父	18.8	28.6	26.9	20.0	36.0	44.0	22.0	0
	46.2	45.5	38.5	40.0	53.8	4.0	29.2	26.3
祖 母	17.4	4.3	17.0	22.7	19.0	17.6	13.6	5.3
	29.4	28.6	17.4	8.3	10.5	25.0	3.4	15.4
兄	22.5	19.6	16.2	27.5	18.6	3.3	13.6	11.6
	15.6	21.2	25.2	16.2	12.8	35.5	24.0	20.0
姉	25.5	22.5	12.5	5.9	19.6	23.4	10.1	13.3
	0	0	10.8	2.8	12.3	12.5	3.1	6.6
弟	5.9	14.3	2.7	1.4	2.9	3.0	1.5	2.6
	0	11.5	3.1	3.7	6.5	10.7	3.0	0
妹	0	13.6	8.1	1.7	11.1	18.2	3.6	3.1
	0	20.0	0	5.3	9.5	3.4	0	2.0
兄よめ	0	0	11.1	14.3	0	0	50.0	38.5
	0	0	14.3	0	0	0	15.8	17.9
姉むこ	0	0	0	0	0	0	10.0	0
	0	0	0	0	0	0	0	50.0

を除く。(松江ではこの設問はやっていない。)

この二つの表から次のことがわかる。

(1) 家族の中で、子どもが最も話しやすいと意識している相手は、母親である。これは、どの学校の、男女どちらの場合でもそうであって、例外がない。母親の話しやすい選択率は非常に高く、話にくい選択率は非常に低い。

しかし、男女の間には次のような違いがある。話しやすい選択率では、どの学校でも女子が男子よりも高い。これに対して、話にくい選択率では、梁川中を除いて、ほかは、どの学校も男子が女子よりも高い。

(2) 父親の選択率は、母親の選択率と対照的である。母親と比べると、どの学校の、男女どちらの場合でも、話しやすい選択率は母親よりもずっと低いし話にくい選択率はずっと高い。また、男女別にみると、話しやすい選択率で

は、福島高校を除いて、あとはすべて男子のほうが女子よりも高く、話しにくい選択率では、8例中5例までが男子のほうが女子よりも低い。

つまり、母親がより話しやすく、父親がより話しにくい相手である、と子どもは意識している。このことは、男子の場合も女子の場合も同じである。しかし、それでも母親を話しやすいと意識する傾向は男子よりも女子の側に強く、
反対に、父親を話しやすいと意識する傾向は、わずかであるが、女子よりも男子の側に強い。

(3) 小・中・高校間の比較をすると、父親の話しやすい選択率は、福島・梁川の男女ともに、上級学校に行くほど低くなっていく傾向がある。話しにくい選択率が、これと逆の傾向、つまり上級学校に行くほど、それが高くなっていく傾向がはっきり現われていれば、おもしろい。しかし第12表をみると、必ずしもそうではない。

(4) 祖父・祖母の話しやすい選択率は、どの学校でも男女ともに低い。特に祖父の話しやすい選択率は非常に低い。

男女別にみると、祖父・祖母の話しやすい選択率は、概して男子のほうが女子よりも高い。話しやすい選択率で女子が男子よりも高い例は、祖父の場合には1例もなく、祖母の場合にはわずかに2例あるだけである。いっぽう話しにくい選択率で、女子が男子よりも高い例は、祖父の場合には8例のうち7例、祖母の場合には8例のうち5例である。

つまり、祖父母（とりわけ祖父）と子ども（孫）の間のコミュニケーションは、子ども（孫）の側の意識からすれば、親と子のコミュニケーションに比して、かなり大きな断層があることになる。そしてこれは男子（孫むすこ）よりも女子（孫むすめ）の場合のほうがより顕著である。（これは、もちろんどこまでも相対的にいってのことである。絶対的な意味のことではない。）

(5) きょうだいの話しやすい選択率を男女別にみると、兄と弟の場合は、概して男子が女子よりも高く、姉と妹の場合は、概して女子が男子よりも高い。

まず兄の場合、選択率は8例ともに男子が女子よりも高い。これに対して、姉の場合は、梁小を除いて、あとはすべて女子が男子よりも高い。妹の場合は杉妻小・清沢小と福島高校の二つを除いて、あとはすべて女子が男子よりも高

い。(以上、第11表)

きょうだいの話しにくい選択率を男女別にすると、兄・弟ともに、8例中5例までが男子より女子のほうが高い。これに対して、姉は8例がすべて女子よりも男子のほうが高い。妹も8例中5例までが女子よりも男子のほうが高い。

(以上 第12表)

(6) 以上のことを総合すると、概略的・相対的に言っていることではあるが、子どもは異性の家族成員よりも同性の家族成員をより話しやすいと意識していることがわかる。

(7) 地域によるはっきりした違いはない。福島と梁川の比較をすると、父の話しやすい選択率は、小中高校の男女ともに梁川のほうが高い。祖父母の話しやすい選択率も、小中高校の男女とも梁川のほうが高い傾向にある。しかし、そのほかは、小中高校の男女のどちらにも共通している地域的な違いはない。

なお、男女をこみにして、話しやすい選択率と話しにくい選択率を示すと、第13表のようになる。表中、各欄の左上の数字は話しやすい選択率、右下の数字は話しにくい選択率である。また、試みに二つの選択率の差を求めてみると、第14表のようになる。この二つの表から、ごく大ざっぱに言って、子どもにとって、話しやすい相手は母・弟・妹・姉、とりわけ母。これに対して、話しにくい相手は父・祖父・祖母、それに兄よめ・姉むこ、とりわけ父と祖父がそうである……などの事がわかるだろう。

第13表 (A) 家族の中で、あなたがいちばん話のしやすいと思う人は、だれですか。

(B) 反対に、家族の中で、いちばん話のしにくいと思う人はだれですか。

(全体)

(単位：パーセント)

話し相手の手	福 島 * 市					梁 川 町						
	1 小		杉妻小 清沢小	1 中		梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中		高 校		
	A	B	A	A	B	A	A	B	A	B		
父	11.2		20.4		6.9		3.2		21.8	25.2	11.3	4.9
	34.8		37.2		43.8		37.9		31.2	23.5	41.4	41.2
母	51.5		48.6		52.3		60.4		47.2	43.9	46.0	58.1
	2.5		11.4		4.4		0.3		8.0	8.1	5.6	3.6
祖 父	0		0		5.8		0		0	4.4	4.1	8.2
	31.0		36.0		32.7		30.0		45.1	42.2	25.5	20.4
祖 母	2.5		4.5		4.1		2.2		15.0	8.6	13.7	13.1
	22.5		15.9		17.2		15.2		15.0	20.7	8.6	13.1
兄	24.7		10.7		16.2		11.7		15.2	24.1	12.1	9.4
	18.8		20.3		20.6		22.1		15.2	15.7	18.4	17.4
姉	20.8		20.9		26.7		17.3		16.8	11.5	22.4	28.6
	15.6		10.5		11.7		4.8		15.9	18.4	6.7	8.8
弟	34.6		23.5		12.9		12.2		18.5	14.8	17.0	5.5
	3.8		13.2		2.9		2.6		4.6	6.6	2.2	0.6
妹	27.5		23.8		17.2		11.3		10.3	13.7	12.7	16.3
	0		16.7		3.6		3.8		10.3	7.8	1.6	2.2
兄よめ	0		0		0		0		0	0	6.5	2.4
	0		0		12.5		8.3		0	0	29.0	24.4
姉むこ	0		0		0		0		0	0	0	0
	0		0		0		0		0	0	50.0	50.0
無 答	6.1		3.6		9.6		6.9		10.2	4.1	6.3	6.7
	16.0		5.7		12.9		19.5		22.6	13.8	10.5	10.7

第14表 話しやすい選択率—話しにくい選択率

(単位：パーセント)

話し相手	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	栗野小 五十沢小	梁 中	高 校
父	-23.6	-16.8	-36.9	-34.7	-9.4	1.7	-30.1	-36.3
母	49.0	37.2	47.9	60.1	39.2	35.8	40.4	54.5
祖 父	-31.0	-36.0	-26.9	-30.0	-45.1	-37.6	-21.4	-12.2
祖 母	-20.0	-11.4	-8.1	-13.0	0	-12.1	5.1	0
兄	5.9	-9.6	-4.4	-10.4	0	8.4	-6.3	-8.0
姉	5.2	10.4	15.0	12.5	0.9	-6.9	15.7	19.8
弟	30.8	10.3	10.0	9.6	13.9	8.2	14.8	4.9
妹	27.5	7.1	13.6	7.5	0	3.9	11.1	14.1
兄よめ	0	0	-12.5	-8.3	0	0	-22.5	-22.0
姉むこ	0	0	0	0	0	0	-50.0	-50.0

B 職業別にみた場合

福島1中と梁川中学の生徒の回答を職業別にみたが、どちらも職業の違いによる傾向的な違いは、あまり現われていない。(紙幅の都合で報告は省略。)

3. 家庭で子どもがよく話す相手・話さない相手はだれか

家庭で子どもが話しやすいと思っている相手・話しにくいと思っている相手はだれか。これは前節でみたとおりである。それでは、毎日の生活で子どもが実際によく話している相手・話をしていない相手はだれか。これを次の設問によって聞いてみよう。

[第21問]

- (A) 家族の中で、あなたがふだんいちばん多く話をする相手のかたはだれですか。.....
- (B) その次に、あなたが多く話をする相手のかたは、だれですか。.....
- (C) 反対に、話をするのがいちばん少ないと思う相手のかたは、だれですか。.....
- (D) その次に、少ないと思う相手のかたは？.....

A 学校別にみた場合

これに対する子どもの回答を集計した結果は、第15・16表の二つの表に示すとおりである。表の読みかたを説明すると、まず第15表の各欄の左上の数字は、第21問(A)のいちばん多く話をする相手としての選択率と(B)のその次に多く話をする相手としての選択率とを合わせたものである。これに対して各欄の右下の数字は、21問(C)の話すことがいちばん少ない相手としての選択率と(D)のその次に少ない相手としての選択率とを合わせたものである。(A)(B)(C)(D)の各問の選択率を個別に表示することは、紙幅の都合で省略。)

第16表の各欄の数字は、第15表の各欄の(A+B)と(C+D)の差の値を示す。相対的に言って、この値が大きいものほど、子どもがよく話していることになる。

なお、この設問では、調査の対象になっている子どもの家族数が本人を含めて5人以上の場合にはじめて、A・B・C・D四つの記入欄に異なった家族成員を記入することができる。そうでない場合、たとえば家族は本人のほかに両親だけだなどという場合は、AとBには記入できるが、CとDには記入できなくなる。CとDは無回答になる。記入したとしても、AとBに記入したものと逆の関係のことが記入されるだけである。そこで、このような場合は、AとBの答は集計の対象として採用したが、CとDはすべて無答として扱った。家族が本人のほかにひとり、または3人の場合も、すべてこれに準じた。

第15表 よく話す選択率 (A+B) と話さない選択率 (C+D)

(単位：パーセント)

話し相手	福島市				梁川町				松江市		
	1小	衫妻小 清沢小	1中	高校	梁小	梁野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	A+B C+D	A+B C+D	A+B C+D	A+B C+D	A+B C+D	A+B C+D	A+B C+D	A+B C+D	A+B C+D	A+B C+D	A+B C+D
父	37.9	36.5	28.3	26.6	37.6	42.9	20.2	27.1	32.6	25.3	23.1
	41.0	46.0	50.2	61.3	35.9	39.5	49.2	50.2	49.8	54.9	47.4
母	71.2	65.0	71.0	86.1	60.8	60.1	73.5	83.1	66.2	72.6	81.2
	14.7	20.0	9.7	5.3	22.7	17.1	11.0	6.0	20.6	8.3	16.5
祖父	6.8	4.0	3.8	5.0	13.7	8.8	8.2	12.3	9.3	3.8	15.6
	65.5	64.0	80.7	80.0	49.0	57.8	53.1	69.4	69.8	86.8	59.4
祖母	15.0	29.5	21.2	10.8	20.1	19.0	13.7	28.6	22.4	30.8	21.5
	60.0	20.5	44.5	60.9	46.3	44.8	40.0	32.1	56.5	45.3	53.6
兄	55.3	41.8	35.9	40.3	39.2	60.2	35.0	35.5	42.3	36.5	17.8
	25.9	38.0	28.1	37.7	30.5	24.1	32.4	44.9	30.8	28.1	44.6
姉	49.4	46.5	53.4	53.9	43.4	37.9	55.9	52.8	46.0	42.8	47.6
	20.8	16.3	19.4	24.1	21.2	27.5	15.3	16.5	28.2	24.7	21.8
弟	57.7	50.0	44.7	51.0	33.9	37.7	44.7	28.2	55.3	46.0	37.1
	23.1	19.2	14.2	18.7	18.4	27.9	20.0	23.9	22.4	18.7	22.7
妹	62.8	50.0	38.0	51.1	39.7	29.4	41.3	37.1	52.6	44.3	41.7
	9.8	21.4	17.7	21.1	23.1	27.4	22.6	15.5	39.5	21.8	16.0
兄よめ	0	0	0	25.0	0	0	10.5	22.0	0	0	10.6
	0	0	25.0	50.0	50.0	0	19.4	43.9	0	32.0	42.2
姉むこ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	5.0	50.0	100	0	50.0	50.0	0	33.4	33.3

第16表 [よく話す選択率(A+B)]-[話さない選択率(C+D)]

(単位：パーセント)

	福 島 中				梁 川 町				松 江 市		
	1小	彩妻小 清沢小	1中	高校	梁小	粟野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
父	-3.1	-9.5	-21.9	-34.7	1.7	3.4	-29.0	-23.1	-17.2	-29.6	-24.3
母	56.5	45.0	61.3	80.8	38.1	43.0	62.5	77.1	45.6	64.3	64.7
祖 父	-58.7	-60.0	-76.9	-75.0	-35.3	-49.0	-44.9	-57.1	-60.5	-83.0	-43.8
祖 母	-45.0	9.0	-23.3	-50.1	-26.2	-25.8	-26.3	-3.5	-34.1	-14.5	-32.1
兄	29.4	3.8	7.8	2.6	8.7	36.1	2.6	9.4	11.5	8.4	26.8
姉	28.6	30.2	34.0	29.8	22.2	10.4	40.6	36.3	17.8	18.1	25.8
弟	34.6	30.8	30.5	32.3	15.5	9.8	24.7	4.3	32.9	27.3	14.4
妹	53.0	28.6	20.3	30.0	16.6	2.0	19.7	21.6	13.1	22.5	25.7
兄よめ	0	0	-25.0	-25.0	-50.0	0	-8.9	-21.9	0	-30.0	-31.6
姉むこ	0	0	-5.0	-50.0	-100	0	-50.0	-50.0	0	-33.4	-33.3

これら二つの表から、とりわけ第16表から次のことがわかる。

(1) 子どもは、概して家庭で母親と話をすることが最も多い。母親の〔話す選択率(A+B)]-[話さない選択率(C+D)]の値は、福島・梁川・松江のどの学校でも、他の家族成員のそれに比して最も大きい。そしてこの値は、福島・梁川・松江ともに上級の学校にいくほど大きくなる傾向がある。(第16表)

つまり他の家族成員との相対関係でのことではあるが、家庭における子どもと母親とのコミュニケーションの結びつきは、上級学校にいくほど強くなっていく傾向がみられるのである。

(2) これに対して、第16表で父親の欄の値は、梁小と粟野小・五十沢小の二つの例外はあるが、あとはすべてマイナス。そして福島・梁川・松江ともに、小学生よりも中高校生の値の絶対値のほうが概してずっと大きい。つまり子どもと父親のコミュニケーションの結びつきは、相対的、かつ概略的に言ってもことであるが、母親との場合とは逆に、中高校生になると、グンと弱くなる。

(3) 祖父・祖母とのコミュニケーションの結びつき、とりわけ祖父とのコミュニケーションの結びつきは、相対的に非常に弱い。同じように、兄よめ・姉むことの結びつきも非常に弱い。

(4) きょうだいとの結びつきは、母親との結びつきについて強い。第16表の

兄・姉・弟・妹の各欄の値は、すべてプラスである。しかし、兄の欄の値は、概して姉・弟・妹の値よりも小さい場合が多い。つまり子どもと兄とのコミュニケーションの結びつきは、同じきょうだいでも、姉・弟・妹の場合ほどには強くないことが多いのである。

(5) 福島・梁川・松江の地域によるはっきりした違いはない。

B 学校×男女別にみた場合

第20問のAだけについて学校×男女別にみると、第17表のようになる。(B・C・Dの集計結果をあげることは省略。)

第17表 家族の中で、あなたがふだんいちばん多く話をする相手のかたは、だれですか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十小沢	梁中	高校	小学	中学	高校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
父	14.3	13.2	10.6	4.3	25.0	25.4	9.7	10.3	17.1	9.5	4.4
	12.9	9.8	3.9	5.6	11.5	3.6	10.5	3.4	7.7	13.5	2.4
母	25.8	27.8	40.0	58.8	26.3	12.1	28.6	46.4	34.3	50.5	58.7
	45.7	45.9	45.8	66.7	50.6	43.9	44.9	65.4	45.9	47.8	69.8
祖 父	6.3	0	3.8	0	0	4.0	4.0	9.1	4.0	5.3	0
	0	0	0	0	0	5.0	4.2	2.6	0	0	0
祖 母	0	26.1	13.2	4.5	4.8	0	4.5	15.8	0	11.5	4.2
	0	4.8	4.3	4.2	13.2	12.5	9.2	12.3	13.2	10.7	6.3
兄	45.0	21.7	24.8	12.5	30.2	42.3	28.6	16.3	33.8	24.3	11.9
	13.3	12.1	9.9	10.8	12.8	32.3	6.4	7.4	12.5	6.8	0
姉	21.3	20.0	21.3	11.8	23.1	17.0	18.7	23.3	6.7	11.9	22.5
	40.0	32.6	49.5	38.9	28.1	20.0	37.2	36.1	28.8	29.2	26.2
弟	52.9	45.2	30.4	28.8	29.4	24.2	36.4	18.4	37.2	36.6	15.8
	44.4	23.1	7.1	11.0	6.5	28.6	8.3	5.6	23.8	3.5	6.7
妹	28.0	31.8	12.8	31.0	11.1	18.2	12.5	3.0	5.2	2.9	10.0
	26.9	35.0	21.7	25.3	14.3	24.1	28.8	19.6	50.0	25.0	26.7
兄よめ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10.5
	0	0	0	40.0	0	0	10.5	7.1	0	0	0
姉むこ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第17表から次のことがわかる。

く「きらいだ」は、エとオの二つの選択肢を一つにまとめたものである。なお各欄共に上の数字は、現在父親をもっている子どもの総数に対して当該選択肢を○で囲んだ子どものしめる百分比。同じく下の数字は、現在母親をもっている子どもの総数に対して当該選択肢を○で囲んだものの百分比である。

第18表 あなたは、おとうさんと話をするのがすきですか。(全体)
おかあさんと話をするのは、どうですか。(全体)

(単位：パーセント)

選択肢	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	父 母										
好 き だ	65.9 92.0	67.9 87.8	38.1 66.4	43.2 64.0	61.8 76.2	58.9 81.3	36.4 64.9	29.9 68.5	69.1 81.5	51.5 68.0	40.1 66.2
ど ち ら と も い え な い	26.7 8.0	22.6 10.7	44.7 29.6	36.1 31.4	26.5 19.3	31.9 14.6	50.2 30.7	47.2 25.1	25.3 14.8	39.2 26.8	46.1 30.0
き ら い だ	7.4 0	8.8 1.4	14.7 3.3	19.3 4.0	11.8 4.5	9.2 4.0	13.0 3.7	20.1 5.2	5.6 2.5	8.1 4.2	10.3 2.4
無 答	0 0	0 0	2.6 0.7	1.4 0.7	0 0	0 0	0.5 0.7	2.8 1.2	0 1.2	1.3 1.0	3.4 1.5

また、子どもの回答を学校×男女別にみると、第19・20表の二つの表に示すようになる。

第19表 あなたは、おとうさんと話をするのがすきですか。(男女別)

(単位：パーセント)

選択肢	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	男 女										
好 き だ	63.8 68.5	65.8 70.5	36.1 40.3	37.3 49.0	66.3 56.4	61.9 55.4	36.0 36.8	26.1 31.3	70.6 67.3	49.0 54.1	40.2 40.0
ど ち ら と も い え な い	29.7 22.9	25.0 19.7	47.8 41.3	38.7 33.6	25.0 28.2	28.6 35.7	52.2 48.1	47.8 46.9	24.0 26.9	41.5 36.6	47.3 45.0
き ら い だ	6.6 8.5	7.9 9.8	13.9 15.4	22.5 16.1	8.7 15.3	9.6 9.0	11.4 14.6	23.2 19.0	5.5 5.8	8.0 8.2	9.8 10.8
無 答	0 0	1.3 0	2.2 2.9	1.4 1.4	0 0	0 0	0.4 0.5	2.9 2.8	0 0	1.5 1.0	2.7 4.2

第20表 おかあさんと話をするのは、どうですか。(男女別)

(単位：パーセント)

選択肢	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
好 き だ	86.0 100	84.8 91.8	54.7 79.2	54.9 73.4	71.6 81.5	78.8 84.2	51.9 79.2	58.6 72.4	73.9 90.8	57.6 79.3	60.5 72.0
ど ち ら と も い え な い	14.0 0	13.9 6.6	39.4 19.0	37.9 24.7	23.2 14.8	15.2 14.0	43.5 16.7	31.4 22.7	20.1 8.3	36.2 16.6	35.5 24.0
き ら い だ	0 0	1.3 1.6	4.7 1.9	6.5 1.3	5.3 3.7	6.0 1.8	4.2 3.2	8.6 3.9	4.4 0	4.7 3.6	3.2 1.6
無 答	0 0	0 0	1.2 0	0.7 0.7	0 0	0 0	0.4 0.9	1.4 1.1	1.5 0.9	1.4 0.5	0.8 2.4

これら三つの表から次のことがわかる。

(1) 「父親と話をするのがきらいだ」「母親と話をするのがきらいだ」というのは、どの学校でも非常に少ない。特に「母親と話をするのがきらいだ」というのは、非常に少ない(第18表)。親に対する子どものコミュニケーション意識としてごく自然でかつ穏当な形である。これは、男女別にみた第19・20表の場合も同じである。

(2) 「父親と話をするのがすきだ」と「母親と話をするのがすきだ」とを比べると、福島・梁川・松江のどの学校でも、後者の比率のほうが前者よりも大きい(第18表)。これは、男子・女子別にみた第19・20表の場合も同じである。

(3) 小・中・高校の間の比較をすると、「父親と話をするのが好きだ」というのは、福島一中の場合がちょっとちがうがあとは高学年になるほど少なくなっていく傾向がある。反対に、「父親と話をするのがきらいだ」と答えたものは、福島・梁川・松江の三つともに高学年になるほど多くなっていく傾向がある(第18表)。

(4) 「母親と話をするのがすきだ」と答えたものは、梁川中の場合がちょっとちがうが、あとは高学年になるほど少なくなっていく傾向がある(第18表)。とりわけ小学から中学にかけての少なくなりかたは、中学から高校にかけての少なくなりかたよりもその程度が著しい。これは、「父親と話をするのがすき

だ」の場合も同じである。このことは、親と子のコミュニケーションの結びつきは、子どもが中学生の時期に、よい意味にせよ悪い意味にせよ、ひとつの大きなヤマにさしかかるものであることを示しているのであろう。

(5) 「母親と話をするのがすきだ」というのを男女別にみると、福島・梁川・松江のどの学校でも、女子の比率が男子よりもかなりの程度高い(第20表)。しかし、「父親と話をするのが好きだ」というのは、福島の場合を除けば、男女の間にそれほどはっきりした傾向的な違いはない(第23表)。

(6) 福島・梁川・松江の地域差は、第18表の父親の場合を除いては、あまりはっきりとは現われていない。

B 職業別にみた場合

福島1中と梁川中学の生徒の回答を職業別にみたが、どちらも職業の違いによる傾向的な違いは、あまり認められない。(集計の結果を報告することは省略する。)

5. 子どもは親に自分の希望や意見をいうか

[第37問]

あなたは、おとうさんに聞いてもらいたい希望や意見があるとき、いつもそれをはっきりおとうさんに言いますか。

- | | | | | |
|---|--------------|---|---|------------------|
| ア | 言う。 | } | a | おとうさんに話す機会がないから。 |
| イ | 言わない。・なぜですか。 | | b | はずかしい気がするから。 |
| | | | c | なんとなく話しにくいから。 |
| | | | d | しかられるから。 |
| | | | e | その他(.....) |

ウ 希望や意見をもったことがない。

[第38問]

おかあさんに聞いてもらいたい希望や意見があるとき、いつもそれをはっきりおかあさんに言いますか。

- | | | | | |
|---|--------------|---|---|------------------|
| ア | 言う。 | } | a | おかあさんに話す機会がないから。 |
| イ | 言わない。・なぜですか。 | | b | はずかしい気がするから。 |

- c なんとなく話しにくいから。
- d しかられるから。
- e その他（.....）

ウ 希望や意見をもったことがない。

A 学校別および学校×男女別にみた場合

この二つの設問に対する回答を学校別に集計した結果は、次の第21・22表にまとめて示すとおりである。各欄共に上の数字が第37問、下の数字が第38問の集計結果。また、学校×男女別に集計した結果は、第23・24の二つの表のとおりである。第22表の各欄の数字は、総数（「言わない」と答えたもの）に対する百分比。なお第21・23・24表の各欄の数字は、それぞれ現在父親を持っている子どもの総数、母親をもっている子どもの総数に対する百分比。

第21表 おとうさん（おかあさん）に聞いてもらいたい希望や意見があるとき、いつもそれをはっきりおとうさん（おかあさん）に言いますか。（学校別）

（単位：パーセント）

言う相手 選択肢	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 沼沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母
言　　う	69.6	55.5	54.4	71.6	65.9	60.5	51.8	57.7	69.5	65.8	67.7
	84.0	75.0	83.0	94.7	83.0	83.7	78.6	88.0	83.6	85.1	88.8
言　わ　な　い	26.7	38.0	38.3	23.5	27.6	37.0	42.5	37.5	27.9	27.7	28.9
	13.5	20.0	13.7	4.0	13.1	13.8	15.9	9.2	14.4	10.9	9.2
意見や希望をも ったことがない	2.5	5.8	3.9	3.9	3.5	1.7	3.0	1.6	2.6	3.7	1.7
	1.2	5.0	2.0	1.0	1.7	2.4	2.6	0.4	0.8	1.5	0.8
無　　答	1.2	0.7	3.5	1.1	2.9	0.8	2.8	3.2	0	2.9	1.7
	1.2	0	1.3	0.3	2.3	0	2.9	2.4	1.2	2.4	1.2

第22表 言わないのはなぜですか。(学校別)

(単位：パーセント)

言う相手 選択肢	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	父 母										
話す機会がないから	20.9 31.8	11.5 3.6	6.6 3.2	6.0 0	12.8 21.7	13.6 11.8	10.2 2.8	4.3 0	15.4 11.4	13.2 4.5	11.9 0
はずかしい気がするから	2.3 9.1	5.8 17.9	4.8 9.7	4.5 0	6.4 0	20.5 29.4	5.3 20.8	4.3 26.1	4.6 14.3	2.8 0	1.5 4.3
なんとなく話しにくいから	69.8 45.5	73.1 64.3	80.2 77.4	70.1 66.7	57.4 65.2	56.8 35.3	77.5 66.7	82.8 56.5	67.6 51.4	70.8 65.9	82.1 69.6
しかられるから	4.7 9.1	5.8 3.6	5.4 8.1	0.5 0	12.8 8.7	11.4 11.8	2.1 5.6	1.1 8.7	12.3 5.7	2.8 11.4	1.5 4.3
そ の 他	0 0	3.8 7.1	4.2 3.2	17.9 33.3	8.5 4.3	7.8 0	3.7 2.8	3.2 13.0	1.5 20.0	7.6 11.4	3.0 17.4
無 答	2.3 4.5	0 3.6	0 0	0 0	4.3 4.3	0 0	1.6 4.2	5.4 4.3	0 0	1.8 4.5	1.5 4.3
総 数	43 22	52 28	167 62	67 12	47 23	44 17	187 72	93 23	65 35	106 44	67 23

第23表 おとうさんに聞いてもらいたい希望や意見があるとき、いつもそれをはっきりおとうさんに言いますか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

言う相手 選択肢	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	男 女										
言 う	65.9 74.3	50.0 62.3	46.5 62.1	63.4 79.7	62.0 70.5	66.7 53.6	48.7 55.2	44.9 62.6	66.7 73.1	59.0 73.2	62.5 72.5
言 わ な い	30.8 21.4	43.4 31.1	47.0 28.6	31.7 15.4	30.4 24.4	31.7 42.9	44.7 40.1	50.7 32.4	29.5 26.0	36.0 18.6	34.8 23.3
意見や希望を持ったことがない	2.2 2.9	5.3 6.6	3.0 4.9	3.5 4.2	4.3 2.6	1.6 1.8	3.1 2.8	1.5 1.7	3.9 1.0	2.5 4.9	0 3.3
無 答 (その他も含む)	1.1 1.4	1.3 0	2.5 3.4	1.4 0.7	3.3 2.6	0 1.8	3.5 1.9	2.9 3.4	0 0	2.5 3.3	2.7 0.8

第24表 おかあさんに聞いてもらいたい希望や意見があるとき、いつもそれをはっきりお母さんに言いますか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

選択肢	福 島 市				梁 川 町				松 江 市			
	1小		1中	高校	梁小	栗野小	五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
言　　う	80.6	73.4	78.4	94.1	77.9	80.3	73.4	87.1	81.3	84.3	88.7	
	88.6	77.0	88.0	95.3	88.9	87.7	84.3	88.4	86.2	86.0	88.8	
言　わ　ない	15.1	21.5	18.2	3.9	15.8	15.2	19.8	10.0	15.7	11.0	8.1	
	11.4	18.0	8.8	4.0	9.9	12.3	11.6	8.8	12.8	10.9	10.4	
意見や希望を持ったことがない	2.2	5.1	1.3	1.3	3.2	4.5	3.0	1.4	1.5	1.9	0.8	
	0	4.9	2.8	0.7	0	0	2.3	0	0	1.0	0.8	
無　　答	2.2	0	2.1	0.7	3.2	0	3.8	1.4	1.4	2.8	2.4	
	0	0	0.5	0	1.2	0	1.9	2.8	0.9	2.1	0	

これら四つの表から次のことがわかる。

(1) 父親に聞いてもらいたい希望や意見があるとき、いつもそれを父親にはっきり言うと答えた比率。それに母親に聞いてもらいたい希望や意見があるとき、いつもそれを母親にはっきり言うと答えた比率。この二つを比べると、福島・梁川・松江のどの学校でも、後者のほうが前者よりも14%~30%ぐらい高い。また、希望や意見があっても、父親に言わないと答えた比率と、母親に言わないと答えた比率とを比較すると、福島・梁川・松江のどの学校でも前者のほうが後者よりも13%~28%ぐらい高い。つまり、ごく大ざっぱに言って、子どもが親に言いたい希望や意見があるのに、それを言わないという傾向は、母親に対する場合よりも、父親に対する場合のほうがより一層強い(第21表)。

(2) 希望や意見があっても、それを親に言わない理由を聞いてみると、第29表のようになる。父親の場合も母親の場合も、「なんとなく話しにくいから」というのが非常に多い。しかし、二つを比較してみると、梁川小を除けば、あとはどの学校でも、父親の比率のほうが母親よりも高くなっている。「話す機会がないから」というのも、福島1小と梁川小を除けば、あとはどの学校でも父親のほうが母親よりも比率が高い。

(3) 男女別にみると、第23・24表のようになる。「父親にはっきり言う」と答えたものは、栗野小・五十沢小を除けば、あとはどの学校でも男子よりも女

子のほうに多い。反対に「あっても、父親に言わない」と答えたものは、同じ栗野小・五十沢小を除いて、あとはどの学校でも女子よりも男子のほうに多い（第23表）。

「母親にはっきり言う」と答えたものは、福島・梁川・松江のどの学校でも男子よりも女子のほうに多い。「あっても、母親に言わない」と答えたものは、福島と松江の高校を除けば、どの学校でも女子よりも男子に多い。（第24表）。

つまり、大ざっぱに言って、親に言いたいたとがあっても言わないという傾向は、女子よりも男子に強く現われている。

(4) 小中高校を通じての都市（福島・松江）と農村（梁川）の地域差による傾向的な反応の違いは、あまり認められない。また、福島・梁川・松江を通じての、小中高校生の年齢差による傾向的な反応の違いも、あまり認められない。

B 職業別にみた場合

福島・梁川・松江の中学生の回答を親の職業別にみても、「父親に対してはっきり言う」と答えたのは、男子ではどの地域でも農家の子どもが最も少ないということがわかった。だが、それ以外は、三つの地域を通じて異なる職業の間に傾向的な違いはあまり認められなかった。（集計表をのせることは省略する。）

6. 子どもは親と話すとき話すほうが多いか 聞くほうが多いか

[第35問]

おとうさんと話をするとき、ふつうあなたは、話すほうが多いですか。聞くほうが多いですか。

ア 話すほうが多い。 イ どちらかという、話すほうが多い。

ウ 話すのと聞くのとが同じくらい。

エ どちらかという、聞くほうが多い。 オ 聞くほうが非常に多い。

カ わからない。

[第36問]

おかあさんと話をするとき、どうですか。

ア 話すほうが多い。 イ どちらかという、話すほうが多い。

ウ 話すのと聞くのとが同じくらい。

エ どちらかという、聞くほうが多い。 オ 聞くほうが非常に多い。

カ わからない。

A 学校別および学校×男女別にみた場合

以上二つの設問に対する回答の集計結果を一つの表にまとめたのが第25表である。表中各欄共に上の数字は第35問の選択肢支持率（現在父親をもっている子どもの総数に対する百分比）、同じく下の数字は第36問の選択肢支持率（現在母親をもっている子どもの総数に対する百分比）を示す。ただし、この表では第35・36問ともに(ア)と(イ)の選択肢を一つにまとめて「話すほうが多い」とし、(エ)と(オ)の選択肢を一つにまとめて「聞くほうが多い」とした。これは、あとに掲げる第25・36表の場合も同じである。

第25表 おとうさん（おかあさん）と話をするとき、ふつうあなたは、話すほうが多いですか。聞くほうが多いですか。

（単位：パーセント）

選 択 肢	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小		1中	高校	梁小	粟野小	梁中	高校	小学	中学	高校
	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父
話すほうが多い	26.1 49.1	27.0 47.1	30.1 45.3	36.2 46.2	30.0 51.7	28.6 52.8	29.5 47.7	31.4 57.7	34.8 56.8	38.9 55.1	34.5 52.3
話すのと聞くのと 同じくらい	41.0 38.7	29.2 34.3	34.4 35.2	34.7 41.9	35.3 28.4	37.0 33.3	33.9 34.9	33.9 30.0	41.6 32.1	31.6 31.3	37.1 33.9
聞くほうが多い	23.6 8.6	37.3 15.0	26.4 15.5	21.0 8.3	25.3 15.4	30.3 8.9	26.8 11.0	25.4 8.0	21.4 9.4	24.3 9.4	16.8 9.5
わからない	8.1 2.5	4.4 1.4	6.9 3.3	6.7 2.6	8.8 4.0	3.4 4.1	8.9 5.1	6.9 3.2	2.1 0.8	4.4 3.5	7.3 3.4
無 答	1.2 1.2	2.2 2.1	2.3 0.6	1.4 1.0	0.6 0.6	0.8 0.8	0.9 1.3	2.4 1.2	0 0.8	0.8 0.7	4.3 0.8

第25表から次のことがわかる。

(1) 福島・梁川・松江のどの学校でも、「話すほうが多い」と答えたものは、父親よりも母親と話す場合のほうに多く、「聞くほうが多い」と答えたものは、母親よりも父親と話す場合のほうに多い。いま試みに、父親と話す場合の「話すほうが多い」の比率と母親と話す場合の「話すほうが多い」の比率の差を求

めてみると、その値は、下の表のA欄のようにすべてマイナスとなる。また、父と話す場合の「聞くほうが多い」の比率と母と話す場合の「聞くほうが多い」の比率の差を求めてみると、この値は、すべて下の表のB欄のようにプラスになる。

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
A	-23.0	-20.1	-15.2	-10.0	-21.7	-24.2	-18.2	-26.3	-22.0	-16.2	-17.8
B	15.0	22.3	10.9	12.7	9.9	21.4	16.8	17.4	12.0	14.9	7.3

わたし自身まだ実際に検証してはいないが、親が子どもと話す場合、相対的に言って、母親よりも父親のほうが口数が多いということはあまりないだろうと思う。とすれば、上に述べたことは、つまり子どもは、母親と話す場合には口数が多くなり、父親と話す場合には口数が少なくなって、もっぱら聞き役にまわるものが多くなる、ということの意味していることになる。

(2) 小中高校を通じての地域差による傾向的な違い、および三つの地域を通じての小中高校の年齢差による違いもあまり認められない。

以上は、男女をこみにして学校別にみた場合のことであるが、これを学校×男女別にわけて集計してみると、次の第26・27表に示すようになる。表中各欄共に上の数字は男子、そして下の数字は女子の、当該選択肢支持率を示す。

第26表 おとうさんと話をするとき、ふつうあなたは、話すほうが多いですか。聞くほうが多いですか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	粟野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	男 女										
話すほうが多い	27.5 24.3	26.3 27.9	25.6 34.9	26.1 46.2	27.2 33.3	28.6 28.5	24.1 35.3	24.7 34.0	33.3 36.5	35.5 42.6	29.5 39.1
話すのと聞くの と同じくらい	37.4 45.7	27.6 31.1	33.9 35.0	40.8 28.7	33.7 37.2	39.7 33.9	33.3 34.4	30.4 35.2	37.2 47.1	29.0 34.4	40.2 34.2
聞くほうが多い	24.2 22.8	39.4 34.4	31.8 20.4	23.2 18.9	30.4 19.2	28.6 32.1	32.1 21.2	34.8 21.8	25.6 16.3	29.5 18.6	18.7 15.0
わからない	9.9 5.7	5.3 3.3	6.5 7.3	7.7 5.6	7.6 10.3	3.2 3.6	9.2 8.5	7.2 6.7	3.9 0	5.5 3.3	8.0 6.7
無 答	1.1 1.4	1.3 3.3	2.1 2.4	2.1 0.7	1.1 0	0 1.8	1.3 0.5	2.9 2.2	0 0	0.5 1.1	3.6 5.0

第27表 おかあさんと話をするとき、どうですか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	粟野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	男 女										
話すほうが多い	43.1 57.1	41.8 54.1	35.1 56.4	36.0 56.7	46.3 58.0	53.0 52.6	39.7 56.5	41.4 64.1	50.8 64.2	47.6 63.2	41.9 53.6
話すのと聞くの と同じくらい	40.9 35.7	35.4 32.8	39.0 31.0	45.0 38.7	28.4 28.4	28.8 38.6	36.7 32.9	34.3 28.2	35.1 28.4	33.3 29.0	37.9 38.4
聞くほうが多い	11.8 4.3	19.0 9.8	19.9 10.6	15.1 1.3	20.0 9.9	10.6 7.1	15.2 6.5	15.8 5.0	11.9 6.4	14.3 4.1	16.1 3.2
わからない	3.2 1.4	2.5 0	4.7 1.9	3.3 2.0	4.2 3.7	6.1 1.8	7.2 2.8	7.1 1.7	1.5 0	3.8 3.1	2.4 4
無 答	1.1 1.4	1.3 3.3	1.2 0	0.7 1.3	1.1 0	1.5 0	1.3 1.4	1.4 1.1	0.7 0.9	1.0 0.5	1.6 0.8

この二つの表から次のことがわかる。

(1) 子どもは、母親と話す場合に口数が多くなり、父親と話す場合にそれが少なくなる。第25表でみたこの傾向は、第26・27表で男子・女子別にみた場合にも変わっていない。

しかし、この傾向は、男子よりも女子のほうが概してより一層強いようであ

る。いま試みに男子・女子別に第26表（父親と話す場合）の「話すほうが多い」の比率と第27表（母親と話す場合）の「話すほうが多い」の比率の差を求めてみると、次のようになる。男子・女子いずれの場合も、値がマイナスになることには変わりがない。しかし、その絶対値は、粟野小・五十沢小を除けば、あとはどの学校でも、女子のほうが男子よりも大きい。つまり、相対的に言って、子どもが母親と話す場合には口数が多くなり、父親と話す場合にはそれが少なくなるという傾向は、男子より女子のほうがより一層顕著なのである。

父親の「話すほうが多い」の比率——母親の「話すほうが多い」の比率

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	粟野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
男 子	-15.6	-15.5	-9.5	-9.9	-19.1	-24.4	-15.6	-16.7	-17.5	-12.1	-12.4
女 子	-32.8	-26.2	-21.5	-10.5	-24.7	-24.1	-21.2	-30.1	-27.7	-20.6	-14.6

ただし、「聞くほうが多い」の支持率の場合は、男子と女子の間にこのようにはっきりした傾向的な違いは認められない。下の表を参照。

父親の「聞くほうが多い」の比率——母親の「聞くほうが多い」の比率

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	粟野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
男 子	12.4	20.4	11.9	8.1	10.4	18.0	16.9	19.0	13.7	15.2	2.6
女 子	18.4	24.6	9.8	17.6	9.3	25.0	14.7	16.8	9.9	14.5	11.8

(2) 第26表で父親と話す場合を男子・女子別にみると、「話すほうが多い」では、福島1小と粟野小・五十沢小の二つを除けば、あとはどの学校でも女子の比率のほうが男子よりも高い。反対に、「聞くほうが多い」では、粟野小・五十沢小のほかは、すべてどの学校でも男子の比率のほうが女子よりも高い。つまり男子が父親と話す場合と女子が父親と話す場合とを比較すると、概して女子のほうが男子よりも口数が多くなるらしい。このことは、第27表の母親と話をする場合も全く同じである。

ただし、父親の場合と母親の場合とでは、次のような違いがある。父親の

「話すほうが多い」における〔男子の比率〕－〔女子の比率〕の差の値、および母親の「話すほうが多い」における〔男子の比率〕－〔女子の比率〕の差の値を求めると、次のようになる。

男子の支持率——女子の支持率

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	粟野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母
話すほう が多い	3.2 -14.0	-1.6 -12.3	-9.3 -21.3	-20.1 -20.7	-6.1 -11.7	0.1 0.4	-11.2 -16.8	-9.3 -22.7	-3.2 -13.4	-7.6 -15.6	-9.6 -11.7
聞くほう が多い	1.4 7.5	5.0 9.0	11.4 9.3	4.3 13.8	11.2 10.1	-3.5 3.5	10.8 8.7	13.0 10.8	9.3 5.5	10.9 10.2	3.7 12.9

父親の場合は、福島1小と粟野小・五十沢小の二つを除けば、あとはどの学校も値はすべてマイナスになる。母親の場合は、粟野小・五十沢小の一例を除いて、あとはどの学校も値はすべてマイナスになる。そしてこの父親の場合の値と母親の場合の値の絶対値を比べてみると、すべて母親の場合のほうが父親の場合より大きいのである。つまり、粟野小・五十沢小以外について言えば、女子は、男子に比して、父親と話す場合よりも母親と話す場合により一層口数が多くなる傾向があるのである。

(3) 小中高校を通じての地域差による傾向的な違い、および三つの地域を通じての小中高校の年齢差による傾向的な違いは、男女別にみてもあまり認められない。

B 職業別にみた場合

福島・梁川・松江の中学生の回答を親の職業別にみてみると、父親と話すときに「話すほうが多い」と答えた子どもは、男子の場合福島・梁川・松江ともに農家が最も少ないということがわかった。また、女子も梁川と松江では農家が最も少ないということがわかった。しかしそのほかは、異なる職業の間に傾向的な違いは、あまり認められなかった。(統計表をのせることは、紙幅の都合でとりやめる。)

7. 子どもは家庭でだれに叱られることが多いか

〔第39問〕

あなたは、おうちの中で、だれかにしかられることがありますか。

ア よくある。 イ ときどきある。 ウ ほとんどない。

〔第40問〕

〔「ある」と答えた人だけ〕だれにしかられることが多いですか。……………

A 学校別および学校×男女別にみた場合

まず第39問に対する回答を集計整理してみると、第28・29表のようになる。
 (この二つの設問は松江ではやっていない。)第28表は、男女をこみにして学校別にみたものであるが、これをみると、福島・梁川の場合ともに「よくある」と答えたものは、高校生が小中学生に比してかなり少なく、反対に「ほとんどない」と答えたものは、高校生が最も多い。つまり高校生は、小中学生に比して、家庭でだれかに叱られることが少ないと意識している。

第28表 あなたは、おうちの中で、だれかにしかられることがありますか。(学校別)

(単位：パーセント)

選 択 肢	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	栗野小 五十沢小	梁 中	高 校
よくある	28.8	27.1	33.4	17.2	18.6	25.2	27.1	15.5
ときどきある	62.0	65.0	55.7	52.8	66.7	58.5	61.1	62.7
ほとんどない	9.2	7.9	9.8	29.0	13.6	13.8	11.1	21.4
無 答	0	0	1.0	1.0	1.2	2.4	0.7	0.4

第29表 あなたは、おうちの中で、だれかにしかられることがありますか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

選択肢	福 島 市				梁 川 町											
	1 小		杉妻小 清沢小		1 中		高 校		梁 小		栗野小 五十沢小		梁 中		高 校	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
よくある	32.3	24.3	30.4	23.0	32.2	17.0	21.9	14.8	28.8	21.1	27.5	26.6	17.1	14.8		
ときどきある	60.2	64.3	68.4	60.7	56.9	54.2	63.5	70.3	60.6	56.1	62.1	60.1	57.1	64.8		
ほとんどない	7.5	11.4	1.3	16.4	9.6	29.3	12.5	14.8	7.6	21.1	9.6	12.8	25.7	19.8		
無 答	0	0	0	0	1.3	0	2.0	0	3.0	1.8	0.8	0.5	0	0.5		

第29表で男女別にみでみると、叱られることが「よくある」と答えているのは、概して女子よりも男子に多いことがわかる。(福島1中と福島高校を除けば、あとはすべて男子が女子よりも高い。反対に、「ほとんどない」と答えたものの比率は、梁川高校を除いて、あとはすべて女子のほうが男子よりも高い。)

福島と梁川を比較すると、「よくある」と答えた比率は、小中高ともに梁川のほうが福島よりも低い。しかし「ときどきある」「ほとんどない」の選択肢支持率では、このような小中高ともに一貫した傾向的な違いは認められない。

第40問に対する回答を集計整理したのが、第30・31表である。表中各欄の数字は選択率である。

第30表 「ある」と答えた人だけ」だれにしかられることが多いですか。(学校別)

(単位：パーセント)

叱る人		福 島 市				梁 川 町			
		1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高校	梁 小	栗野小 五十沢小	梁 中	高校
父	母	36.0	45.3	33.6	28.4	41.8	46.2	37.7	32.5
		48.5	50.0	55.0	47.9	35.2	35.8	39.7	44.0
祖	父	3.4	8.0	15.4	5.0	11.8	20.0	16.3	12.2
		20.0	6.8	12.1	13.0	12.5	10.3	14.3	14.3
祖	母	25.9	12.7	19.7	15.6	17.4	10.8	19.9	14.5
		18.2	4.7	10.1	9.6	9.7	6.9	10.4	17.6
他	無	0	0	0	0.7	0	0	0.4	1.6
		7.4	8.6	9.4	21.5	9.0	5.7	15.3	19.0

第31表 だれにしかられることが多いですか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

叱る人		福 島 市				梁 川 町			
		1 小	杉妻中 清沢中	1 中	高校	梁 小	栗野小 五十沢小	梁 中	高校
		男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
父	母	40.7	53.9	38.4	31.4	45.6	61.9	39.8	36.8
		30.0	34.4	28.1	25.4	37.2	28.6	35.4	30.9
父	母	47.3	55.7	54.9	45.1	35.8	30.3	34.2	44.9
		50.0	42.6	55.1	50.7	34.6	42.1	45.8	43.6
祖	父	0	7.1	15.4	0	16.0	20.0	24.0	9.1
		7.7	9.1	15.4	10.0	7.7	20.0	8.3	13.2
祖	母	17.4	4.3	13.2	9.1	9.5	8.8	13.6	21.1
		23.5	9.5	10.9	16.7	15.8	12.5	14.9	12.3
兄	姉	17.5	10.9	12.0	15.0	16.3	9.6	20.4	16.3
		33.3	12.1	27.9	16.2	19.1	12.9	19.2	13.7
他	無	19.1	2.5	9.6	7.4	7.1	2.1	5.0	10.0
		16.7	6.5	10.8	13.9	12.3	12.5	16.3	21.3
他	無	0	0	0	1.3	0	0	0.8	1.4
		0	0	0	0	0	0	0	1.6
無	答	8.6	5.1	10.9	9.2	7.3	6.1	19.6	24.3
		5.7	13.1	7.8	34.0	11.1	3.3	10.6	17.0

この二つの表をみて気づくことを次にあげる。

(1) 子どもが叱られることが多いのは、父母、祖父母、兄姉に限られる。なかでも父母の選択率とはびぬけて高い。このことは、男子・女子別にみても変わらない。

(2) このとびぬけて高い父母の選択率を地域別にみると、概して父親の選択率では、小中高校ともに梁川のほうが高い。反対に、母親の選択率では、小中高校ともに福島のほうが高い。この傾向は男女別にみた場合もほとんど変わらない。また、福島では、どの学校でも母親の選択率が父親の選択率よりも高いのに、梁川では、梁小と栗野小・五十沢小の場合は、父親の選択率が母親の選択率よりも高くなっている。この傾向は、男子・女子別にみた場合も大体同じである。梁中・梁高は、傾向は福島1中・福島高校の場合と同じだが、しかし、梁中と梁高のそれぞれの父親と母親の選択率の開きは、福島1中・福島高校の場合ほどにはなっていない。

つまり、父親に叱られる程度では、男女を問わず、概して梁川のほうが福島よりも高く、母親に叱られる程度では、福島のほうが梁川よりも高い。

(3) 父親の選択率は、福島・梁川ともに上の学校に行くほど低くなる(第30表)。これは、男女別にみた場合も大体同じである(第31表)。つまり上の学校に行くほど、子どもは、男女の別を問わず、父親に叱られることが相対的に言
って少なくなる。

(4) 父親の選択率を男子・女子別にみると、福島・梁川のどの学校でも、男子のほうが女子よりも高い(第31表)。つまり小中高校いずれの場合も、父親に叱られることが多いと意識しているのは、女子よりも男子に多い。

母親の選択率を男子・女子別にみると、福島では杉妻小・清沢小、梁川では梁小と梁高の三つの例外があるが、あとの五つの学校は、父親の場合とは逆に女子の選択率のほうが男子の選択率よりも高くなっている(第31表)。つまり父親の場合ほどはっきりしたものではないが、母親に叱られることが多いと意識しているのは、父親の場合とは逆に、男子よりも女子に多いという傾向がある。

B 職業別にみた場合

福島1中と梁川中学の子どもの回答を職業別にみてみると、第39問「あなたは、おうちの中でだれかにしかられることがありますか」に対して、「よくある」と答えているのは、男子の場合福島・梁川ともに農家の子どもが最も少ないということがわかった。また、第40問「(「ある」と答えた人だけ)だれにし

かられることが多いですか」に対して、農家の男子の父親の選択率は、福島・梁川ともに最も低いということがわかった。しかし、そのほかは、福島・梁川を通じての職業差による傾向的な違いは、あまり認められなかった。（統計表をのせることは、紙幅の都合上とりやめる。）

8. 叱る人を親に限った場合はどうか

前節で報告した第39・40問は、家庭でだれかに叱られることがあるか、あるとすれば、その叱る人はだれかという設問であった。今度はその叱る人を父と母に限って質問した場合は、どうなるか。

〔第41問〕

あなたは、おとうさんにしかられることがありますか。

ア よくある。 イ ときどきある。 ウ ほとんどない。

〔第42問〕

（「ある」と答えた人だけ）どんなことでしかられることが多いですか。

.....

〔第43問〕

おかあさんにしかられることがありますか。

ア よくある。 イ ときどきある。 ウ ほとんどない。

〔第44問〕

（「ある」と答えた人だけ）どんなことでしかられることが多いですか。

A 学校別および学校×男女別にみた場合

第41・43問に対する子どもの回答を整理してみると、第32・33・34表の三つに示すようになる。表中各欄の数字は、それぞれ現在父親・母親をもっている子どもの総数に対する選択肢支持率を示す。

第32表 あなたは、おとうさん（おかあさん）にしかられることがありますか。（学校別）

（単位：パーセント）

しかる人 選択肢	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母
よくある	14.9 20.9	12.4 19.3	11.5 27.2	18.9 14.2	9.4 15.3	10.9 13.0	9.3 14.6	6.0 17.1
ときどきある	41.0 51.5	51.8 51.4	50.2 51.5	29.5 50.8	45.3 33.0	49.6 43.1	54.8 55.2	43.1 53.8
ほとんどない	43.5 27.0	34.3 28.6	35.8 20.4	50.2 33.0	44.7 50.6	39.5 40.7	34.3 28.0	47.6 27.1
無 答	0.6 0.6	1.4 0.7	2.5 0.9	1.4 2.0	0.6 1.1	0 3.2	1.6 2.2	3.2 2.0

第33表 あなたは、おとうさんにしかられることがありますか。（学校×男女別）

（単位：パーセント）

しかる人 選択肢	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
よくある	15.4 14.3	13.2 11.5	14.8 7.8	31.7 6.3	10.9 7.7	15.9 5.4	12.3 6.1	11.6 3.9
ときどきある	50.5 28.6	64.5 36.1	52.6 47.6	20.4 38.5	48.9 41.0	58.7 39.3	56.6 52.8	44.9 42.5
ほとんどない	33.0 57.1	19.7 52.5	30.0 42.2	46.5 53.8	40.2 50.0	25.4 55.4	28.9 40.1	39.1 50.8
無 答	1.1 0	1.3 0	1.7 1.9	0.7 0.7	0 1.3	0 0	2.2 0.9	4.3 2.8

第34表 おかあさんにしかられることがありますか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

選択肢	福 島 市				梁 川 町				
	1 小		杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
	男 女	男 女							
よくある	22.6 18.6	19.0 19.7	28.0 26.4	10.5 18.0	14.7 16.0	12.1 14.0	13.5 15.7	14.3 18.2	
ときどきある	50.5 52.9	50.0 52.5	50.8 52.3	52.9 48.7	38.9 25.9	42.4 43.9	57.0 53.2	51.4 54.7	
ほとんどない	25.8 28.6	29.1 27.9	21.2 19.4	34.0 32.0	46.3 55.6	40.9 40.4	27.0 29.2	31.4 25.4	
無 答	1.1 0	1.3 0	0 1.9	2.0 1.3	0 2.5	3.0 0	2.5 1.9	2.9 1.1	

これら三つの表から次のことがわかる。

(1) 福島・梁川のどの学校でも(福島高校だけが例外であるが)、子どもは、父親よりも母親に叱られることが多いと答えている(第32表)。

(2) 福島・梁川のどの学校でも、父親に叱られることがよくあると意識しているのは、女子よりも男子に多い(第33表)。この傾向は、次に述べる母親の場合に比して、非常にはっきりしている。

(3) 母親に叱られることがよくあると意識しているのは女子よりも男子に多いという傾向も、第34表からうかがうことができる。(しかし、この傾向は、第33表の父親の場合ほどはっきりしたものではない。)

(4) 福島と梁川の比較をすると、父親に叱られることが「よくある」と答えたものは、小中高校ともに梁川のほうが福島よりも少ない。母親に叱られることが「よくある」と答えたものも、高校を除けば、梁川のほうが福島よりも少ない。

(5) 福島・梁川を通じての小中高校の年齢差による傾向的な違いもあまり認められない。

B 職業別にみた場合

福島1中と梁川中学の子どもの回答を職業別にみてもみたが、福島・梁川を通じての、職業差による傾向的な違いは認められなかった。(統計表のをのせるこ

とは、紙幅の都合でとりやめ。)

C どんなことで叱られるか

それでは、子どもは、親にどんなことで叱られることが多いのか。第42問と第44問でそのことを子どもたちに自由記入してもらった。自由記入であるだけに、親に叱られることが多い理由として子どもがあげているのは、実に種々多様であるが、その記入内容に従って一応の分類集計をしてみると、結果は第35・36・37表の三つに示すようになった。

第35表 (おとうさん・おかあさん) にどんなことでしかられることが多いですか。
(学校別)

(単位：パーセント)

しかられる理由	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母
きょうだいげんか・弟妹を いじめる	17.8 22.0	14.8 19.2	24.2 32.9	5.8 12.7	23.7 24.7	20.8 14.5	20.2 18.4	9.8 12.9
勉強をしない・成績が悪い	24.4 26.3	25.0 14.1	9.3 16.3	10.1 8.6	11.8 17.6	16.7 11.6	7.8 5.4	8.2 6.7
親に反抗する・口答えをす る・文句をいう・言うこと をきかない	7.8 5.1	5.7 6.1	6.3 12.6	2.9 4.6	8.6 9.4	0 11.6	0.7 12.3	13.9 14.0
遊びすぎる	0 0.8	3.4 1.0	1.5 1.4	0.7 1.0	6.5 3.5	4.2 0	1.8 1.3	2.5 0
学校からの帰りがおそい	1.1 0.8	0 0	0.7 1.1	0.7 1.0	0 0	1.4 4.3	1.4 0.3	1.6 1.7
むだづかいをする・金づか いがあらい	0 0.8	1.1 2.0	1.9 1.7	0 0.5	1.1 2.4	2.8 4.3	0.4 0.9	0 2.2
食事のすききらい・食べか たがよくない	0 2.5	2.3 3.0	0.4 2.8	0 1.0	0 1.2	0 0	0.7 0.9	0 0
テレビを見すぎる・見る番 組がよくない	5.6 1.7	3.4 2.0	1.1 1.7	0.7 1.0	2.2 2.4	5.6 1.5	2.1 1.6	0 0
ことばづかいが悪い・よく ない流行語を使う	0 0.8	1.1 1.0	1.1 1.1	6.5 2.5	0 0	0 0	0.4 0.9	0 2.2
おしゃべりだ	0 0	0 0	0.4 0.6	0.7 0	0 0	0 0	0 0	1.6 0
朝ねぼうだ・夜ふかしをす る	5.6 0	0 0	0.7 2.8	2.2 3.6	3.2 0	0 4.3	1.1 0.3	1.6 3.9
呼ばれても返事をしない	0 0	0 1.0	0.4 1.4	0 0	0 0	4.2 0	0.7 1.6	1.6 0.6
後片づけをしない・散らか しばなしだ	1.1 11.0	3.4 14.1	4.5 9.0	3.6 7.6	2.2 5.9	4.2 8.7	0 2.2	2.5 2.2
物をこわす・なくす・粗末 に扱う	1.1 6.8	3.4 2.0	3.0 3.1	0.7 0	7.5 3.5	1.4 4.3	0 0.6	2.5 0.6
失 敗 す る	7.8 0.8	1.1 1.0	1.9 2.2	4.3 2.0	0 1.2	13.9 1.5	5.0 2.2	3.3 3.4

(第35表の続き)

しかる人 しかられる理由	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母	父 母
いたずらをする	10.0 10.2	12.5 3.0	4.1 6.7	0 0	3.2 7.1	9.7 0	7.4 2.2	0 0
家の中で騒ぐ・悪ふざけを する	6.7 1.7	4.5 3.0	1.9 1.4	0.7 1.0	2.2 2.4	1.4 0	1.8 1.6	0.8 1.1
悪いことをする	0 0	2.3 3.0	2.6 1.4	0 0	2.2 1.2	0 7.2	0 2.5	0 2.5
他人に迷惑をかける	0 0	0 0	0.7 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
行儀が悪い	3.3 0	1.1 1.0	0.4 0.8	0 4.6	1.1 0	0 0	0.4 0.3	4.9 2.2
仕事のがろい	0 0	0 0	0 0.8	0 2.0	0 0	0 0	1.8 0.9	0 2.2
ぐずぐずしている・ぼやぼ やしている	0 0.8	0 0	1.1 0	0 1.0	0 0	0 0	1.8 0.3	0 0
素直でない・わがままで・ なまいきだ・だらしがない ふまじめだ	5.6 1.7	0 0	2.6 3.4	4.3 10.7	7.5 1.2	0 0	3.2 0.9	3.3 3.4
家の手伝いをしない	0 6.8	6.8 5.1	5.9 14.9	5.1 12.7	1.1 7.1	20.8 18.8	20.9 18.4	14.8 17.4
物や用事を忘れる	0 0	0 0	0.7 0.3	0 0	0 0	0 0	0 0.6	0 0
約束をやぶる	0 0	0 0	0.7 0.8	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
よけいなことを言う・する	0 0.8	2.3 1.0	0.4 0	0 0	0 1.2	0 0	0 1.3	3.3 0.6
そ の 他	0 9.3	2.3 14.1	2.6 5.1	13.0 12.2	4.3 9.4	2.8 7.2	0.4 3.5	4.9 10.1
無 答	17.8 8.5	4.5 5.1	19.3 1.1	37.7 23.9	23.7 9.4	2.8 1.5	22.7 20.3	20.5 23.0
叱られる子どもの総数	90 118	88 99	269 356	138 197	93 85	72 69	282 316	122 178

第36表 (おとうさんに) どんなことでしかられることが多いですか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

しかられる理由	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
きょうだいげんか・弟妹をいじめ	18.3 16.7	16.9 10.3	31.0 14.9	1.4 10.9	21.8 26.3	14.9 32.0	24.2 15.2	15.4 7.2
勉強をしない・成績がわるい	23.3 26.7	23.7 27.6	9.0 9.6	13.5 6.3	12.7 10.5	21.3 8.0	3.8 12.8	12.8 6.0
親に反抗する・口答えをする・文句をいう・言うことをきかない	6.7 10.0	6.8 3.4	4.5 8.8	0 6.3	7.3 10.5	0 0	0 1.6	7.7 16.9
遊びすぎる	0 0	3.4 3.4	2.6 0	1.4 0	10.9 0	4.3 4.0	1.3 2.4	5.1 1.2
学校からの帰りがおそい	0 3.3	0 0	1.3 0	1.4 0	0 0	4.0 0	0.6 2.4	0 2.4
むだづかいをする・金づかいがあら	0 0	0 3.4	2.6 0.9	0 0	1.8 0	2.1 4.0	0 0.8	0 0
食事のすききらい・食べ方がよくない	0 0	1.7 3.4	0.6 0	0 0	0 0	0 0	0 1.6	0 0
テレビを見すぎる・見る番組がよくない	6.7 3.3	0 10.3	1.3 0.9	1.4 0	1.8 2.6	6.4 4.0	1.9 2.4	0 0
ことば使いが悪い・よくない流行語を使う	0 0	1.7 0	0.6 1.8	1.4 12.5	0 0	0 0	0 0.8	0 0
おしゃべりだ	0 0	0 0	0 0.9	0 1.6	0 0	0 0	0 0	0 2.4
朝ねぼうだ・夜ふかしをする	5.0 6.7	0 0	0.6 0.9	1.4 3.1	5.5 0	0 0	0 2.4	0 2.4
呼ばれても返事をしない	0 0	0 0	0 0.9	0 0	0 0	4.3 4.0	0 1.6	0 2.4
後片づけをしない・散らかしばなしだ	0 3.3	3.4 0	3.9 5.3	2.7 4.7	0 5.3	2.1 8.0	0 0	0 3.6
物をこわす・なくす・粗末に扱う	1.7 0	5.1 0	3.9 1.8	1.4 0	7.3 7.9	2.1 0	0 0	5.1 1.2
失敗する	8.3 6.7	1.7 0	0.6 3.5	2.7 6.3	0 0	14.9 12.0	4.5 5.6	2.6 3.6

(第36表の続き)

しかられる理由	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
いたずらをする	8.3 13.3	11.9 13.8	5.8 1.8	0 0	1.8 5.3	8.5 12.0	10.2 4.0	0 0
家の中で騒ぐ・悪ふざけをする	6.7 6.7	5.1 3.4	2.6 0.9	1.4 0	1.8 2.6	2.1 0	2.5 0.8	2.6 0
悪いことをする	0 0	1.7 3.4	1.9 3.5	0 0	3.6 0	0 0	0 0	5.1 1.2
他人に迷惑をかける	0 0	0 0	0.6 0.9	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
行儀が悪い	3.2 3.3	0 3.4	0.6 0	0 0	0 2.6	0 0	0 0.8	2.6 6.0
仕事のがろい	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2.5 0.8	0 0
ぐずぐずしている・ぼやぼやしている	0 0	0 0	0.6 1.8	0 0	0 0	0 0	0.6 3.2	0 0
素直でない・わがままで・なまいきだ・だらしがない ふまじめだ	1.7 13.3	0 0	0.6 5.3	2.7 6.3	10.9 2.6	0 0	2.5 4.0	0 4.8
家の手伝いをしない	0 0	5.1 3.4	3.2 9.6	4.1 6.3	1.8 0	21.3 20.0	17.2 25.6	10.3 16.9
物や用事を忘れる	0 0	0 0	0.6 0.9	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
約束をやぶる	0 0	0 0	0.6 0.9	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
よけいなことをいう・する	0 0	1.7 3.4	0 0.9	0 0	0 0	0 0	0 0	2.6 3.6
そ の 他	0 0	1.7 3.4	2.6 2.6	10.8 15.6	7.3 0	4.3 0	0 0.8	2.6 6.0
無 答	25.0 3.3	5.1 3.4	18.1 21.1	52.7 20.3	21.8 26.3	2.1 4.0	29.9 13.6	28.2 16.9
叱られる子供の総数	60 30	59 29	155 114	74 64	55 38	47 25	157 125	39 83

第37表 (おかあさんに) どんなことでしかられることが多いですか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

しかられる理由	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女							
きょうだいげんか・弟妹をいじめる	23.5 20.0	27.3 9.1	39.2 25.9	12.4 13.0	17.6 35.3	16.7 12.1	20.4 16.1	19.6 10.6
勉強をしない・成績が悪い	30.9 20.0	10.9 18.2	19.9 12.4	13.4 4.0	19.6 14.7	8.3 15.2	4.8 6.0	6.5 6.8
親に反抗する・口答えをする・文句を言う・言うことをきかない	5.9 4.0	3.6 9.1	9.7 15.9	7.2 2.0	7.8 11.8	19.4 3.0	9.6 15.4	15.2 13.6
遊びすぎる	1.5 0	1.8 0	2.2 0.6	1.0 1.0	5.9 0	0 0	1.2 1.3	0 0
学校からの帰りがおそい	1.5 0	0 0	0.5 1.8	0 2.0	0 0	5.6 3.0	0 0.7	0 2.3
むだづかいをする・金づかいがあらいい	1.5 0	1.8 2.3	1.6 1.8	1.0 0	3.9 0	2.8 6.1	0.6 1.3	6.5 0.8
食事のすききらい・食べ方がよくない	0 6.0	5.5 0	2.2 3.5	2.1 0	0 2.9	0 0	1.8 0	0 0
テレビを見すぎる・見る番組がよくない	2.9 0	0 4.5	1.1 2.4	1.0 1.0	3.9 0	2.8 0	1.8 1.3	0 0
ことば使いが悪い・よくない流行語を使う	0 2.0	0 2.3	1.1 1.2	5.2 0	0 0	0 0	0 2.0	0 3.0
おしゃべりだ	0 0	0 0	0 1.2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
朝ねぼうだ・夜ふかしをする	0 0	0 0	1.1 4.7	4.1 3.0	0 0	8.3 0	0 0.7	0 5.3
呼ばれても返事をしない	0 0	0 2.3	0.5 2.4	0 0	0 0	0 0	0.6 2.7	0 0.8
後片づけをしない・散らかしばなした	7.4 18.0	0 18.2	9.1 8.8	10.3 5.0	5.9 5.9	5.6 12.1	1.8 2.7	0 3.0
物をこわす・なくす・粗末に扱う	7.4 6.0	1.8 2.3	3.2 2.9	0 0	3.9 2.9	5.6 3.0	0.6 0.7	0 0.8
失敗する	1.5 0	1.8 0	2.2 2.4	0 4.0	2.0 0	0 3.0	3.0 1.3	0 4.5

(第37表の続き)

しかられる理由	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男	女	男	女	男	女	男	女
いたづらをする	0	3.6	10.2	0	7.8	0	2.4	0
	4.0	2.3	2.9	0	5.9	0	2.0	0
家の中で騒ぐ・悪ふざけをする	1.5	0	2.2	0	0	0	2.4	0
	2.0	2.3	0.6	0	0	0	0.7	0
悪いことをする	0	3.6	0.5	0	0	5.6	4.2	0
	0	2.3	2.4	0	2.9	9.1	0.7	0
他人に迷惑をかける	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
行儀が悪い	0	0	0	1.0	0	0	0	2.2
	0	2.3	1.8	8.0	0	0	0.7	2.3
仕事のがろい	0	0	0.5	0	0	0	1.2	0
	0	0	1.2	4.0	0	0	0.7	3.0
ぐずぐずしている・ぼやぼやしている	0	0	0	0	0	0	0	0
	2.0	0	0	2.0	0	0	0.7	0
素直でない・わがままで・なまいきだ・だらしない	0	0	1.6	9.3	0	0	0.6	0
ふまじめだ	4.0	0	5.3	12.0	2.9	0	1.3	4.5
家の手伝いをしない	5.9	3.6	12.4	3.1	5.9	5.6	12.0	8.7
	8.0	6.8	17.6	22.0	8.8	33.3	25.5	20.5
物や用事を忘れる	0	0	0	0	0	0	0.6	0
	0	0	0.6	0	0	0	0.7	0
約束をやぶる	0	0	0.5	0	0	0	0	0
	0	0	1.2	0	0	0	0	0
よけいなことをいう・する	1.5	0	0	0	0	0	1.6	0
	0	2.3	0	0	2.9	0	1.3	0.8
そ の 他	5.9	14.5	5.4	9.3	11.8	13.9	5.4	6.5
	14.0	0	4.7	15.0	5.9	0	1.3	11.4
無 答	11.8	7.3	2.2	28.9	11.8	0	24.6	34.8
	4.0	2.3	0	19.0	5.9	3.0	15.4	18.9
叱られる子どもの総数	68	55	186	97	51	36	167	46
	50	44	170	100	34	33	149	132

第35表は、第41問・43問で父親・母親にそれぞれ叱られることが「よくある」「ときどきある」と答えた子どもがどんな理由で叱られることが多いのかを学校別に男女をこみにして示したものである。表中各欄の数字は、最下欄の叱られることがあると答えた子どもの総数に対する百分比。ただしひとりで二つ以

上の理由をあげていることがあるので、各欄の百分比の総計は100をこえる場合がある。(以下同じ)。

第36・37表の二つは、それぞれ父親・母親に叱られることが多い理由を学校×男女別にみたものである。

これら三つの表からたとえば次のようなことがわかる。

(1) 親に叱られることが多い理由として「きょうだいだんか・弟妹をいじめ」をあげるもの、「勉強をしない・成績がよくない」をあげるもの、「家の手伝いをしない」をあげる子どもがどの学校にもかなり多い。「親に反抗する・親に口答えをする・親に文句を言う・親の言うことをきかない」「後片づけをしない・散らかしばなしだ」「いたずらをする」「素直でない・わがままで・なまいきだ・だらしがたい・ふまじめだ」などの理由をあげる子どももかなり多い。

(2) まず「きょうだいげんか・弟妹をいじめる」について。

(a) この理由で子どもを叱るのを父親・母親別にみると、概して父親よりも母親のほうが多いことが多い。(第35表で、福島ではどの学校でも母親の比率が父親の比率よりも大きい。梁川でも梁小と梁高は母親の比率のほうが大きい。)

(b) 小中高校生別にみると、福島・梁川ともに高校生になると、この理由で叱られるのはかなり少なくなる。特にこの理由で父親に叱られるという子どもは、福島・梁川ともに高校生になると、ぐんと少なくなる(第35表)。これには福島では男子、梁川では女子が強く影響している(第36表)。

(c) この理由で叱られる子どもを学校×男女別にみると、それほどはっきりしたものではないが、父親の場合も母親の場合も、女子よりも男子に多い傾向が見られる(第36・37表)。これは、職業×男女別にみた場合もそうであった。(職業別にみた統計表をのせることは、とりやめ。)

(3) 「勉強をしない・成績が悪い」について。

(a) この理由で叱られる子どもを小中高校別にみると、福島・梁川ともに概して小学生に多く、中高校生に少ない(第35表)。これは、学校×男女別にみた第51・52表の場合も大体同じである。

(b) 福島・梁川の地域別にみると、この理由で子どもを叱る親は、小中高校ともに福島に多く、梁川に少ない(第35表)。これは、学校×男女別にみた第36・37表の場合も大体同じである。福島の子どもが梁川の子どもよりも勉強しないというのではなく、いわゆる教育ママ・教育パパ的な親が梁川よりも福島のほうに多いからであろう。

(c) この理由で叱られる子どもを学校×男女別にみると、父親にこの理由で叱られるのは、福島では概して女子より男子に多く、梁川では男子より女子に多い(第17表)。

(3) 「親に反抗する・口答えをする・文句をいう・言うことをきかない」について。

(a) この理由で子どもを叱るのを父親・母親別にみると、概して父親よりも母親のほうが多いことが多い(第35表)。

(b) この理由で叱られる子どもを男女別にみると、父親の場合は概して男子より女子のほうが多い例が多い(第36表)。

(c) 小中高校別、福島・梁川の地域別、親の職業別にみても、はっきりした傾向的な違いはない。

9. 子どもは親をどう呼ぶか

〔第23問〕

あなたがおうちでご両親と食事をしているとき、ご両親に話しかけるばあいは、なんとって呼びかけますか。

ア おとっつあん

イ おとうちゃん

ウ パパ

エ おとうさん

オ とうちゃん

カ とうさん

キ パパさん

ク おとうさま

ア おっかさん

イ かあちゃん

ウ おかあさん

エ おかあちゃん

オ おかあちゃま

カ ママ

キ おかあさま

ク ママさん

ケ おとうちゃま

ケ かあさん

コ その他(.....)

コ その他(.....)

松江での調査票の選択肢には、このほか、おとっちゃん・とっちゃん・ちゃっちゃん・おっかちゃん・おかはん・おかか・かっかがつけ加わっている。

A 学校別にみた場合

この設問に対する回答を学校別に集計してみると、第38表(イ)(ロ)のようになる。この二つの表から次のことがわかる。表中各欄の数字は、現在父親をもっている子どもの総数および母親をもっている子どもの総数に対する百分比。ひとりで二つ以上の選択肢を○で囲んでいる子どもが若干いるので、全部の合計が100をこえることがある。

第38表 あなたがおうちでご両親と食事をしているとき、ご両親に話しかけるばあいは、なんと言って呼びかけますか。

(イ) 父親の場合

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
おとっつあん	0.6	0	0	0	0	0	0.7	0	0	0.7	2.1
おとうちゃん	48.4	16.8	16.7	18.9	6.5	5.0	5.7	2.4	82.4	64.3	47.5
パパ	1.9	0	0	0.4	0	0	0.2	0	0.9	1.0	0
おとうさん	45.3	19.7	32.6	41.1	24.1	11.8	5.7	5.6	15.4	23.3	29.4
とうちゃん	9.3	59.9	45.4	27.4	63.5	79.0	82.5	85.1	2.1	4.2	2.1
とうさん	1.9	1.5	3.7	4.6	3.5	2.5	2.3	0.8	2.1	1.2	7.6
パパさん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.4
おとうさま	0	0	0.5	0.7	0	0	0.2	0	0	0	0
おとうちゃま	1.9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0.6	2.2	1.4	4.2	0.6	0.8	1.4	2.8	0.9	0.7	5.0
無 答	0	0	0	3.5	1.8	0	3.0	2.8	0	0	0
おとっちゃん	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.2	0
とっちゃん	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
ちゃっちゃん	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0

(四) 母親の場合

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
おっかさん	0.6	0	0.7	0.3	0.6	0	0.4	0	0	0	0.8
かあちゃん	15.3	59.3	44.9	33.0	70.5	81.3	85.4	88.0	1.6	4.0	3.1
おかあさん	46.0	21.4	33.0	37.6	22.2	12.2	5.3	3.6	16.9	20.1	31.0
おかあちゃん	41.7	15.0	15.9	17.5	4.5	4.9	3.8	2.0	83.1	68.8	50.2
おかあちゃま	0	0	0	0.3	0	0	0.4	0	0	0.2	0.8
ママ	1.8	0	0	1.3	0	0	0	0	0.8	0.9	0
おかあさま	0	0	0.2	0.7	0	0	0.4	0	0	0	0
ママさん	0.6	0	0.2	0	0	0	0	0	0.4	0.2	0
かあさん	2.5	1.4	4.0	6.6	1.7	1.6	2.4	0.8	2.0	2.1	7.8
そ の 他	1.2	2.9	1.1	1.7	1.1	0	0.9	3.2	0.8	0.7	4.7
無 答	0.6	0	1.3	1.7	0	0	1.5	2.0	0	0	0
おっかちゃん	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.2	0.4
おかはん	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.2	0
おかか	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0.2	3.1
かっか	—	—	—	—	—	—	—	—	0.4	0.2	0

(1) まず(イ)表からみていくと、父親をどう呼ぶかは、地域によって、また学校によって非常に異なる。福島1小では、おとうちゃん・おかあちゃとおとうさん・おかあさんが多く、ともに40~50%弱で、同勢力。これに対して、杉妻小・清沢小ではおとうちゃん・かあちゃんが60%弱で最も多く、次いでおとうさん・おかあさんがほぼ20%。おとうちゃん・おかあちゃんが15.6%である。同じ福島市の小学校でありながら、1小と杉妻小・清沢小の間にこのような違いがあるのは、前者が福島市の中でも最も都市的な地域を学区とする小学校であり、後者が戦後福島市に合併された農村的な地域を学区とする小学校であることからくるものであろう。

福島1中でもおとうちゃん・かあちゃんが約45%で最も多い。おとうさん・おかあさんは33%、おとうちゃん・おかあちゃんは16%ぐらいで、おとうちゃん・かあちゃんよりも勢力は弱い。

福島高校では、おとうさん・おかあさんがほぼ40%で最も多く、おとうちゃん

・かあちゃんは30%ぐらい。おとうちゃん・おかあちゃんは20%弱の勢力となっている。

(2) 梁川では、小中高校ともとうちゃん・かあちゃんの勢力が圧倒的に強い。おとうさん・おかあさんととうちゃん・かあちゃんの勢力関係が、同じ梁川町の小学校でも梁小と栗野小・五十沢小の間でかなり違うのは、前者が梁川町の中でも俸給生活者や商工業自営業者が比較的多い旧梁川町を学区とし、後者が戦後梁川町に合併された旧栗野村・五十沢村という純農村を学区としていることによるのだろう。

(3) 福島と梁川を比較すれば、とうちゃん・かあちゃんの勢力は小中高校ともに梁川のほうが福島よりも強く、おとうさん・おかあさん、それにおとうちゃん・おかあちゃんの勢力は、反対に福島のほうが梁川よりも強い。都市的なものと農村的なものをはっきりと分かれている。

(4) 松江では、小中高校ともにおとうちゃん・おかあちゃんが50%から80%台の間で最も勢力が強い。しかし、小学の80%台から中学の60~70%台、高校の40~50%台という具合に、上級学校にいくほど、その勢力は弱まる。これに対しておとうさん・おかあさんが小学校で15~16%、中学校で20~23%、高校で29~31%という具合に勢力を強めていくのが対照的である。

B 職業別にみた場合

福島1中・梁川中学・松江中学の子どもの回答を職業別にみると、第39表(i)(ii)のようになる。

第39表 あなたがおうちでご両親と食事をしているとき、ご両親に話しかけるばあいは、なんと言って呼びかけますか。(職業別)

(1) 父親の場合

(単位：パーセント)

	福島1中			梁川中学			松江中学		
	農家	俸給生 活者	商家	農家	俸給生 活者	商家	農家	俸給生 活者	商家
おとつあん	0	0	0	0	0	0	1.9	0.6	0
おとうちゃん	6.8	16.8	31.3	4.6	3.1	11.4	44.4	70.1	76.0
パパ	0	0	0	0	3.1	0	0	1.7	0
おとうさん	15.9	41.3	21.9	2.8	15.6	8.6	42.6	20.1	18.0
とうちゃん	70.5	37.5	38.9	88.3	59.4	77.1	3.7	6.9	0
とうさん	2.3	3.8	6.3	1.1	9.4	0	3.7	1.1	0
パパさん	0	0	0	0	0	0	0	0	0
おとうさま	0	0.5	0	0.4	0	0	0	0	0
おとうちゃま	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2.3	1.4	0	0.4	6.3	2.9	0	0.6	2.0
無 答	4.5	3.4	3.1	2.5	3.1	0	3.7	1.1	4.0
おとっちゃん	—	—	—	—	—	—	0	0	0
とっちゃん	—	—	—	—	—	—	0	0	0
ちゃっちゃ	—	—	—	—	—	—	0	0	0

(d) 母親の場合

	福 島 1 中			梁 川 中 学			松 江 中 学		
	農家	俸給生活者	商家	農家	俸給生活者	商家	農家	俸給生活者	商家
おっかさん	0	0.9	1.5	0	2.9	0	0	0	0
かあちゃん	69.6	36.5	43.9	89.3	62.9	78.4	1.9	6.6	0
おかあさん	15.2	41.2	27.3	3.9	17.1	5.4	44.4	16.4	11.3
おかあちゃん	10.9	15.6	22.7	2.1	5.7	16.2	46.3	73.8	81.1
おかあちゃま	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0
ママ	0	0	0	0	0	0	0	1.6	0
おかあさま	0	0	0	0.4	0	0	0	0	0
ママさん	0	0.5	0	0	0	0	0	0	0
かあさん	2.2	4.7	4.5	1.8	8.6	0	1.9	1.6	3.8
そ の 他	2.2	0.9	0	0.7	2.9	0	1.9	0	3.8
無 答	2.2	1.4	1.5	1.8	0	0	0	0	0
おっかちゃん	—	—	—	—	—	—	1.9	11.1	1.9
おかはん	—	—	—	—	—	—	0	0.5	0
おかか	—	—	—	—	—	—	1.9	0	0
かっか	—	—	—	—	—	—	0	0	0

この二つの表から次のことがわかる。

(1) まず職業別にみると、都市と農村の地域差からくる程度の違いはあるが、福島・梁川ともに農家では、とうちゃん・かあちゃんの勢力が圧倒的に強い。おとうさん・おかあさん、それにおとうちゃん・おかあちゃんが福島で若干の勢力をもっているけれども、とうちゃん・かあちゃんの勢力には比すべくもない。

俸給生活者では、福島・梁川ともにとうちゃん・かあちゃんの勢力が弱まっている。その弱まりかた・強まりかたには、もちろん福島・梁川の地域差からくる程度の違いがある。

商家でも、福島・梁川ともにとうちゃん・かあちゃんの勢力がやや弱まり、かわって、おとうちゃん・おかあちゃん、それにおとうさん・おかあさんの勢力が強まってくる。

(2) 次にいくつかの勢力の強い単語ごとにみると、とうちゃん・かあち

ゃんの勢力の強さは、福島・梁川ともに農家—商家—俸給生活者の順。おとうさん・おかあさんの勢力の強さは、福島・梁川ともに俸給生活者—商家—農家の順。それにおかあちゃんの勢力は、福島・梁川ともに商家—俸給生活者—農家の順。つまり異なる職業間の勢力の順位関係は、福島・梁川ともに同じである。おとうちゃんだけが福島では商家—俸給生活者—農家の順であるのに対し、梁川では商家—農家—俸給生活者の順という具合で、1位は福島・梁川ともに同じだが、2位と3位が入れかわっている。

(3) 松江では、おとうちゃん・おかあちゃんの組み合わせ、おとうさん・おかあさんの組み合わせの勢力が強い。このうち農家ではこの二つの組み合わせの勢力が全く伯仲し、俸給生活者と商家ではおとうちゃん・おかあちゃんの勢力が圧倒的に強い。

10. 子どもは家庭であいさつをどの程度しているか

家庭で日常子どもは、親や家族の人びとにどの程度あいさつをしているか。あいさつの場面として、次の6つをとりあげた。

- ① 朝起きたとき ③ 食事のはじめ ⑤ 朝登校するとき
② 夜寝るとき ④ 食事のおわり ⑥ 学校から帰ったとき

設問の内容は、それぞれ次のとおりである。(このうち松江では、第8問はやっていない。)

〔第2問〕

あなたは、朝起きてから、おとうさんやおかあさんにあいさつしますか。あてはまるものを○でかこんでください。(以下同じです。)

- ア いつもする。 イ しないこともあるが、するほうが多い。
ウ したり、しなかったり。 エ めったにしない。 オ 全然しない。

〔第3問〕

(あいさつする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

〔第4問〕

あなたは、食事のはじめに、あいさつをしますか。

[第5問]

(あいさつする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

.....

[第6問]

食事のおわりは、どうですか。

[第7問]

(あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

.....

[第8問]

あなたは、夜ねるとき、おとうさんやおかあさんにあいさつをしますか。

[第9問]

(あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

.....

[第17問]

あなたは朝登校するとき、家族のかたにあいさつをして、家を出ますか。

[第18問]

(あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

[第19問]

学校から帰ったときは、どうですか。

[第20問]

(あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

.....

第4・6・8・17・19の各問の選択肢は、第2問と全く同じなので省略する。

A 学校別および学校×男女別にみた場合

上の12の設問のうち、第2・4・6・8・17・19問の6つに対する子どもの回答を学校別および学校×男女別に集計整理した結果を次の第40表および第41表(イ)(ロ)に示す。

第40表 あいさつをしますか。(学校別)

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
朝起きてから	24.5 45.4	13.6 57.9	11.6 66.1	12.9 66.0	18.1 55.4	22.7 43.1	7.6 68.1	4.4 70.6	31.0 37.2	24.2 50.4	14.3 61.2
夜ねるとき	46.1 31.9	22.9 55.7	25.4 54.0	26.4 53.8	26.5 49.1	26.8 43.1	10.9 73.6	9.5 70.2	—	—	—
食事のはじめ	65.1 12.3	53.6 26.5	51.2 28.0	57.1 26.4	49.1 27.7	40.7 30.9	36.1 28.6	36.9 29.4	64.5 13.8	56.2 23.6	40.4 38.4
食事のおわり	63.2 12.9	56.5 19.3	55.8 24.8	53.4 21.8	60.4 17.0	44.7 25.9	40.2 26.8	39.3 28.2	70.6 13.9	64.3 20.2	49.6 26.4
朝登校するとき	87.2 4.9	80.7 5.0	72.5 11.8	70.0 14.8	75.2 11.3	65.0 10.6	50.9 23.3	56.8 19.8	85.7 5.3	76.7 10.9	65.1 20.1
学校から帰ったとき	85.9 6.1	75.8 7.9	69.8 13.6	71.3 13.8	83.1 10.2	76.4 7.3	59.8 20.5	65.5 12.6	86.1 6.5	79.1 8.9	75.6 12.1

第41表 あいさつをしますか。(学校×男女別)

(イ) 「いつもする」+「するほうが多い」

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	男 女										
朝起きてから	27.9 20.0	15.2 11.5	6.2 17.5	7.2 18.6	18.8 17.3	19.7 26.3	5.9 9.6	1.4 5.7	25.1 38.1	21.7 27.0	11.0 17.6
夜ねるとき	39.8 54.2	22.8 23.0	16.8 34.9	14.3 38.7	27.1 25.9	21.2 33.4	5.9 16.5	5.7 10.9	—	—	—
食事のはじめ	55.9 77.2	48.1 60.6	38.9 64.6	40.6 74.0	39.6 60.5	37.9 43.9	30.4 42.2	18.6 43.9	52.6 79.1	46.6 66.6	33.9 46.6
食事のおわり	55.9 72.8	50.6 63.9	45.2 67.4	39.8 67.4	48.9 74.0	40.9 49.2	31.3 50.1	24.2 45.1	57.0 87.3	58.8 70.1	47.2 51.9
朝登校するとき	83.9 91.4	75.9 86.9	62.4 83.5	57.5 82.7	67.7 84.0	54.6 77.1	41.2 61.4	37.2 64.3	78.5 94.6	67.9 86.3	65.3 64.9
学校から帰ったとき	82.8 90.0	70.9 82.0	59.0 81.6	58.2 84.7	75.0 92.5	69.7 84.2	50.5 70.2	48.6 72.0	80.8 92.7	69.2 89.7	73.2 77.8

(四) 「めったにしない」+「全然しない」

)単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	男 女										
朝起きてから	41.9 50.0	65.8 47.6	73.6 57.8	77.1 54.6	59.3 50.7	46.9 38.6	73.3 72.4	70.0 70.9	47.4 24.5	57.0 43.2	69.3 53.5
夜ねるとき	37.7 24.3	62.0 47.5	66.1 40.8	71.9 35.4	56.3 40.8	53.0 31.6	83.0 63.3	81.4 66.0	—	—	—
食事のはじめ	18.3 4.3	34.2 16.4	36.8 18.4	43.2 9.4	41.7 11.1	36.4 24.6	34.2 22.5	54.3 19.8	23.8 1.8	30.3 16.2	45.6 31.3
食事のおわり	19.4 4.3	27.8 8.2	34.7 13.7	34.6 8.7	26.0 6.1	31.9 19.3	33.0 20.2	50.0 19.7	20.8 5.5	25.8 14.2	31.4 21.4
朝登校するとき	5.4 4.3	6.3 3.2	16.3 6.9	23.6 6.0	16.7 4.9	12.2 8.8	30.0 26.1	34.2 14.3	8.9 0.9	15.8 5.4	22.0 18.3
学校から帰ったとき	6.5 5.7	10.1 4.9	20.5 6.0	24.8 2.6	15.6 3.7	4.5 10.5	27.5 12.8	22.9 8.8	8.9 3.6	14.5 3.0	14.2 10.0

第40表で各欄共に上の数字は、「ア いつもする」と「イ しないこともあるがするほうが多い」の二つの選択肢の支持率を合わせたもの。下の数字は、「エ めったにしない」と「オ 全然しない」の二つの選択肢の支持率を合わせたものである。

第40表と第41表(イ)ロから次のことがわかる。

(1) 子どもは、登校するときと学校から帰ったときのあいさつはよくする。食事のはじめとおわりのあいさつもかなりよくする。それに比較すると、朝起きてからのあいさつと夜ねるときのあいさつをする子どもは非常に少ない。とりわけ朝起きてからのあいさつをするものは非常に少ない。これは、福島・梁川・松江のどの学校でも、また、その男子・女子どちらの場合でも同じである。

(2) 福島1小と梁川小，福島1中と梁川中，福島高校と梁川高という具合に、小中高校別に福島と梁川の比較をしてみると、小中高ともに福島のほうがあいさつをよくしていると答えている。第40表の各欄上の数字は、どれも福島のほうが大きく、下の数字は、学校から帰ったときを除けば、あとはいずれも梁川のほうが大きい。(杉妻小・清沢小と栗野小・五十沢小は除外する。)

松江と梁川を小中高校別に比較してみると、この場合も梁川のほうが小中高

校ともにあいさつをあまりしないという結果になっている。第40表で各欄の上の数字は、どれも松江が大きく、下の数字は、食事のはじめと登校するときを除けば、あとはすべて梁川のほうが大きい。

(3) 小中高校別にみても、第40表で松江では各欄の上の数字は、上級の学校になるほど小さくなり、下の数字は上級学校になるほど大きくなる。つまり上級学級になるほどあいさつをしなくなる。

梁川と福島の場合は、松江の小中高校の場合ほどはっきりした関係はないが、それでも中高校生は小学生よりもあいさつをしないという関係は、どのあいさつの場面にも共通していることである。

(4) 男女別にみても、まず第41表(i)で、朝起きてからの1小と杉妻小・清沢小、それに梁小、朝登校するときの松江高松の四つを除いて、あとはどの学校の、どのあいさつの場面でも女子のほうの数字が男子の数字よりも大きい。

反対に第41表(ii)では、朝起きてからの福島1小と梁川高校、それに学校から帰ったときの粟野小・五十沢小を除けば、あとはどの学校の、どのあいさつの場面でも男子のほうの数字が女子よりも小さい。

つまり、概してどの地域の、どの学校のどのあいさつの場面でも、女子は男子よりもあいさつをよくするということになる。

B 職業別にみた場合

福島1中と梁川中学、松江中学の子どもの回答を職業別にみても、第42表のようになる。表中各欄の数字は、「いつもする」と「しないこともあるが、するほうが多い」の二つの選択肢の支持率を合わせたものである。「めったにしない」「全然しない」「したり、しなかったり」の三つの選択肢の支持率については紙幅の都合上省略する。

第42表 あいさつをしますか。(職業別)

「いつもする」+「しないこともあるが、するほうが多い」

(単位：パーセント)

	福 島 1 中			梁 川 中 学			松 江 中 学		
	農家	俸給生 活者	商家	農家	俸給生 活者	商家	農家	俸給生 活者	商家
	男 女								
朝起きてから	0 0	7.0 18.7	8.4 25.8	4.2 6.3	13.6 7.7	8.7 28.6	23.0 25.0	25.0 25.3	15.3 48.1
夜ねるとき	8.0 19.0	20.0 34.9	13.9 48.4	0.7 12.6	18.2 7.7	21.7 50.0	—	—	—
食事のはじめ	20.0 47.6	48.0 67.0	38.9 80.6	24.8 39.2	50.0 61.5	34.8 50.0	50.0 40.3	53.0 75.9	30.8 66.7
食事のおわり	28.0 42.8	47.0 67.9	47.2 83.9	26.9 51.1	45.4 53.9	34.7 42.9	69.2 53.6	64.0 77.1	42.3 74.1
朝登校するとき	48.0 81.0	68.0 82.1	58.3 87.1	31.2 58.1	59.1 84.6	60.8 71.4	69.2 78.6	75.0 88.0	50.0 85.2
学校から帰ったとき	64.0 81.0	64.0 82.1	55.6 80.7	43.9 67.9	67.2 68.1	69.5 85.7	69.2 78.6	75.0 90.3	53.9 85.2

第42表から次のことがわかる。

(1) 福島1中では、学校から帰った時の場合を除けば、あとほどのあいさつの場面でも男女ともに農家の子どもの選択肢支持率が最も低い。梁川中学でも、夜ねるときと、食事のおわりのときの女子を除けば、あとほどの場面でも農家の子どもの選択肢支持率が最も低い。つまり福島と梁川では、概して農家の子どもは、商家や俸給生活者の家庭の子どもよりもあいさつをしない。

松江中学の農家の女子の場合も、これと同じことがみられるが、男子の場合は、むしろ商家の子どもの選択肢支持率が農家の子どものそれよりも低くなっている。なぜこれだけがそうなっているのか。ちょっと推測がつかない。

(2) 夜ねるときの梁川中学の俸給生活者、それに食事のはじめとおわりの松江中学の農家・それに朝起きてからの福島一中の農家の四つの場合を除いて、ほかはすべてどの場合でも、女子の支持率のほうが男子の支持率よりも高い。

(3) 朝登校するときと学校から帰ったときの二つの場面でのあいさつをする比率が最も高く、食事のはじめとおわりの場面でのあいさつをする比率がそれに次いで高く、夜ねるときと朝起きてからの場面であいさつをする比率が最も

低い（とりわけ朝起きてからのあいさつの比率は非常に低い）。このことは、福島・梁川・松江のどの職業層にも共通している。

C どんなあいさつをするか

それでは、子どもは、それぞれのあいさつの場面で、どんなあいさつをしているか。第3・5・7・9・18・20問の6問に対する子どもの回答を福島市と梁川町に分だけについて整理・集計してみると、第43・44・45・46・47・48表のようになる。ひとりで二つ以上のあいさつの形式を記入している子どもがいるので、各欄の合計が100パーセントをこえることがある。あいさつの形式は、子どもが記入しているものをそのままのせた。中には、子どもたちの方言の音韻体系にもとづくかなづかいのあやまりがいくつかあったが、これもそのままのせた。注意してほしい。

第43表 (あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

—朝起きてから—

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女							
おはよう	81.5 71.4	70.4 71.0	61.7 73.9	75.9 76.5	83.8 65.0	45.7 25.7	77.3 67.1	33.3 66.7
おはよう ございます	13.0 25.7	25.9 22.6	21.3 23.9	13.8 23.5	18.9 22.5	54.3 74.3	27.3 11.8	0 9.8
おはようさん	1.9 0	0 0	0 0	0 1.5	0 0	0 0	2.3 1.3	0 2.0
おとうさん おかあさん おはよう ございます	0 0	3.7 0	2.1 1.1	0 0	0 2.5	0 0	0 0	0 0
おとうさん おかあさん おはよう	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2.5	0 0	0 0	0 0
おはよ	0 0	0 3.2	0 0	0 2.9	0 0	0 0	0 0	0 2.0
おはよう 起きたのかい (注1)	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2.5	0 0	0 0	0 0
今起きました	0 0	16.7 0						
グッド モーニング	0 0	0 0	2.1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
おはようで ございます	0 0	0 0	2.1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
きょうは少し早かったね (おそかったね)	0 0	0 0	0 1.1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
おねえさん おはよう	0 0	0 0	0 1.1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0

(注1) 「起きたのか」「起きたのかし」のか・かしと同類の福島北部方言の終助詞。
 くだけた、または親しみの気持をこめた対者尊敬の終助詞。「起きたのです
か」の意。

(第43表の続き)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	粟野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
もう何時ですか	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	1.1	0	0	0	0	0
今起きたよ	0	0	0	0	0	0	2.3	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
もう朝だよ	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	1.5	0	0	0	0
早いね	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	2.0
おはよう 今何時	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	1.5	0	0	0	0
うわ／＼おそくなっちゃった おはよう	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	1.5	0	0	0	0
ちょうしは どう？	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	1.5	0	0	0	0
きょうは 暖かい ない (寒い) (注2)	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	3.9
天候について	0	0	0	3.4	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
決まっていない	0	0	0	6.9	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
無 答	3.7	14.8	10.6	6.9	0	2.9	18.2	50.0
	5.7	12.9	2.3	0	10.0	8.6	19.7	15.7
あいさつをする子どもの総 数	54	27	47	29	37	35	44	6
	35	31	88	68	40	35	76	51

(注2) 「暖かいな」「暖かいなし」のな・なしと同類の福島北部方言の終助詞。くだけた、または親しみの気持をこめた対者尊敬の終助詞。「暖かいですね」「寒いですね」の意。かし・なしも対者尊敬の終助詞であるが、かい・ないとちがって、くだけた、親しみの気持はない。やや格式ばった表現である。

第44表 (あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

—食事のはじめ—

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
いただきます	86.7 92.5	88.5 90.2	90.1 77.5	100.0 100.0	85.7 95.8	83.8 83.8	83.5 92.3	90.6 91.1
いただきまーす	8.0 6.0	5.8 5.9	0 1.1	0 1.5	7.1 2.8	7.1 14.3	5.7 1.8	0 2.1
いただきあーす・いただき ゃあーす	1.3 0	3.8 3.9	0.7 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
いただきます	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0.6 0	0 0.7
おあがりなさい	0 0	0 0	0 0	0 0	1.8 0	0 2.4	0 0	0 0
いたきまつ	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
いただきます	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2.4	2.5 0	0 0
いただきます	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2.4 0	0 0	0 0
いただきます	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0.6 0	0 0
いただきます	0 0	0 0	0.7 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
かあちゃん いただきます	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1.2	0 0
きょうのは おいしいね	0 0	0 0	0 0	0 0.7	0 0	0 0	0 0	0 0
それじゃ食べるよ	0 0	0 0	0 0	0 0.7	0 0	0 0	0 0	0 0
おはよう ございます	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1.4	0 0	0 0.6	0 0
無 答	4.0 1.5	1.9 0	8.6 0.6	0 0	5.4 1.4	4.8 2.4	7.0 4.1	12.5 6.8
あいさつをする子どもの総 数	75 67	52 51	151 178	87 136	56 72	42 42	158 169	32 146

第45表 (あいさつする人だけ) なんと行って、あいさつをしますか。

—食事のおわり—

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女							
ごちそうさま	73.3 76.1	52.6 66.1	58.6 62.0	70.3 79.6	78.6 88.2	60.0 65.2	68.6 75.3	74.3 83.6
ごちそうさまでした	13.3 19.4	10.5 10.7	18.4 22.5	14.8 15.3	2.9 5.3	13.3 19.6	9.0 13.8	0 6.2
ごちそうさん	2.7 6.0	8.8 0	16.4 6.4	24.7 5.1	10.0 2.6	2.2 4.3	3.8 1.7	5.7 3.4
ごっつおうさま・ごっつお うさん・ごっつおうさま・ご っつおうさん	6.7 1.5	21.1 17.9	1.3 0.5	0 0	7.1 0	0 6.5	0.6 1.1	5.7 0.7
ごしそうさま	2.7 0	0 3.6	1.3 0.5	0 0	0 0	0 2.2	0 0	0 0
おちそうさま	0 1.5	0 0						
いただきました	0 1.5	0 0	1.3 1.1	2.5 1.5	0 0	0 0	0 0.6	0 0.7
ごっつあん・ごっつあんで す・ごっつあん・ごっつあん でした	1.3 1.5	3.5 0	0 0	2.5 0	1.4 0	0 0	1.3 0	0 0
ごちそうさまです	0 0	1.8 0	0 0.5	0 0	0 0	0 0	0.6 1.1	0 0
ごきそうさま・ごきそうさ までした	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2.6	8.9 8.7	3.2 1.1	0 0
ごちそうさんでした	0 0	0 0	2.0 0	1.2 0	0 0	0 0	0 0	0 0
ごっつおうさまでした	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2.2 0	0 0	0 0
ごしそうさん	0 0	0 0	0.7 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
おごちそうさま	0 0	0 0	0 0	0 0.7	0 0	0 0	0 0	0 0

(第45表の続き)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
ごっしょうさま	0 0	1.8 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
ごちょうさま	0 0	1.8 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
ごそさん・ごそうさま	0 0	0 1.8	0 0	0 0	0 0	0 2.2	0 0	0 0
ごぞうさま・ごぞうさん	0 0	0 0	0 0	0 0	1.4 0	2.2 0	0 0	0 0
ごきそう	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2.2 0	0 0	0 0
もう ごちそうさま	0 0	0 0	0 0	2.5 0	0 0	0 0	0 0	0 0
ごんそうさんでした	0 0	0 0	0 0	1.2 0	0 0	0 0	0 0	0 0
(ああ)おいしかった(よ)・ うまかった(よ)	0 0	0 0	0.5 0	0 2.2	0 0	0 0	0 0	0 1.4
ごはん あと食べない	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2.2 0	0 0	0 0
これ どう やって つく んの	0 0	0 0	0 0	0 0.7	0 0	0 0	0 0	0 0
声を出さないで、合掌する	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0.7
無 答	0 0	0 0	0 0.5	0 0	0 1.3	6.7 0	12.8 5.2	14.3 3.4
あいさつをする子どもの総 数	75 67	57 56	152 187	81 137	70 76	45 46	156 174	35 146

第45表 (あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

—夜ねるとき—

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小		1中		梁小		高校	
	男	女	男	女	男	女	男	女
おやすみなさい	74.1	36.7	56.8	55.3	65.0	71.0	62.5	15.4
	66.0	81.3	71.3	63.9	70.2	76.9	47.4	53.2
お や す み	34.5	36.7	33.3	68.4	32.5	22.6	15.0	30.8
	30.2	28.1	20.2	32.0	29.8	10.3	26.9	33.9
おとうさん おかあさん	0	0	1.2	0	0	3.2	0	0
おやすみなさい・おやすみ	5.7	0	1.6	1.0	4.3	2.6	0	0
とうさん かあさん おやす	0	0	0	0	0	0	0	0
みなさい・早くねらんしょ	0	0	0	0	0	2.6	1.3	0
(注1)	0	0	0	0	0	0	0	0
おやすみない・おやすみな	0	0	0	0	0	0	0	0
んしょ(注2)	0	0	0	0	0	2.6	1.3	0
じゃ ねっかな おやすみ	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
もうねるわ おやすみなさ	0	0	0	0	0	0	0	0
い	0	0	0	0	0	0	0	0
ねる・ねるよ・ねるは・ね	0	16.7	0	1.0	0	3.2	2.5	0
るよは・ねるぞは・ねるよ	0	9.4	1.6	0	0	5.1	5.1	1.6
おかあさん(注4)	0	0	0	1.0	2.5	0	0	7.7
ねます・ねますよ	0	6.3	0	5.3	6.4	0	0	0
ねっかない・ねっかない	0	3.3	0	0	0	0	2.5	7.7
いは(4注)	0	0	0	0	0	0	0	1.6
ねっつおいねっ・つおいは	0	3.3	0	0	0	0	0	7.7
(注4)	0	0	0.8	0	0	0	1.3	0
さきにねているよ・さきに	0	0	0	0	0	0	0	0
ねるよ	0	0	0	0	0	2.6	1.3	0
朝早くおきるからねるよ	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	1.3	0
みんなねらんしょ(注1)	0	0	0	0	0	3.2	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0

(第46表の続き)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
ねっから かあちゃんも 早くねらんしょ(注1)	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1.3	0 0
ねっぺーよ	0 0	0 0	0 0	0 0	2.5 0	0 0	0 0	0 0
おさき(に)ごめんなさい	0 1.9	0 0	0 0	0 0	0 4.3	0 0	2.5 0	0 0
おさき(に)失礼します	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1.3 0	0 0
おさき・おさきに	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2.6 1.6	0 0
じゃ先に休みます	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1.6
休むぞい(注3)	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 1.6
good night・バイバイ・ さよなら	0 0	0 0	0.8 0	2.6 3.1	0 0	0 0	0 0	7.7 1.6
また あした	0 0	0 0	0 0	0 1.0	0 0	0 0	0 0	0 0
ね む い	1.7 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
きまっています	0 0	0 0	1.2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
無 答	1.7 1.9	3.3 0	7.4 4.7	0 0	2.5 2.1	0 2.6	15.0 10.3	30.8 9.7
あいさつをする子どもの総 数	58 53	30 32	81 129	38 97	40 47	31 39	40 78	13 62

(注1) 福島北方言の動詞「ねる」の命令を表わす尊敬表現。

(注2) 同上方言の動詞「やすむ」の命令を表わす尊敬表現。

(注3) 同上方言の終助詞。「休むぞ」「休むぞし」のぞ・ぞしと対立する。くだけた、または親しみの気持をこめた対者尊敬語。「休みますよ」の意。

(注4) は [ha] は、同上方言の副詞。標準語の副詞「もう」にはほぼ対応する。聞き手に対する話し手の軽い訴え、または呼びかけの気持を表わす。

第47表 (あいさつをする人だけ) なんと行っていさあつをしますか。

—朝登校するとき—

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小		1中	高校	梁小	粟野小 五十沢小	梁中	高校
	男	女	男	女	男	女	男	女
いってきます	56.8 56.7	47.3 33.9	56.0 56.2	48.3 42.6	21.3 24.7	29.3 17.3	28.0 28.0	32.6 32.0
いってまいります	42.0 43.3	45.9 57.6	52.0 57.6	37.1 58.2	67.5 75.3	69.0 76.9	53.0 64.3	52.2 64.7
じゃ行ってきます	0 0	0 0.7						
(お母さん)学校に行っ てきます	0 0	0 0	0.5 0	0 0	0 0	0 0	0.6 0	0 0
いってまいります。メリー さ御飯くっちない。(注1)	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0.5	0 0
いってまいります	1.1 0	4.1 0	1.5 1.0	0.9 0	1.3 0	0 0	0 0	0 0
いってまいにます	0 0	0 1.7	0 0	0 0	0 0	0 1.9	0 0	0 0
いってきゃんす	1.1 0	0 0						
いってくる(よ)	2.3 0	0 3.4	3.0 1.5	6.0 0	1.3 0	0 0	2.4 1.6	0 1.3
いってくるぞ	0 0	0 0	0.5 0	0.9 0	0 0	0 0	0 0	0 0
いってくっつおい・いっ てるぞい	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1.7 1.9	0.6 0	0 0
いってくっつおよい	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0.5	0 0

(第47表の続き)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	翠野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
かあちゃん、いってくるよ ・お母さん、いってくる	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0.6 0.5	0 0
学校にいってくる・学校さ いってくる	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0.6 0.5	0 0
いくよ・それではいくよ	0 0	1.4 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0.6 0	0 0
いってくるから・いって くから	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0.5	4.3 0.7
いってくんない・(学校さ) いってくっかんない・い てくっからない	0 0	4.1 0	0.5 0	0.9 0	2.5 0	1.7 0	4.9 1.1	6.5 0
いんかん ない	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0.5	0 0.7
バ イ バ イ	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0.7
勉強してくる	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0.5	0 0
クラブでおそくなる	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2.2 0
行ってくるから留守番たの むよ	0 0	0 0	0 0.5	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
無 答	0 3.0	0 3.4	0 0	6.0 0	6.3 0	0 3.8	8.5 6.0	17.4 4.6
あいさつをする子どもの総 数	88 67	74 59	200 203	116 141	80 77	58 52	164 182	46 153

(注1) 「メリー(犬の名前か?)に御飯をやって下さいね」の意。

第48表 (あいさつをする人だけ) なんて言って、あいさつをしますか。

—学校から帰ったとき—

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女							
た だ い ま	92.0 90.9	98.6 82.8	96.8 97.5	98.2 91.7	91.4 96.2	93.7 98.0	91.8 94.7	77.8 96.3
た だ い ま あ	8.0 9.1	2.8 15.5	0.5 1.5	0 4.8	3.7 1.3	3.2 0	3.5 2.1	7.4 1.8
ただいま帰ったよ・ただいま 帰りました	0 0	0 1.7	0 1.5	0 0	1.2 0	0 0	0.6 0	0 0
いま帰ったよ・帰ったよ	0 0	0 0	0 0	0 0.7	0 1.3	0 0	0.6 0	0 0.6
帰 っ た よ	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0.6 0	1.9 0
帰 っ て 来 た よ	0 0	0 0	0 0	0.9 0	0 0	0 0	0.6 0	0 0
行 っ て 来 ま し た	0 0	0 0	0 0	0 0.7	0 0	0 0	0 0	0 0
おかあさん た だ い ま	1.1 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0.6
た だ い ま は ら へ っ た	0 0	2.8 1.7	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
何 か た べ た い な	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 2.0	0 0	0 0
は ら へ っ た 。 ま ん ま な い か	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1.6 0	0 0	0 0

(第48表の続き)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
おなかがすいてきた・はらへった	0 0	0 0	0 0	0 0.7	0 0	0 0	0 0.5	0 0
早く ごはんにして	0 0	0 0	0 0	0 0.7	0 0	0 0	0 0	0 0
いま きたぞい(注1)	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0.6
(ああ) つかれた	0 0	0 0	0 0	0 1.4	0 0	0 0	0 0	0 0.6
あ あ	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1.6 0	0 0	0 0
寒 か っ た	0 0	0 0	0 0	0 1.4	0 0	0 0	0 0	0 0
おかあさん	0 1.5	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
ただいまでやんす	0 1.1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
ベルを鳴らす	0 0	0 0	0 0	0 0.7	0 0	0 0	0 0	0 0
無 答	0 0	0 0	2.7 0	0 0.9	3.7 1.3	0 0	2.9 2.6	13.0 0
あいさつをする子どもの総数	87 66	71 58	188 204	112 145	81 78	63 51	170 189	54 163

(注1) 第63表の(注3)を参照。

11. 子どもは親といっしょに仕事をしたり遊んだりすることがあるか

[第24問]

おとうさんは、あなたといっしょに遊んでくれることがありますか。

ア よくある。 イ ときどきある。 ウ ほとんどない。

[第25問]

(「ある」と答えた人だけ) どんなことをして、遊んでくれますか。

.....

[第26問]

おかあさんは、あなたといっしょに遊んでくれることがありますか。

ア よくある。 イ ときどきある。 ウ ほとんどない。

〔第27問〕

〔ある〕と答えた人だけ) どんなことをして、遊んでくれますか。

.....

〔第28問〕

あなたは、おとうさんといっしょに仕事をすることがありますか。

ア よくある。 イ ときどきある。 ウ ほとんどない。

〔第29問〕

〔ある〕と答えた人だけ) いっしょにどんな仕事をしますか。

.....

〔第30問〕

あなたは、おかあさんといっしょに仕事をすることがありますか。

ア よくある。 イ ときどきある。 ウ ほとんどない。

〔第31問〕

〔ある〕と答えた人だけ) いっしょにどんな仕事をしますか。

.....

A 学校別および学校×男女別にみた場合

第24・26・28・30問の四つについて、学校別および学校×男女別に集計した結果を第49・50・51・52・53・54表の六つの表に示す。(松江ではこれらの設問はしていない。) 第49表の表中各欄ともに上の数字は第24問、下の数字は第26問の選択肢支持率。第50表の表中各欄の上の数字は第28問、下の数字は第30問の選択肢支持率を示す。それぞれ現在父親をもっている子どもの総数、母親をもっている子ども総数に対する百分比である。

第49表 おとうさん（おかあさん）は、あなたといっしょに遊んでくれることがありますか。（学校別）

（単位：パーセント）

選 択 肢	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 澁沢小	1 中	高 校	梁 小	栗野小 五十沢小	梁 中	高 校
	父 母							
よくある	16.1 9.8	4.4 1.4	5.7 3.5	3.5 4.3	5.3 4.0	5.0 1.6	1.6 1.1	1.6 3.6
ときどきある	46.0 30.7	41.6 20.0	29.1 19.7	22.1 16.2	29.4 18.2	21.0 16.2	18.6 16.6	27.0 10.0
ほとんどない	36.6 57.1	53.3 77.9	62.4 75.2	70.9 74.3	61.8 73.3	71.4 75.6	78.6 79.9	65.7 82.1
無 答	1.2 2.5	0.7 0.7	2.7 7.5	3.5 5.3	3.6 4.6	2.5 6.5	1.1 2.4	5.6 4.4

まず第49表から次のことがわかる。

(1) 子どもは、親がいっしょに遊んでくれることは非常に少ないと意識している。これは、福島・梁川のどの学校でもそうである。

(2) 子どもは、父親よりも母親のほうが一層遊んでくれることが少ないと意識している。これは、福島・梁川のどの学校でもそうである。（「よくある」の選択肢支持率は、梁川高校のほかはすべて父親が母親よりも高い。「ときどきある」の選択肢支持率はどの学校でも父親が母親よりも高い。反対に「ほとんどない」の支持率は、どの学校でも父親が母親よりも低い。）

(3) 概して「よくある」「ときどきある」と肯定的な回答をするのは小学生のほうが多く、「ほとんどない」と否定的な回答をするのは中高校生のほうが多い。

(4) いくつか例外があるが、概して肯定的な回答をするのは福島のほうが多く、否定的な回答をするのは梁川のほうが多い。農村の子どもが都市の子どもよりも否定的な回答をするのである。

第50表 おとうさん（おかあさん）といっしょに仕事をすることがありますか。（学校別）

（単位：パーセント）

選択肢	福島市				梁川町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	父 母							
よくある	15.5 28.8	10.2 22.9	9.4 21.0	10.5 24.1	10.6 20.5	25.2 26.8	18.0 24.7	20.2 47.0
ときどきある	32.9 42.9	50.4 50.7	39.7 46.7	42.8 41.3	35.3 31.2	50.4 52.0	48.9 47.9	40.3 33.5
ほとんどない	50.3 26.4	38.0 25.7	47.9 31.4	43.5 33.3	50.6 45.5	20.2 19.5	31.4 23.8	36.7 17.5
無答	1.2 1.8	1.5 0.7	3.0 0.9	3.2 1.3	3.6 2.8	4.2 1.6	1.8 3.5	2.8 2.0

第50表から次のことがわかる。

(1) 第49表の親といっしょに遊ぶということと比べると、親といっしょに遊ぶよりも親といっしょに仕事をすることのほうがよくあると意識している子どものほうがずっと多い。これは福島1小の父の場合を除いて、どの学校でもそうである。（「ほとんどない」の支持率は、福島1小の父を除いて、あとはずべて第49表が第50表よりもずっと高い。反対に「よくある」「ときどきある」の支持率は、福島1小の父を除いて、あとはずべて第49表が第50表よりも低い。）

(2) 子どもは、父親よりも母親といっしょに仕事をすることが多いと意識している。（「よくある」の支持率は福島・梁川のどの学校でも母親が低い。）

第49表では、子どもは母親よりも父親といっしょに遊ぶことが多いと意識しているから、この意味で遊ぶことを通しての子どもと父親・母親の関係と、仕事をいっしょにすることを通しての子どもと父親・母親の関係は、逆の関係になる。

第51表と第52表から次のことがわかる。

第51表 おとうさんは、あなたといっしょに遊んでくれることがありますか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

選択肢	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
よくある	18.7 12.9	5.3 3.3	4.3 7.3	2.1 4.9	4.3 6.4	4.8 5.4	1.8 1.4	1.5 1.7
ときどきある	48.4 42.9	44.7 37.7	31.3 26.7	16.2 28.0	34.8 23.1	25.4 16.1	18.4 18.9	58.0 15.1
ほとんどない	30.8 44.3	48.7 59.0	62.2 62.6	79.6 62.2	57.6 66.7	66.7 76.8	78.9 78.3	39.1 76.0
無 答	2.2 0	1.3 0	2.2 3.4	2.1 4.9	3.3 3.9	3.2 1.8	0.9 1.4	1.5 7.3

第52表 おかあさんは、あなたといっしょに遊んでくれることがありますか。(学校×男女別)

(単位：パーセント)

選択肢	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
よくある	7.5 12.9	0 3.3	0.8 6.5	0 8.7	0 8.6	1.5 1.8	0.4 1.9	0 5.0
ときどきある	25.8 37.1	12.7 29.5	11.4 28.7	4.6 28.0	15.8 21.0	6.1 28.1	7.2 26.9	5.7 11.6
ほとんどない	63.4 48.6	87.3 65.6	85.7 63.9	91.5 56.7	77.9 67.9	84.8 64.7	89.5 69.4	92.9 77.9
無 答	3.2 1.4	0 1.6	2.1 0.9	3.9 6.7	6.3 2.4	7.6 5.3	3.0 1.9	1.4 5.5

(1) 母親が自分といっしょに遊んでくれることがよくあると意識しているのは、男子よりも女子に多い。これは、福島・梁川のどの学校でもそうである。(第52表で「よくある」「ときどきある」の支持率は、どの学校でも女子が男子よりも高く、「ほとんどない」の支持率は、反対にどの学校でも女子が男子よりも低い。]

第51表で父親が自分といっしょに遊んでくれることがよくあると意識しているのは女子よりも男子に多いという関係がどの学校でもみられるとおもしろい。

だが残念なことに、この関係は、福島1小・杉妻清沢小・梁川小・粟野五十沢小・梁川高校には見られるが、そのほかの学校では見られない。

(2) ごく概略的に言って、親といっしょに遊ぶことが少ないと意識している子どもは、男女ともに上級学校に行くほど多くなる。(第51表の「ほとんどない」の支持率は、梁川高校の男子に著しい例外があるが、ほぼ上級学校に行くほど高くなる。第52表の「ほとんどない」の支持率も、男女ともにほぼ上級学校に行くほど高くなる。)

第53表と第54表から次のことがわかる。

第53表 あなたは、おとうさんといっしょに仕事をすることがありますか。(学校×男女別)
(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
	男 女							
よくある	14.3 17.1	13.2 6.6	10.9 7.8	10.6 10.5	14.1 6.4	25.4 25.0	24.1 11.3	33.3 15.1
ときどきある	40.7 22.9	51.3 49.2	43.5 35.4	50.7 35.0	39.1 30.8	55.6 44.6	51.3 46.2	39.7 41.3
ほとんどない	42.9 60.0	34.2 42.6	43.0 53.4	37.3 49.7	45.6 56.4	15.9 25.0	22.4 41.0	26.1 40.8
無 答	2.2 0	1.3 1.6	2.6 3.4	1.4 4.9	1.1 6.4	3.2 5.4	2.2 1.4	2.9 2.8

第54表 あなたは、おかあさんといっしょに仕事をすることがありますか。(学校×男女別)
(単位：パーセント)

選 択 肢	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
	男 女							
よくある	18.3 42.9	16.5 31.1	5.5 38.0	5.2 43.3	12.6 29.6	13.6 42.1	10.1 40.7	12.9 60.2
ときどきある	41.9 44.3	44.3 59.0	43.6 50.0	35.3 47.3	27.4 35.8	54.5 49.1	44.7 51.4	34.3 33.1
ほとんどない	36.6 12.9	39.2 8.2	49.6 11.6	58.8 7.3	57.9 30.9	28.8 8.8	40.1 6.0	51.4 4.4
無 答	3.2 0	0 1.6	1.3 0.5	0.7 2.0	2.1 3.7	3.0 0	5.1 1.9	1.4 2.2

(1) 父親といっしょに仕事をすることがあると意識しているのは、女子よりも男子のほうが多い。(第53表で「よくある」「ときどきある」の支持率は、福島1小と梁川高校のほかは、どれも男子が女子よりも高い。「ほとんどない」の支持率は、反対にどの学校でも女子が男子よりも高い。)

第51表と52表で、母親が自分といっしょに遊んでくれることがよくあると意識しているのは、福島・梁川のどの学校でも男子よりも女子に多い、ということがわかっている。したがって、ここで第53表と54表でわかった前述のこととを合わせれば、次のようになる。

遊びおよび仕事をいっしょにするということを通しての親と子どもの結びつきを性別にみると、福島・梁川のどの学校でも、男子←→母親、女子←→父親という異性同士の結びつきよりも、男子←→父親、女子←→母親という同性同士の結びつきのほうが強い。(これは職業別にみた場合も同じ。第55・56・57・58表を参照。)

ところで、第22問「困ったことがあったとき、あなたはふつう、家族の中で、だれに最初に相談したいと思いますか。」の回答を集計した結果では、父親に相談するというのは、女子よりも男子に多く、母親に相談するというのは、反対に男子よりも女子に多い、ということがわかっている。(くわしくは、第6表(21ページ)を参照。)

また、第32問「家族の中で、あなたがいちばん話のしやすいと思う人は、だれですか。反対に、家族の中で、いちばん話のしにくいと思う人は、だれですか。」という問いに対する子どもの回答を整理してみると、父親を話しやすいとするものは、女子よりも男子に多く、母親を話しやすいとするものは、男子よりも女子に多い、ということがわかっている。(くわしくは、第11表(27ページ)を参照。)

第21問「家族の中で、あなたがふだんいちばん多く話をする相手のかたは、だれですか。その次に、あなたが多く話をする相手のかたは、だれですか。反対に、話すことがいちばん少ないと思う相手のかたは、だれですか。その次に、少ないと思う相手のかたは？」に対する子どもの回答を集計した結果では、男子←→父親のコミュニケーションは女子←→父親のコミュニケーションよりも

強く、反対に男子←→母親のコミュニケーションは女子←→母親のコミュニケーションよりも弱い。福島・梁川のどの学校の子どもも、上のように意識していることがわかったのである。（くわしくは、第17表（36ページ）を参照。）

つまり、コミュニケーション、またはコミュニケーションのしやすさに関する以上の三つの設問（第22・32・21問）を通して、親と子どもの結びつきを性別にみると、福島・梁川のどの学校でも、男子←→母親、女子←→父親という異性同士の結びつきよりも、男子←→父親、女子←→母親という同性同士の結びつきのほうが強い、ということになる。そして、このことは、遊びおよび仕事をいっしょにするということを通しての親と子どもの結びつきを性別にみた際にわかった前述の事実、つまり福島・梁川のどの学校でも、男子←→母親、女子←→父親という異性同士の結びつきよりも、男子←→父親、女子←→母親という同性同士の結びつきのほうが強いという事実と非常に深い関係をもっているのであろう。（どちらがニワトリであり、どちらがタマゴであるとは、一概に言いきることはできるまい。おそらく双方のそれぞれが他に対してニワトリであり、タマゴであるのだらう。）

(3) 親といっしょに仕事をすることがあると意識しているのは、中高校生の場合福島より梁川の子どもに多い。これは男子・女子ともにそうである。（第53表でも第54表でも、「ほとんどない」の支持率は、男女ともに梁川のほうが低い。）小学生の場合は、あまりはっきりした関係がみられない。

これを第51表・52表の親といっしょに遊ぶ場合と比較してみると、親がいっしょに遊んでくれることがあると意識しているのは、2、3の例外はあるが、概して小中高校ともに福島のほうが多い。つまりごく概略的に言って、福島の子どもは親といっしょに仕事をするよりも遊ぶことのほうがよくあると意識している。少なくとも中高校生の子どもの間では男女ともにそうである。都市と農村の間の違いと解釈してよいだろう。

B 職業別にみた場合

福島1中と梁川中学の子どもの回答を職業別にみると、第55・56・57・58表のようになる。

第55表 おとうさんは、あなたといっしょに遊んでくれることがありますか。(職業別)

(単位：パーセント)

	福 島 1 中						梁 川 中 学					
	農 家		俸給生活者		商 家		農 家		俸給生活者		商 家	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
よくある	0	0	8.1	8.3	0	6.9	0	0.7	5.0	0	4.8	0
ときどきある	13.0	9.5	38.4	34.9	31.4	27.6	12.9	14.1	60.0	41.7	19.0	42.9
ほとんどない	87.0	90.5	50.5	51.4	65.7	62.1	85.6	83.8	35.0	50.0	76.2	57.1
無 答	0	0	3.0	5.5	2.9	3.4	1.4	1.4	0	8.3	0	0

第56表 おかあさんは、あなたといっしょに遊んでくれることがありますか。(職業別)

(単位：パーセント)

	福 島 1 中						梁 川 中 学					
	農 家		俸給生活者		商 家		農 家		俸給生活者		商 家	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
よくある	0	4.8	1.0	6.3	2.9	9.7	0	0.7	0	7.7	0	0
ときどきある	4.0	23.8	13.0	32.4	14.3	29.0	9.4	21.1	4.5	23.1	8.7	50.0
ほとんどない	92.0	71.4	82.0	59.5	82.9	61.3	88.5	76.1	86.4	69.2	87.0	50.0
無 答	4.0	0	4	1.8	0	0	2.2	2.1	9.1	0	4.3	0

第55表と第56表から次のことがわかる。

(1) 父親・母親がいっしょに遊んでくれることが少ないと意識しているのは、農家の子どもが最も多い。これは、福島・梁川の男女ともにそうである。(第55・56表で「ほとんどない」の支持率は、福島・梁川の男女ともに農家が最も高い。)

(2) 父親がいっしょに遊んでくれることがないという意識は、概して男子よりも女子に強く、反対に母親がいっしょに遊んでくれることがないという意識は、女子よりも男子に強い。(第55表の「ほとんどない」の支持率は、梁川の俸給生活者のほかは、すべて女子のほうが高い。第56表の「ほとんどない」の支持率は、すべて男子のほうが高い。)

第57表と第58表から次のことがわかる。

第57表 あなたは、おとうさんと、いっしょに仕事をすることがありますか。(職業別)

(単位：パーセント)

	福 島 1 中						梁 川 中 学					
	農 家		俸給生活者		商 家		農 家		俸給生活者		商 家	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
よくある	21.7	9.5	11.1	6.4	5.7	10.3	30.2	12.7	10.0	8.3	19.0	14.3
ときどきある	52.2	38.1	44.4	36.7	40.0	31.0	50.4	55.6	70.0	25.0	47.6	35.7
ほとんどない	26.1	47.6	41.4	53.2	48.6	58.6	17.3	30.3	15.0	58.3	33.3	50.0
無 答	0	4.8	3.0	3.8	5.7	0	2.2	1.4	5.0	8.3	0	0

第58表 あなたは、おかあさんといっしょに仕事をすることがありますか。(職業別)

(単位：パーセント)

	福 島 1 中						梁 川 中 学					
	農 家		俸給生活者		商 家		農 家		俸給生活者		商 家	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
よくある	16.0	52.4	3.0	30.6	5.7	29.0	10.8	40.8	9.1	30.8	4.3	35.7
ときどきある	60.0	38.1	42.0	55.0	42.9	58.1	51.1	52.8	36.4	46.2	43.5	50.0
ほとんどない	20.0	9.5	53.0	13.5	51.4	12.9	33.1	4.2	50.0	23.1	43.5	14.3
無 答	4.0	0	2.0	0.9	0	0	5.0	2.1	4.5	0	8.7	0

(1) 父親といっしょに仕事をする人が多いと意識しているのは、農家の子どもに最も多い。これは、福島・梁川の男女ともにそうである。(第57表で、「よくある」と「ときどきある」の二つの選択肢の支持率を合わせたものは、福島・梁川の男女ともに農家が最も高い。反対に「ほとんどない」の支持率は、梁川の子に例外があるが、ほかはすべて農家が最も低い。)

(2) 母親といっしょに仕事をする人が多いと意識しているのも、農家の子どもが最も多い。これも、福島・梁川の男女ともにそうである。(第58表で、「よくある」と「ときどきある」の二つの選択肢の支持率の合計は、福島・梁川の男女ともに農家が最も高い。反対に「ほとんどない」の支持率は、福島・梁川の男女ともに農家が最も少ない。)

つまり遊びを通しての親との結びつき、および仕事を通しての親との結びつきについての子どもの意識を職業別にみると、農家の子どもは、他の二つの職

業層の子どもに対して、全く逆の関係に立つ。

(3) 父親といっしょに仕事をすることがあると意識しているのは、女子よりも男子に多い。これは、福島・梁川のどの職業層の男女ともにそうである。反対に、母親といっしょに仕事をするがある意識しているのは、男子よりも女子に多い。これも、福島・梁川のどの職業層の男女ともにそうである。

(「よくある」と「ときどきある」の支持率の合計は、すべて第57表では男子が高く、第58表では女子が高い。「ほとんどない」は、反対に第57表ではすべて女子が高く、第58表ではすべて男子が高い。)

12. 家庭の中でよく話す人・あまり話さない人はだれか

[第10問]

家族のみなさんは、みんなで話をしながら食事をするもののほうが多いですか。それとも、あまり話をしないで食事をするもののほうが多いですか。

- ア みんなで話をしながら食事をする人が多い。
- イ あまり話をしないで食事をする人が多い。
- ウ どちらともいえない。

[第11問]

- A 食事のときに、よく話すのは、だれですか。
- B おもにどんなことが話題になりますか。

[第12問]

食事以外のときに、家族のかたが集まって、くつろいで雑談や世間話などをするようなことがありますか。

- ア よくある。 イ ときどきある。 ウ ほとんどない。

[第13問]

そのようなときに、あなたは、よく話すほうですか。それとも、だまっているほうですか。

- ア よく話すほうだ。 イ だまっているほうだ。 ウ どちらともいえない。

[第14問]

(A) 家族の中で、よく話すのは、だれとだれですか。

(B) おもにどんなことが話題になりますか。

[第15問]

あなたのおうちでは、なにかを決めるために、家族のかたが集まって相談するようなことがありますか。

ア ある。 イ ない。

[第16問]

(「ある」と答えた人だけ) 最近はどうなことを相談しましたか。
.....

A みんなで話をしながら食事をするか だまってするか

第10問に対する回答を学校別に集計してみると、第59表のようになる。(松江ではこの設問はしていない。)

第59表 家族のみなさんは、みんなで話をしながら食事をするもののほうが多いですか。それとも、あまり話をしないで食事をするもののほうが多いですか。(学校別)

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	彩妻小 清沢小	1中	高校	梁小	粟野小 五十沢小	梁中	高校
みんなで話をしながら食事をする ことが多い	54.0	50.0	48.4	61.4	37.3	35.0	47.2	53.6
あまり話をしないで食事をする ことが多い	21.5	32.9	19.9	11.2	39.5	39.8	24.7	12.7
どちらともいえない	24.5	17.1	30.9	24.4	22.6	24.4	25.8	30.6
無答、その他	0	0	0.9	3.0	0.6	0.8	2.4	3.2

この表から次のことがわかる。

(1) 福島と梁川の比較をすると、「みんなで話をしながら、食事をする
ことが多い」と答えているのは、小中高校ともに福島のほうが多い。農村の子
どもの回答のほうが消極的である。

(2) 小中高校の比較をすると、「あまり話をしないで、食事をする
ことが多い」と答えているのは、福島・梁川ともに上級学校に行くほど少
くなる。「みんなで話をしながら、食事をする
ことが多い」と答えているのは、梁川では

上級学校にいくほど多くなっているが、福島では中学のところがそうになっていない。概して、都市の場合も農村の場合も小学生の回答のほうが消極的である。

なお職業別にみてみたが、福島1中と梁川中学に共通した傾向的な違いは現われていない。(統計表をのせることは、とりやめる。)

B 食事以外のときに くつろいで話をすることがあるか

第12問に対する回答を学校別および職業別に集計した結果は、第60表(イ)(ロ)に示すとおりである。

第60表 食事以外のときに、家族のかたが集まって、くつろいで雑談や世間話などを
するようなことがありますか。

(イ) 学 校 別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町				松 江 市		
	1小	杉妻小 潜沢小	1中	高校	梁小	粟野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
よくある	30.1	32.9	41.4	61.4	26.0	31.7	33.8	61.5	61.2	43.1	60.1
あまりない	45.4	43.6	41.8	32.7	43.5	43.1	47.4	31.7	31.8	40.2	30.6
ほとんどない	23.3	23.6	16.6	5.6	30.5	24.4	18.3	6.3	6.9	15.3	8.5
無答、その他	1.2	0	0.2	0.3	0	0.8	0.4	0.4	0	1.4	0.8

(ロ) 職 業 別

(単位：パーセント)

	福 島 1 中			梁 川 中 学			松 江 中 学		
	農家	俸給生 活者	商家	農家	俸給生 活者	商家	農家	俸給生 活者	商家
よくある	41.3	46.7	34.3	32.7	37.1	27.0	38.9	46.4	41.5
あまりない	39.1	40.1	46.3	47.2	51.4	48.6	44.4	38.8	50.9
ほとんどない	19.6	13.2	19.4	19.4	11.4	24.3	13.0	13.1	7.5
無 答	0	0	0	0.7	0	0	3.7	1.6	0

この二つの表から次のことがわかる。

(1) 福島・松江と梁川の比較をみると、「よくある」と答えているのは、高校は別として小中校は福島・松江のほうが多く、「あまりない」と「ほとんどない」を合わせたものは、高校は別として、反対に梁川のほうが多い。

(2) 小中高校別にみてみると、「よくある」と答えているのは、松江は別だが、福島と梁川では上級学校にいくほど「よくある」と答えているのが多くな

り、反対に「あまりない」と答えたものと「ほとんどない」と答えたものとを合わせた比率は、上級学校にいくほど少なくなる。子どもの成長段階に応じて意識がはっきりと異なっている。

(3) 職業別にみても、「よくある」と答えているのは、福島・梁川・松江ともに俸給生活者が最も多い。「あまりない」または「ほとんどない」と答えているのは、福島・梁川・松江ともに商家の子どもが最も多く、次いで農家。俸給生活者の子どもは最も少ない。家庭の職業の違いによる違いがかなりはっきりと出ている。

C 子どもは そのようなときによく話すか

第13問に対する回答を集計した結果は、第61表(イ)(ロ)(ハ)に示すとおりである。

表61表 そのようなときに、あなたは、よく話すほうですか。それとも、だままっているほうですか。

(イ) 学校別

(単位：パーセント)

	福島市				梁川町				松江市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
よく話すほうだ	39.3	40.0	40.0	51.2	31.1	21.1	40.8	42.5	51.0	45.2	49.2
だままっているほうだ	19.0	25.7	13.6	10.2	26.6	43.9	15.5	9.1	9.4	9.4	8.1
どちらともいえない	39.3	34.3	42.0	35.6	41.8	32.5	41.7	46.0	39.6	40.2	38.4
無 答	2.5	0	4.4	3.0	0.6	2.4	2.0	2.4	0	5.2	4.2

(ロ) 学校×男女別

(単位：パーセント)

	福島市				梁川町				松江市		
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校	小学	中学	高校
	男 女										
よく話すほうだ	39.8 38.6	40.5 39.3	30.1 50.9	40.5 62.0	34.4 27.2	19.7 22.8	31.7 50.9	22.9 50.0	48.1 54.5	30.3 61.3	41.7 56.5
だままっているほうだ	20.4 17.1	27.8 23.0	16.3 10.6	16.3 4.0	26.0 27.2	48.5 38.6	17.1 13.8	15.7 6.5	11.1 7.3	13.4 4.9	8.7 7.6
どちらともいえない	37.6 41.4	31.6 37.7	48.5 34.9	39.2 32.0	38.5 45.7	30.3 35.1	48.8 33.9	54.3 42.9	40.7 38.2	50.2 22.9	44.9 32.1
無 答	2.2 2.9	0 0	5.0 3.7	3.9 2.0	1.0 0	1.5 3.5	2.5 1.4	7.1 0.5	0 0	6.0 4.4	4.7 3.8

(イ) 職業別

(単位：パーセント)

	福島1中			梁川中学			松江中学		
	農家	俸給生活者	商家	農家	俸給生活者	商家	農家	俸給生活者	商家
	男 女								
よく話すほうだ	12.0 42.9	29.0 51.8	44.4 54.8	28.4 46.9	53.5 55.8	34.8 71.4	23.1 50.0	33.0 67.5	34.6 51.9
だまっているほうだ	28.0 9.5	16.0 9.8	11.1 6.5	18.4 15.4	5.5 0	13.0 7.1	23.1 14.3	10.0 2.4	11.5 7.4
どちらともいえない	52.0 47.6	50.0 35.7	38.9 35.5	50.4 36.4	40.9 44.2	47.8 21.4	50.0 35.7	53.0 25.3	50.0 37.0
無答	8.0 0	5.0 2.7	5.6 3.2	2.8 1.4	0 0	4.3 0	3.8 0	4.0 4.8	3.8 3.7

これら三つの表から次のことがわかる。

(1) (イ)表で都市(福島・松江)と農村(梁川)の比較をしてみると、「よく話すほうだ」と答えたのは、福島1中と梁川中学の間で例外があるが、そのほかはすべて都市のほうが農村よりも多い。反対に「だまっているほうだ」と答えたのは、福島高校と梁川高校の間で例外があるが、そのほかはすべて農村のほうが多い。

次に(イ)表で職業間の比較をしてみると、「よく話すほうだ」と答えているのは、福島・梁川・松江の男女ともに農家の子どもが最も少なく、反対に「だまっているほうだ」と答えているのは、福島1中の女の場合を除けば、あとはどれも農家の子どもが最も多い。

つまり、ごく大ざっぱに言って、農村の子ども・農家の子どもは、都会の子ども・俸給生活者や商家の子どもよりも、消極的な回答をするものが多いのである。

(2) (ロ)表および(イ)表で男女の比較をしてみると、「よく話すほうだ」と答えているのは、概して男よりも女に多い((ロ)表で福島1小、杉妻小・清沢小、梁川小の三つが例外)。反対に「だまっているほうだ」と答えているのは、(ロ)表(イ)表ともに概して男に多い(梁川小だけが例外)。つまりごく大ざっぱに言って、女子よりも男子のほうに消極的な回答をするものが多い。

(3) 小中高校間の比較してみると、福島・梁川・松江の男女の全部に共通した傾向的な違いは認められない。

D なにかを決めるために 家族のものが集まって みんなで相談することがあるか
第15問に対する回答を集計した結果を第62表(イ)(ロ)に示す。

第62表 あなたのおうちでは、なにかをきめるために、家族のかたがみんなと相談する
ようなことがありますか。

(イ) 学 校 別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	栗野小 五十沢小	梁 中	高 校
あ	28.8	27.1	35.2	64.4	30.5	27.6	35.6	57.9
な	71.2	72.1	63.5	32.0	68.9	71.5	61.8	38.9
無	0	0.7	1.3	3.3	0.6	0.8	2.6	3.2
る								
い								
答								

(ロ) 職 業 別

(単位：パーセント)

	福 島 1 中			梁 川 中 学		
	農 家	俸給生活 者	商 家	農 家	俸給生活 者	商 家
あ	28.3	40.1	29.9	36.6	40.0	37.8
な	71.7	58.5	68.7	60.9	51.4	62.2
無	0	1.4	1.5	2.5	8.6	0
る						
い						
答						

この二つの表から次のことがわかる。

(1) 福島と梁川を比較してみると、高校を除けば、両者の間にほとんど違いはない。

(2) 小中高校別にみると、福島・梁川ともに、上級学校に行くほど「ある」と答えるものが多くなり、反対に「ない」と答えるものが少なくなる。子どもの成長段階に応じて意識がはっきりと異なっている。これは、第12問「食事以外のときに、家族のかたが集まって、くつろいで雑談や世間話などをするようなことがありますか」の結果と共通している。

このような子どもの成長段階に応ずる意識の違いは、どのように解釈したらよいのか。おそらく、どちらの場合も子どもが家庭の中で家族全体の話し合い

の場に参加する度合が、子どもの成長段階によって異なるという現実があるに違いなく、それが子どもの意識の違いとなって反映されている、と解釈するのが正しいのであろう。

(3) 職業別にみると、「ある」と答えるものは、福島・梁川ともに農家の子どもが最も少なく、俸給生活者の子どもが最も多い。これも、第12問の集計結果とかなり共通している。

E 家族の中で よく話すのは だれか

第11問と第14問に対する回答を選択率の形で整理すると、第63表と第64表のようになる。表中各欄ともに上の数字はよく話すほうの選択率、下の数字はあまり話さないほうの選択率である。各欄のこの話すほうの選択率と話さないほうの選択率の差を求めると、第65・66表のようになる。表中各欄の数字の右肩についている①、②などの数字は、値の大きさに従ってつけた順位である。

話すほう・話さないほうの二つの選択率の差の値の大きいものほど、子どもによってよく話す意識されている家族成員であり、反対にこの値の小さいものほど、子どもによってあまり話さない意識されている家族成員である。一応ごく大ざっぱにこう言うことができるだろう。

第63表 (A) 食事のときに、よく話すのは、だれですか。

(B) あまり話さないのは、だれですか。

(単位：パーセント)

		福 島 市				梁 川 町			
		1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	栗野小 五十沢小	梁 中	高 校
		A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B
父	母	21.7	30.7	21.5	18.1	32.4	32.8	27.4	24.3
		24.2	32.1	27.5	31.6	17.6	20.2	23.0	23.5
祖 父	母	24.5	30.7	24.4	24.8	25.0	25.2	25.2	26.2
		20.9	24.3	11.8	6.3	22.7	22.8	12.1	6.5
祖 母	人	17.2	12.0	3.8	5.0	9.8	11.1	8.2	4.1
		27.6	40.0	38.5	30.0	21.6	31.1	39.8	40.8
本 人	兄	2.5	4.5	16.2	8.7	12.5	12.1	10.9	9.5
		42.5	34.1	23.2	21.7	23.8	29.3	29.7	20.2
姉	弟	40.5	37.9	21.4	24.8	13.6	23.6	22.1	19.0
		13.5	10.7	8.1	10.2	10.2	16.2	9.6	9.1
妹	よ め	32.9	29.1	16.2	16.9	23.9	15.7	21.3	18.1
		24.7	21.5	15.4	26.0	16.3	10.8	19.9	14.5
姉	む こ	23.4	22.1	21.1	21.2	22.1	20.7	19.8	17.6
		19.5	12.8	11.7	4.8	19.5	19.5	10.8	13.2
兄	姉	34.6	36.8	26.2	23.2	29.2	18.0	22.2	11.0
		17.3	11.8	7.1	9.0	10.8	14.8	8.7	10.4
妹	よ め	33.3	26.2	24.5	27.8	23.1	15.7	20.5	17.0
		11.8	16.7	9.4	6.0	16.7	17.6	8.6	3.0
姉	む こ	0	0	0	16.7	0	0	0	3.6
		0	0	0	8.3	0	0	22.6	9.8
兄	姉	0	0	0	50.0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	33.3

第64表 (第14問)

(A) 家族の中で、よく話すのは、だれとだれですか。

(B) あまり話さないで、聞くほうにまわっているのは、だれとだれですか。

(単位：パーセント)

		福 島 市				梁 川 町			
		1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	栗野小 五十沢小	梁 中	高 校
		A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
父		42.2	55.5	28.5	22.7	45.9	54.4	39.8	37.4
		26.1	21.9	31.5	32.6	16.5	16.0	27.4	28.8
母		46.0	50.7	43.5	42.9	44.9	38.2	44.4	50.8
		27.6	23.6	20.4	22.1	19.3	20.3	18.5	12.9
祖 父		20.7	40.0	13.5	10.0	23.5	31.1	23.5	8.2
		20.7	24.0	32.7	15.0	37.3	26.7	28.6	32.7
祖 母		22.5	25.0	24.2	15.2	26.3	32.8	17.7	23.8
		22.5	36.4	27.3	21.7	36.3	37.9	36.0	22.6
本 人		30.7	20.0	29.3	31.7	20.9	17.9	25.3	25.8
		28.8	33.6	16.8	12.2	20.3	25.2	17.0	17.1
兄		38.8	27.8	23.7	28.6	28.3	30.1	28.7	25.4
		29.4	17.7	21.1	18.2	27.2	12.0	16.5	21.0
姉		32.5	25.6	36.4	28.8	30.1	23.0	24.3	29.7
		19.5	15.1	19.8	5.8	18.6	20.7	14.2	9.9
弟		38.5	11.8	24.8	25.8	21.5	4.9	18.5	16.6
		25.0	35.3	14.8	13.5	16.9	18.0	19.6	17.8
妹		27.5	7.1	28.6	33.1	12.8	9.8	22.5	14.8
		13.7	38.1	14.6	7.5	28.2	31.4	13.1	13.3
兄 よ め		0	0	0	25.0	0	0	6.5	9.8
		0	0	6.3	8.3	0	0	29.0	31.7
姉 む こ		0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	100	0	0	50.0	16.7

第65表 食事のときにおける話す選択率—話さない選択率

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高校	梁小	粟野小 五十沢小	梁中	高校
父	⑨ -2.5	⑨ -1.4	⑨ -6.0	⑩ -13.5	② 14.8	① 12.6	⑥ 4.4	⑥ 0.8
母	⑥ 3.6	⑤ 6.4	④ 12.6	③ 18.5	⑦ 2.3	⑤ 2.4	② 13.1	① 19.7
祖 父	⑩ -10.4	⑩ -28.0	⑪ -34.7	⑪ -25.0	⑪ -11.8	⑪ -20.0	⑪ -31.6	⑪ -36.7
祖 母	⑪ -40.0	⑪ -29.6	⑩ -7.0	⑨ -13.0	⑩ -11.3	⑩ -17.2	⑨ -18.8	⑨ -10.7
本 人	① 27.0	① 27.2	③ 13.3	⑤ 14.6	⑤ 3.4	② 7.4	③ 12.5	③ 9.9
兄	④ 8.2	⑤ 7.6	⑥ 0.8	⑦ 9.1	③ 7.6	③ 4.9	⑦ 1.4	⑤ 3.6
姉	⑤ 3.9	④ 9.3	⑤ 9.4	④ 16.4	⑥ 2.6	⑥ 1.2	⑤ 9.0	④ 4.4
弟	③ 17.3	② 25.0	① 19.1	⑥ 14.2	① 18.4	④ 3.2	① 13.5	⑦ 0.6
妹	② 21.5	③ 9.5	② 15.1	② 21.8	④ 6.4	⑨ -1.9	④ 11.9	② 14.0
兄 よ め	⑮ 0	⑮ 0	⑮ 0	⑧ 8.4	⑮ 0	⑮ 0	⑩ -22.6	⑧ -6.3
姉 む こ	⑮ 0	⑮ 0	⑮ 0	① 50.0	⑮ 0	⑮ 0	⑧ 0	⑩ -33.3

第66表 食事以外のときにおける話す選択率—話さない選択率

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
父	② 16.1	① 33.6	⑧ -3.0	⑩ -9.9	① 29.4	① 38.4	② 12.4	④ 8.6
母	① 18.4	② 27.1	① 23.1	③ 20.8	② 25.6	③ 17.9	① 25.9	① 37.9
祖 父	⑤ 0	③ 16.0	⑪ -19.2	⑧ -5.0	⑩ -13.8	④ 4.4	⑧ -5.1	⑪ -24.5
祖 母	⑤ 0	⑧ -11.4	⑨ -3.1	⑨ -6.5	⑨ -10.0	⑧ -5.1	⑨ 18.3	⑦ 1.2
本 人	⑦ 1.9	⑨ -13.6	② 17.5	④ 19.5	⑥ 0.6	⑨ -7.3	⑥ 8.3	③ 8.7
兄	⑥ 9.4	⑤ 10.1	⑥ 2.6	⑦ 10.4	⑤ 1.1	② 18.1	③ 12.2	⑤ 4.4
姉	⑤ 13.0	④ 10.5	③ 16.6	② 23.0	③ 11.5	⑤ 2.3	④ 10.1	② 19.8
弟	④ 13.5	⑩ -23.5	⑤ 10.0	⑥ 12.3	④ 4.6	⑩ -13.1	⑦ 1.1	⑧ -1.2
妹	③ 13.8	⑪ -31.0	④ 14.0	① 25.6	⑪ -15.4	⑪ -21.6	⑤ 9.4	⑥ 1.5
兄 よ め	⑤ 0	⑤ 0	⑩ -6.3	⑤ 16.7	⑤ 0	⑤ 0	⑩ -22.5	⑩ -21.9
姉 む こ	⑤ 0	⑤ 0	⑦ 0	⑪ -100.0	⑤ 0	⑤ 0	⑪ -50.0	⑨ -16.7

これら四つの表から次のことがわかる。

(1) 父親の第63表の話すほうの選択率は、福島・梁川ともに上級学校に行くほど小さくなり、話さないほうの選択率は、福島・梁川ともに上級学校に行くほど大きくなる傾向がある。したがって、この二つの選択率の差の値は、第65表にあるとおり福島・梁川ともに上級学校へいくほど小さくなる。順位関係も福島では小学・中学で9位であったものが高校で10位に下がり、梁川では小学で1・2位であったものが、中学・高校では6位まで下がっている。

第64表でもこれと全く同じ傾向をみることができる。ここでも父親の話す選択率は、福島・梁川ともに上級学校へいくほど小さくなり、話さない選択率は、上級学校に行くほど大きくなる。したがってこの二つの選択率の差の値も、上級学校に行くほど小さくなる。(第66表)

つまり食事のときでも食事以外のときでも、「父親はよく話す」と意識する子どもは、上級学校に行くほど少なくなる。反対に、「父親はあまり話さない」と意識する子どもは上級学校に行くほど多くなる。

(2) 母親はどうか。第63表をみると、話す選択率は、福島・梁川の小中高校ともに大体25%前後であって、上級学校に行くほど高くなるとか、低くなるとかいうことはない。つまり「母親はよく話す」という子どもの意識の勢力にあまり変化はない。ところが話さない選択率は、福島・梁川ともに上級学校に行くほど小さくなる。つまり「母親はあまり話さない」という子どもの意識は、上級学校に行くにしたがって急速にその勢力を弱めていく。これは父親の場合と全く逆の関係である。

したがって、この話す・話さないの二つの選択率の差の値は、福島・梁川ともに上級学校へいくほど大きくなる(第65表)。順位関係も、福島では小学では6位であったものが中学・高校では4位・3位と上がっているし、梁川でも小学で7位・5位であったものが中学で2位、高校では1位にまで上がっている。これも父親の場合とは全く逆の関係である。

第64表と第66表の母親の場合は、第63表と第65表ほどはっきりした関係は出していない。第64表の話す選択率は、福島では上級学校に行くほど若干低くなる傾向があり、梁川では高校が小中学よりも若干高くなっている。しかし話さない選択率は、福島・梁川ともに上級学校へいくほど低くなる傾向がある。これは第63表の場合と同じで、父親とは逆の関係である。第66表でも話す・話さないの二つの選択率の差の値は、福島では上級学校に行くほど大きくなっているということがそれほどはっきりした形では現われてはいないが、梁川ではそれが現われている。これも第65表の場合と同じで、父親とは逆の関係である。

(3) 以上のことを総合すると、次のようになる。「食事のとき・食事以外のとき」、つまり家庭で「父親はよく話す」という子どもの意識は、全体として上級学校に行くほどその勢力が弱まり、反対に「父親はあまり話さない」という子どもの意識は、全体として上級学校に行くほどその勢力が強まっていく。

これに対して、「家庭で母親はよく話す」という子どもの意識は、全体として上級学校に行くほどその勢力が弱まるとか強まるとかいうのはっきりした傾向

はない。しかし、「家庭で母親はあまり話さない」という子どもの意識は、全体として上級学校に行くほどその勢力が弱まっていく。この傾向は、食事のときの場合（第63表）に非常に顕著である。

つまり家庭における日常一般のコミュニケーションの場で、他の家族成員との相対的關係において「父親はあまり話さない」という子どもの意識は、上級学校に行くほどその勢力が強くなり、反対に「母親はあまり話さない」という子どもの意識は、上級学校に行くほどその勢力が弱まっていく。子どもの目からみれば、「あまり話さない父親」は子どもが上級学校に行くほど多くなり、「あまり話さない母親」は、反対に子どもが上級学校に行くほど少なくなるということになる。父親と母親の言語活動に対する子どもの意識は、この点で全くはつきりしたくいちがいをみせているのである。

父親と母親の言語活動の現実が子どものこの意識のとおりであるとすれば、つまり子どもの意識が父親と母親の言語活動の現実を正しく反映しているものとすれば、たいへんおもしろい。しかし、このことを確かめるためには、もう一つ別の側面からの調査が必要であろう。今後にのこされた課題の一つである。

(4) 父親と母親の比較をつづけると、第65表では梁小と粟野・五十沢小の二つを除けば、あとはすべて母親の値のほうが父親の値よりも大きい。第66表でも杉妻・清沢小、梁小など三つを除いて、ほかはすべて母親の値のほうが父親の値よりも大きい。そしてこの大きさの程度は、65表の場合も66表の場合も高校が最もいちじるしい。つまり家庭の中で、「よく話す人」と子どもが意識するのは、父親より母親であることのほうが多く、反対に「あまり話さない人」と子どもが意識するのは、母親よりも父親であることのほうが多いのである。

(5) 第65・66表をみると、祖父・祖母の値は、2・3の例外はあるが、どの学校でもマイナスであることが多い。つまり第63・64表で話す選択率よりも話さない選択率のほうが大きいことが多い（第80表ではすべてそうである）。選択率の差の値の順位も9・10・11位と、概してどの学校でも最後尾のほうである。つまり食事のときや食事以外のときなど、家庭における日常生活一般のコミュニケーションの場で、祖父と祖母は「話すことが最も少ない人」と子どもに意識されていることが多い。子どもの目からみれば、おじいさんやおばあさ

んは、相対的に言って、家族の中でも口数が最も少ない成員なのである。

(6) 第65表と第66表を比較すると、父親・母親・祖父・姉は福島・梁川のどの学校でも第66表の値が65表の値よりも大きい。祖父と兄も、梁小を除いて、ほかはどの学校も第66表の値のほうが大きい。

これに対して、弟はどの学校でも第65表のほうが大きく、妹も福島高校を除いて、また、本人も福島1中と福島高校を除いて、ほかはすべて第65表のほうが大きい。つまり相対的に言って、父・母・祖父・祖母・兄・姉は食事のときよりも食事以外のときによく話し、弟・妹・本人は食事以外のときよりも食事のときによく話す、という非常にはっきりした関係が成立しているのである。

13. 子どもは教室でも積極的にものを言うか

[第45問]

先生から答案をかえしてもらいました。よく見ると、正しい答えなのにまちがいにされています。先生に言って、なおしてもらいたいと思います。こんなとき、あなたは、そのことを先生にすぐ言えるほうですか。それとも、言えないほうですか。

ア すぐ言えるほうだ。 イ 言えないほうだ。

ウ わからない。 エ その他 (.....)

[第46問]

教室で、先生がみんなに質問をされました。それがあなたに答えられるようなものだったら、あなたは、どうしますか。

ア すぐ手をあげる。 イ 人が手をあげるのをみてから、手をあげる。 ウ 手をあげない。 エ わからない。

オ その他 (.....)

[第47問]

ホームルームの時間などで、あなたは、みんなの前で自分の意見をのべるほうですか。それとも、だまっているほうですか。

ア いつも意見をのべるほうだ。 イ 意見をのべることが多いほうだ。 ウ だまっていることが多いほうだ。 エ いつもだま

っているほうだ。

〔第48問〕

（「だまっていることが多いほうだ」または「いつもだまっているほうだ」と答えた人だけ） だまっているのは、なぜですか。

ア 意見がないから。

イ 意見はあるが、言うのがはずかしいから。

ウ その他（.....）

〔第49問〕

クラスの中で、よく意見をのべるのは、だれとだれですか。（氏名をはっきり書いてください。以下同じ。）

.....
だまっているのは、だれとだれですか。

.....
おもしろいことを言って、みんなを笑わせるのは、だれとだれですか。

.....
以上第45問から第49問までの5問は、子どもが家庭を離れて、学校の教室でも積極的にものを言うか、どうか、その意識をたずねたものである。

A 答案の採点の誤りを先生に言えるか

まず第45問に対する子どもの回答を集計した結果は、第67表(i)(ロ)に示すとおりである。

第67表 先生から答案をかえしてもらいました。よく見ると、正しい答えなのにまちがいにされています。先生に言って、なおしてもらいたいと思います。こんなとき、あなたは、そのことを先生にすぐ言えるほうですか。それとも、言えないほうですか。

(イ) 学校別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
すぐ言えるほうだ	54.6	43.6	61.7	77.2	46.9	29.3	54.4	62.7
言えないほうだ	19.6	32.1	19.3	9.9	29.4	33.3	26.4	19.4
わからない	25.2	17.1	14.4	7.6	19.8	31.7	15.9	11.1
その他	0.6	5.7	3.7	4.6	3.4	5.7	2.2	6.0
無 答	0	1.4	0.9	0.7	0.6	0	1.1	0.8

(ロ) 学校×男女別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
	男 女							
すぐ言えるほうだ	54.8 54.3	44.3 42.6	54.8 69.3	68.6 86.0	49.0 44.4	27.3 31.6	57.1 51.4	64.3 62.1
言えないほうだ	19.4 20.0	34.2 29.5	24.3 13.8	14.4 5.3	27.1 32.1	45.5 19.3	25.0 28.0	15.7 20.9
わからない	24.7 25.7	17.7 16.4	15.1 13.8	11.1 4.0	20.8 18.5	22.7 42.1	14.6 17.4	14.3 9.9
その他	1.1 0	3.8 8.2	4.6 2.8	5.2 4.0	2.1 4.9	4.5 7.0	1.7 2.8	5.7 6.0
無 答	0 0	0 3.3	1.3 0.5	0.7 0.7	1.0 0	0 0	1.7 0.5	0 1.1

(イ) 職業別

(単位：パーセント)

	福島1中			梁川中学		
	農家	傭給生 活者	商家	農家	傭給生 活者	商家
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
すぐ言えるほうだ	36.0 66.7	63.0 64.3	47.2 83.9	48.9 44.8	77.3 76.9	78.3 57.1
言えないほうだ	32.0 23.8	16.0 15.2	36.1 6.5	27.7 32.2	22.7 7.7	13.0 35.7
わからない	28.0 9.5	15.0 16.1	11.1 9.7	17.7 21.0	0 15.4	8.7 7.1
その他	4.0 0	4.0 3.6	0 0	2.8 2.1	0 0	0 0
無答	0 0	2.0 0.9	5.6 0	2.8 0	0 0	0 0

これら三つの表から次のことがわかる。

(1) 全体的にみると、栗野小・五十沢小を除けば、ほかはどの学校でも「すぐ言えるほうだ」と積極的な答えをしたものが、「言えないほうだ」と消極的な答えをしたものよりもはるかに多い ((イ)表)。

(2) 小中高校の間の比較をすると、福島・梁川ともに積極的な答えをするものは、上級学校に行くほど多くなる。 ((イ)表で「すぐ言えるほうだ」と答えたのは上級学校に行くほど多くなり、「言えないほうだ」と答えたのは上級学校に行くほど少なくなる。これは、(ロ)表で男女別にみた場合も、おおむねそうである。)

(3) 男子と女子の間には、福島・梁川の二つの地域に共通する傾向的な違いはない。 ((ロ)表)

(4) 職業間の比較をすると、消極的な回答をするのは、概して農家の子どもが最も多い。 ((イ)表で「すぐ言えるほうだ」と答えたのは、福島1中の女子を除けば、あとは全部農家の子どもが最も少ない。反対に「言えないほうだ」と答えたのは、福島1中と梁川中学の男子では農家の子どもが最も多い。)

(5) 福島と梁川の比較をすると、積極的な答えをするのは福島に多く、消極的な答えをするのは梁川に多い。 ((イ)表で「すぐ言えるほうだ」と答えたのは

小中高校ともに福島のほうが多く、「言えないほうだ」と答えたのは、反対に梁川のほうが多い。この関係は(回)表でも一、二の例外を除いて、きれいに保持されている。))

B 答えることができる先生の質問に対してどうするか

第46問の回答を集計整理すると、第68表(イ)(ロ)(ハ)のようになる。

第68表 教室で、先生がみんなに質問をされました。それが、あなたに答えられるよ
うなものだったら、あなたは、どうしますか。

(イ) 学 校 別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	栗野小 五十沢小	梁 中	高 校
すぐ手をあげる	70.6	50.0	27.8	20.1	57.6	42.3	25.1	13.9
人が手をあげるの をみてから手をあ げる	12.3	29.3	32.6	21.1	24.9	33.3	33.4	29.8
手をあげない	1.8	8.6	20.6	35.3	6.2	10.6	19.9	34.9
わからない	12.9	6.4	13.3	14.9	9.6	11.4	16.8	14.3
そ の 他	2.5	5.7	4.8	7.9	0.6	2.4	3.5	7.1
無 答	0	0	0.7	0.7	1.1	0	1.3	0

(ロ) 学校×男女別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	栗野小 五十沢小	梁 中	高 校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
すぐ手をあげる	71.0	48.1	22.6	26.8	61.5	39.4	22.5	10.0
人が手をあげるの をみてから手をあ げる	70.0	52.5	33.5	13.3	53.1	45.6	28.0	15.4
手をあげない	11.8	31.6	33.1	26.1	22.9	36.4	34.2	22.9
わからない	12.9	26.2	32.1	16.0	27.2	29.8	32.6	32.4
そ の 他	3.2	7.6	27.2	26.1	6.3	15.2	22.1	45.7
無 答	0	9.8	13.3	44.7	6.2	5.3	17.4	30.8
そ の 他	11.8	7.6	11.3	13.1	8.3	7.6	15.4	17.1
無 答	14.3	4.9	15.6	16.7	11.1	15.8	18.3	13.2
そ の 他	2.2	5.1	4.6	7.2	0	1.5	3.8	4.3
無 答	2.9	6.6	5.5	8.7	1.2	3.5	3.2	8.2
無 答	0	0	1.3	0.7	1.0	0	2.1	0
無 答	0	0	0	0.7	1.2	0	0.5	0

(ハ) 職業別

(:)

	福 島 1 中						梁 川 中 学					
	農 家		俵 給 生 活 者		商 家		農 家		俵 給 生 活 者		商 家	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
すぐ手をあげる	8.0	23.8	28.0	28.6	19.4	38.7	19.9	26.6	40.9	15.4	26.1	57.1
人が手をあげるのを みてから手をあげる	32.0	47.6	34.0	29.5	33.3	38.7	34.8	30.1	27.3	23.1	39.1	28.6
手をあげない	44.0	19.0	20.0	16.1	19.4	9.7	22.7	18.9	13.6	38.5	21.7	0
わからない	12.0	9.5	11.0	17.9	16.7	9.7	17.7	20.3	9.1	15.4	13.0	14.3
そ の 他	4.0	0	5.0	8.0	5.6	3.2	2.1	3.5	9.1	7.7	0	0
無 答	0	0	2.0	0	5.6	0	2.8	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0.7	0	0	0	0	0

この三つの表から次のことがわかる。

(1) 福島と梁川の比較をすると、積極的な答えをするのは福島のほうが多く、消極的な答えをするのは梁川のほうが多い。 ((イ)表で「すぐ手をあげる」と答えたのは、小中高校ともに福島のほうが多い。反対に「人が手をあげるのをみてから、手をあげる」と消極的な答えをしたのは、梁川のほうが多い。)

(2) 小中高校の間の比較をすると、福島・梁川ともに積極的な答えをするのは小学生に多く、消極的な答えをするのは高校生に多い。 ((イ)表で「すぐ手をあげる」と答えたのは、上級学校に行くにつれて急激に減少する。反対に「手をあげない」と答えたのは、上級学校に行くにつれて急激に増加する。これは、(ロ)表で男女別にみた場合も同じである。)

(3) 男子と女子の間には、それほどはっきりした傾向的な違いはない。強いて言えば、積極的な答えをするのは、どちらかと言えば、女に多く、男に少ない。

(4) 職業間の比較をすると、消極的な答えをするのは農家の子どもが最も多い。 ((ロ)表で梁川の子を除外すれば、「すぐ手をあげる」と答えたのは農家の子どもが最も少なく、反対に「手をあげない」と答えたのは農家の子どもが最も

多い。)

C ホームルームの時間などで自分の意見を言うか

第47問の集計結果は、第69表(イ)(ロ)(ハ)の三つに示すとおりである。

第69表 ホームルームの時間などで、あなたは、みんなの前で自分の意見をのべるほうですか。それとも、だまっているほうですか。

(イ) 学校別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁中	高校
意見をのべるほうだ	23.9	27.9	18.6	27.4	28.2	31.7	17.9	17.5
だまっているほうだ	76.1	71.4	79.7	71.6	70.7	68.3	79.7	82.1
無 答	0	0.7	1.5	1.0	1.1	0	2.4	0.4
そ の 他	0	0	0.2	0	0	0	0	0

(ロ) 学校×男女別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女							
意見をのべるほうだ	31.2 14.3	31.6 23.0	18.4 18.8	24.2 30.7	34.4 21.0	27.3 36.9	19.6 16.0	18.6 17.0
だまっているほうだ	68.8 85.7	67.1 77.0	79.1 80.3	75.1 68.0	63.6 79.0	72.7 63.1	77.1 82.6	80.0 82.9
無 答	0 0	1.3 0	2.1 0.9	0.7 1.3	2.1 0	0 0	3.3 1.4	1.4 0
そ の 他	0 0	0 0	0.4 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0

(ハ) 職業別

(単位：パーセント)

	福 島 1 中					梁 川 中 学					
	農 家		僱 給 生 活 者		商 家	農 家		僱 給 生 活 者		商 家	
	男	女	男	女	男	男	女	男	女	男	女
意見をのべるほうだ	12.0		20.1		13.9	17.0		40.9		21.7	
	9.6		16.1		19.3	14.7		23.1		7.1	
だまっているほうだ	84.0		76.0		83.3	79.4		50.0		78.3	
	90.5		82.2		80.7	84.6		69.3		85.7	
無 答	4.0		4.0		2.8	3.5		9.1		0	
	0		1.8		0	0.7		7.7		7.1	
そ の 他	0		0		0	0		0		0	
	0		0		0	0		0		0	

この三つの表から次のことがわかる。

(1) 全体的にみると、積極的な答えをするのは、どの学校でも非常に少ない。

((イ)表で「意見をのべるほうだ」と答えたのは、どの学校でも非常に少ない。70パーセントから80パーセントのものが「だまっているほうだ」と消極的な答えをしている。)

(2) 福島と梁川の比較をしてみると、「意見をのべるほうだ」と積極的な答えをするのは、小学では梁川が若干多く、高校では福島が多い。反対に「だまっているほうだ」と消極的な答えをするのは、小学では福島に多く、高校では梁川に多い ((イ)表)。しかし、(ロ)表で男女別にみると、この関係は、必ずしも男女の双方に共通してみられるものではない。

中学は、福島も梁川もほとんど同じである。

(3) 小中高校の間の比較をすると、梁川では積極的な答えをするのは小学生に多く、中高校に少ない ((イ)表)。これは、(ロ)表で男女別にみた場合も同じである。

(4) 男女別にみると、概して積極的な答えをするのは男子に多く、消極的な答えをするのは女子に多い。しかし、この関係には例外があり、どの学校でもそうであるというわけではない ((ロ)表)。

(5) 職業別にみると、積極的な答えをするのは、福島では男女ともに農家が

最も少ない。梁川でも男子は農家が最も少ない。(㍻)表で、「いつも意見をのべるほうだ」「意見をのべることが多いほうだ」と答えているのは、福島では男女ともに農家が最も少なく、梁川でも男子は農家が最も少ない。反対に「だまっていることが多いほうだ」「いつもだまっているほうだ」と消極的な答えをするのは、福島では男女がともに、梁川では男子が、それぞれ農家が最も多い。)。

D だまっているのは なぜか

第48問の回答を集計した結果は、第70表(イ)(㍻)(㍼)の三つに示すとおりである。

第70表 (「だまっていることが多いほうだ」または「いつもだまっているほうだ」と答えた人だけ) だまっているのは、なぜですか。

(イ) 学 校 別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁中	高 校
意見がないから	66.9	47.0	51.4	22.6	41.6	47.6	47.6	21.3
意見はあるが、言う のがはずかしいから	23.4	44.0	28.3	22.6	49.6	39.3	37.8	52.2
そ の 他	6.5	8.0	17.3	47.9	8.0	9.5	10.4	23.2
無 答	3.2	1.0	3.0	6.9	0.8	3.6	4.1	3.4
総 数	124	100	364	217	125	84	365	207

(㍻) 学校×男女別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁中	高 校
	男 女							
意見がないから	70.3 63.3	46.3 47.8	51.3 51.4	25.2 19.6	44.3 39.1	50.0 44.4	49.2 46.1	33.9 16.6
意見はあるが、言う のがはずかしいから	21.9 25.0	46.3 41.3	32.3 24.0	20.0 25.5	45.9 53.1	37.5 41.7	35.7 40.0	39.3 57.0
そ の 他	4.7 8.3	5.6 10.9	12.1 22.9	47.8 48.0	8.2 7.8	8.3 11.1	11.4 9.4	25.0 22.5
無 答	3.1 3.3	1.9 0	4.2 1.7	7.0 6.9	1.6 0	4.2 2.8	3.8 4.4	1.8 4.0
総 数	64 60	54 46	189 175	115 102	61 64	48 36	185 180	56 151

(ハ) 職業別

(単位：パーセント)

	福 島 1 中						梁 川 中 学					
	農 家		俸給生		商 家		農 家		俸給生		商 家	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
意見がないから	61.9		52.6		50.0		47.3		63.6		44.4	
	42.1		46.7		64.0		43.0		66.7		50.0	
意見はあるが、言うのがはずかしいから	38.1		28.9		33.3		35.7		18.2		38.9	
	31.6		26.1		20.0		40.5		22.1		41.7	
そ の 他	0		14.5		10.0		11.6		18.2		16.7	
	21.1		25.0		16.0		10.7		11.1		0	
無 答	0		3.9		6.6		5.4		0		0	
	5.3		2.2		0		5.8		0		8.3	

これら三つの表から次のことがわかる。

(1) 福島と梁川の比較をすると、消極的な答えをしているのは、小中高校ともに概して梁川の子どものほうが多い。 ((イ)表で「意見がないから、だまっている」というのは栗野小・五十沢小のほかは、すべて福島が梁川よりも多い。これに対して、「意見はあるが、言うのがはずかしいから、だまっている」という消極的な答えをするのは、栗野小・五十沢小のほかは、全部梁川が福島よりも多い。これは、(ロ)表で男女別にみた場合も大体同じである。)

(2) 小中高校の間の比較をしてみると、「意見がないから、だまっている」というのは、福島・梁川ともに高校生になると、急激に減少し、代わって「その他の理由でだまっている」というのが急激に増える。福島高校は、それが特に顕著である。

子どもの回答がこのように「その他」に集中したということは、結局のところ選択肢の作りかたがたいへんまずかったからであるが、それはともかく、ここで高校生が「その他」の選択肢欄に記入したことの中から主なものを拾って整理してみると、次の第71表のようになる。

第71表 「その他」の理由の主なるもの

	福島高校		梁川高校	
	男	女	男	女
意見はあるが、言うのがめんどうくさいから	8	15	2	3
意見はあるが、言いたくないから	7	2	2	0
意見はあるが、話せばただから・話すのが苦手だから・ どう話したらいいのかわからないから	1	8	1	6
自分の意見に自信がないから・まちがっていると困るから	3			5
意見を言うのがばからしいから・くだらないから	7	1	2	1
人の意見を聞いているほうがおもしろいから		2	1	
自分と同じ意見をよその人が言ってくれるから・自分の 意見は他人の意見と大体同じだから	7	5		2
意見を言っても仕方がない・無意味だ	4	2	1	
言う必要がないから	1			1
意見はあるが、話す機会がないから				2
みんなの前で話すのがきらいだから				1
意見を言っても、認めてもらえそうにないから	2			1
何となく		1	1	
意見をいうのはいいが、あとで陰口をいわれるのがいや だから				1
言にくいから		2		2
ホームルームがおもしろくないから	1			
ホームルームは余り重要でないから	1			
意見をのべる人があまりいないから				1
考えすぎて言う機会をなくしてしまう		1		
あまり関心のない意見が多いから		1		

(3) 男女の比較をしてみると、女子は男子よりも消極的な答えをするものが多い。(□表で「意見がないから、だまっている」というのは、杉妻小・清沢小を除いてほかは全部男子のほうが多い。これに対して「意見はあるが、言うのがはずかしいから、だまっている」と消極的な答えをするのは、1中、杉妻小・清沢小のほかは全部女子のほうが多い。)

(4) 職業間の比較をしてみると、福島・梁川、それに男子と女子に共通する傾向的な違いはない。ただし「意見はあるが、言うのがはずかしいから」という消極的な答えをするのは、福島1中では男女ともに農家の子どもが最も多い。「意見がないから、だまっている」というのは、福島・梁川ともに女子は農家

が最も少ない。

E 消極的な言語行動をとるのは どの職業の子どもか

第47問は、子どもたちに自分自身の言語行動について主観的な評価をさせたものである。これに対して、第49問はクラス内の子どもたち全員の言語行動について相互に自由に評価させようとしたものである。この第49問の三つの記入欄に子どもたちが書きこんだ名前にもとづいて、異なる職業の間の比較をしてみると、第72表(イ)(ロ)(ハ)の三つに示すようになる。

第72表 (イ) クラスの中で、よく意見をのべるのは、だれとだれですか。

	福島1中			梁川中学		
	農家	俸給生活者	商家	農家	俸給生活者	商家
A 生徒総数	46	213	66	284	35	37
B 指名された異なり人数	6	65	21	56	17	12
C 指名されたのべ人数	28	327	99	233	71	92
B/A (パーセント)	13.0	30.5	31.8	19.7	48.6	32.4
C/A (パーセント)	60.9	153.5	150.0	82.0	202.9	248.6

(ロ) だまっているのは、だれとだれですか。

	福島1中			梁川中学		
	農家	俸給生活者	商家	農家	俸給生活者	商家
A 生徒総数	46	213	66	284	35	37
B 指名された異なり人数	18	54	17	119	7	6
C 指名されたのべ人数	88	196	54	421	27	19
B/A (パーセント)	39.1	25.4	25.8	41.9	20.0	16.2
C/A (パーセント)	191.3	92.0	81.8	148.2	77.1	51.4

(ハ) おもしろいことを言って、みんなを笑わせるのは、だれとだれですか。

	福島1中			梁川中学		
	農家	俸給生活者	商家	農家	俸給生活者	商家
A 生徒総数	46	213	66	284	35	37
B 指名された異なり人数	4	47	20	49	11	15
C 指名されたのべ人数	6	294	121	326	58	115
B/A (パーセント)	8.7	22.1	30.3	17.3	31.4	40.5
C/A (パーセント)	13.0	138.0	183.3	114.8	165.7	310.8

これら三つの表から次のことがわかる。

(1) 「クラスの中で、よく意見をのべる」と指名された子どもの数がそれぞれの生徒総数に対する比率は、異なり人数でものべ人数でも、農家が最も少ない。これは、福島でも梁川でもそうである。

(2) 「クラスの中で、だまっている」と指名された子どもの数の全体に対する比率は、異なり人数でものべ人数でも、農家が最も多い。これは、福島・梁川ともにそうである。

(3) 「おもしろいことを言って、みんなを笑わせる」と指名された子どもの数の全体に対する比率は、異なり人数でものべ人数でも、農家が最も少ない。これは、福島・梁川ともにそうである。

(4) つまり農家の子どもは、商家や俸給生活者の家庭の子どもに比して、クラスの中で消極的な言語行動をとっていると、他のクラスメートから評価されているのである。

14. 子どもはバス・電車の中でも積極的にものを言うか

[第50問]

ひとりでバス（電車）に乗りました。切符を買って、車掌^{きつぷ}さんからおつり^{しやしゅう}をもらいましたが、10円たりません。車掌さんに言って、もらおうと思います。バスにはほかに人が乗っています。こんなとき、あなたは、そのことをすぐ車掌さんに言えるほうですか。

ア すぐ言えるほうだ。 イ 言えないほうだ。 ウ わからない。

オ その他（.....）

[第51問]

バス（電車）に乗りました。何人かの人が乗っています。向かい側の席にすわっている、見知らぬおばさんがハンカチを落としましたが、気がつかないでいます。こんなとき――

A あなたは、そのおばさんに教えてあげたいと思いますか。

ア そう思う。 イ そうは思わない。

B あなたは、おばさんに教えてあげるのを、はずかしいと思いますか。

ア はずかしいと思う。 イ はずかしいと思わない。

C あなたは、実際にそのおばさんに教えてあげますか。

ア 教えてあげる。 イ 教えてあげない。 ウ 教えてあげたり、
教えてあげなかったりする。 エ わからない。

以上第50問と第51問の二つは、子どもが家庭を離れて、バス・電車の中でも積極的にものを言うかどうか、その意識をたずねたものである。場面をバス・電車の中に設定したのは、①、バス・電車はどの子どもも日常よく利用するものであることと、②、その中での車掌や見知らぬ乗客と子どもの関係は、どの子どもにとっても親疎・その他の条件の上ではほぼ等質的なものと考えてよいはずである（したがって、子どもの回答にも等質性が期待できる）ことの二つの理由による。

A おつりの不足を車掌に言えるか

まず第50問に対する回答を集計すると、第73表(i)(ロ)(ハ)のようになる。

第73表 ひとりでバス（電車）に乘りました。切符を買って、車掌さんからおつりをもらいましたが、10円たりません。車掌さんに言って、もらおうと思います。バスにはほかに人が乗っています。こんなとき、あなたは、そのことをすぐ車掌さんに言えるほうですか。

(i) 学 校 別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高校	梁 小	栗野小 五十沢小	梁 中	高校
すぐ言えるほうだ	66.9	48.6	50.1	56.8	45.2	27.6	34.5	44.4
言えないほうだ	14.7	26.4	23.6	20.1	33.3	46.3	34.9	29.8
わからない	16.6	20.0	22.3	18.2	16.4	22.8	25.3	20.2
そ の 他	1.8	5.0	3.2	4.6	4.0	3.2	2.4	5.6
無 答	0	0	0.7	0.3	1.1	0	2.0	0

(四) 学校×男女別

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小		1 中		梁 小		高 校	
	男	女	男	女	男	女	男	女
すぐ言えるほうだ	71.0 61.4	51.9 44.3	43.9 56.9	50.3 63.3	51.0 38.3	33.3 21.1	36.3 32.6	35.7 47.8
言えないほうだ	11.8 18.6	22.8 31.1	26.8 20.2	20.9 19.3	31.3 35.8	40.9 52.6	33.8 36.2	38.6 26.4
わからない	16.1 17.1	19.0 21.3	24.7 19.7	24.8 11.3	14.6 18.5	24.2 21.1	25.0 27.5	20.0 20.3
そ の 他	1.1 2.9	6.3 3.3	3.3 3.2	3.3 6.0	2.1 6.2	1.5 5.3	3.3 1.4	5.7 5.4
無 答	0 0	0 0	1.3 0	0.7 0	1.0 1.2	0 0	1.7 2.3	0 0

(イ) 職 業 別

(単位：パーセント)

	福 島 1 中			梁 川 中 学				
	農 家		生 活 者	農 家		生 活 者	農 家	
	男	女		男	女		男	女
すぐ言えるほうだ	36.0 61.9	46.8 51.8	41.7 64.5	34.0 32.9	54.5 30.8	52.2 21.4		
言えないほうだ	28.0 23.8	22.0 24.1	33.3 9.7	32.6 37.1	13.6 23.1	30.4 42.9		
わからない	24.0 9.5	28.0 21.4	16.7 22.6	27.0 25.9	31.8 38.5	17.4 35.7		
そ の 他	4.0 4.8	2.0 2.7	5.6 3.2	4.3 0.7	0 7.7	0 0		
無 答	8.0 0	2.0 0	2.8 0	2.1 3.5	0 0	0 0		

この三つの表から次のことがわかる。

(1) 福島と梁川の比較をすると、小中高校ともに積極的な答えをするのは福島に多く、消極的な答えをするのは梁川に多い。(イ)表で「すぐ言えるほうだ」と答えたのは福島に多く、「言えないほうだ」と答えたのは梁川に多い。これは、(四)表で男女別にみた場合も同じである。

(2) 小中高校の間にはさしたる違いはない。

(3) 男女別にみると、積極的な答えをするのは、福島・梁川ともに小学では男子に多く、高校では女子に多い。

(4) 職業別にみると、「すぐ言えるほうだ」と答えたのは、男子では福島・梁川ともに農家が最も少ない。しかし、その他の場合は、職業間の関係が地域により、また、男女のちがいにによりまちまちである。

B 見知らぬ乗客に話をする事ができるか

第51問の回答を集計すると、第74表(A)(B)(C)(A')(B')(C')の六つの表に示すようになる。(A)(B)(C)は学校×男女別にみたもの。(A')(B')(C')は福島1中と梁川中学を職業別にみたものである。

第74表 バス(電車)に乗りました。何人かの人が乗っています。向かい側の席にすわっている、見知らぬおばさんがハンカチを落としましたが、気がつかないでいます。こんなとき――

(A) あなたは、そのおばさんに教えてあげたいと思いますか。

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女							
そ う 思 う	96.8 95.7	96.2 96.7	90.4 97.2	91.5 97.3	89.6 97.5	87.9 96.5	88.3 95.4	92.9 98.3
そうは思わない	3.2 4.3	3.8 1.6	6.7 2.3	7.8 2.0	6.3 1.2	7.6 1.8	7.1 2.8	5.7 1.1
無 答	0 0	0 1.6	2.9 0.5	0.7 0.7	4.2 1.2	4.5 1.8	4.6 1.8	1.4 0.5

(B) あなたは、おばさんに教えてあげるのを、はずかしいと思いますか。

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1小	杉妻小 清沢小	1中	高校	梁小	栗野小 五十沢小	梁中	高校
	男 女							
はずかしいと思う	20.4 14.3	41.8 44.3	40.2 21.1	34.0 56.0	31.3 43.2	50.0 45.6	32.1 23.9	40.0 23.6
はずかしいとは思 わない	79.6 85.7	58.2 55.7	56.5 77.5	62.7 42.0	63.5 54.3	48.5 50.9	61.3 71.6	57.1 73.6
無 答	0 0	0 0	2.5 1.4	3.3 2.0	5.2 2.5	1.5 3.6	6.7 4.6	2.9 2.7

(C) あなたは、実際にそのおばさんに教えてあげますか。

(単位：パーセント)

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
	男 女							
教えてあげる	76.3 85.7	48.1 63.9	49.0 70.6	51.6 70.7	58.3 66.7	50.0 49.1	52.1 63.3	51.4 72.5
教えてあげない	3.2 0	7.6 9.8	4.6 1.4	7.2 2.7	2.1 2.5	10.6 1.8	4.2 2.8	7.1 2.2
教えてあげたり、 あげなかったりする	10.8 11.4	25.3 23.0	24.7 14.2	32.0 20.7	22.9 19.8	30.3 24.6	23.8 17.4	21.4 17.6
わからない	8.6 2.9	19.0 3.3	18.8 11.5	7.8 6.0	13.5 9.9	9.1 21.1	14.2 13.3	18.6 5.5
無 答	1.1 0	0 0	2.9 2.3	1.3 0	3.1 1.2	0 3.6	5.8 3.2	1.4 2.1

(A') あなたは、そのおばさんに教えてあげたいと思いますか。

(単位：パーセント)

	福 島 1 中			梁 川 中 学		
	農 家	僱給生 活者	商 家	農 家	僱給生 活者	商 家
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
そ う 思 う	80.0 95.2	94.0 97.3	97.2 100	84.4 95.1	95.5 100	95.7 100
そうは思わない	12.0 4.8	6.0 1.8	0 0	9.9 2.1	0 0	4.3 0
無 答	8.0 0	0 0.9	2.8 0	5.7 2.8	4.5 0	0 0

(B) あなたは、おばさんに教えてあげるのを、はずかしいと思いますか。

(単位：パーセント)

	福 島 1 中			梁 川 中 学		
	農 家	僱給生 活者	商 家	農 家	僱給生 活者	商 家
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
はずかしいと思う	36.0 28.6	31.0 22.3	52.8 19.4	31.9 21.0	18.2 38.5	39.1 21.4
はずかしいとは思わ ない	52.0 71.4	67.0 76.8	44.4 80.6	60.3 73.4	68.2 53.8	60.9 78.6
無 答	12.0 0	2.0 0.9	2.8 0	7.8 5.6	13.6 7.7	0 0

(C) あなたは、実際にそのおばさんに教えてあげますか。

(単位：パーセント)

	福 島 1 中			梁 川 中 学		
	農 家	俸 給 生 活 者	商 家	農 家	俸 給 生 活 者	商 家
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
教えてあげる	32.0 81.0	55.0 70.5	44.4 77.4	47.5 62.9	59.1 46.2	47.8 71.4
教えてあげない	4.0 0	5.0 2.7	2.8 0	5.7 1.4	0 0	0 0
教えてあげたり、教 えてあげなかったり する	28.0 9.5	22.0 12.5	27.8 12.9	26.2 18.2	22.7 7.7	30.4 21.4
わからない	28.0 4.8	16.0 12.5	22.2 9.7	13.5 13.3	9.1 46.2	21.7 7.1
無 答	8.0 4.8	2.0 1.8	2.8 0	7.1 4.2	9.1 0	0 0

これら六つの表から次のことがわかる。

(1) 見知らぬおばさんがハンカチを落としたのを見たら、小中高校生ともに大部分のものがそのことをおばさんに教えてやりたいと思っている。この傾向は、概してわずかではあるが、女子のほうが男子よりも強い。(梁川ではこれがはっきりしている。)

福島と梁川とでは、男子は、梁川のほうが negative な答えをする傾向が強い。女子は、ほとんど変わらない。小中高校の間に傾向的な違いはない。職業別にみると、福島・梁川ともに、negative な答えをするのは、農家の子どもが多い。

(2) 人前で見知らぬおばさんに教えてあげることをはずかしいと思うと答えたのは、概して女子よりも男子に多い。福島と梁川とでは、わずかではあるが、梁川のほうが多い。小学校ではこれがはっきりしている。

小中高校の間に傾向的な違いはない。職業別には、男子では福島・梁川ともに「はずかしいと思う」と答えたのは、商家の子どもが最も多く、次いで農家の子ども。俸給生活者の子どもは最も少ない。女子は、福島と梁川とでは傾向がちがう。

(3) 「実際にそのおばさんに教えてやる」と積極的な答えをするのは、概し

て男子よりも女子に多い。小中高校別、福島・梁川の地域別にはほとんど違いはない。

職業別には「教えてあげる」と答えたのは、男子では福島・梁川ともに農家の子どもが最も少ない。しかし、女子は福島と梁川とで傾向がちがう。

15. 子どもと親との結びつきについて

A 子どもが尊敬する人はだれか

[第52問]

あなたが尊敬している人をふたりだけ書いてください。

.....

福島と梁川で、中学生と高校生にやってもらった向性検査を別にすれば、この第52問が最後の設問になる。(松江では、この第52問はやっていない。)

この設問を試みたのは、次の二つのことが知りたかったからである。

(1) 子どもが尊敬する人物は、具体的にどのような人物か。

(2) それら子どもの尊敬する人物の中で、子どもの父親・母親およびその他の家族成員はどれだけのウェイトをしめているか。つまり尊敬する人物として自分の父親・母親その他の家族成員をあげる子どもがどれだけいるか。

しかしこのうち(1)についての集計結果をここで報告することは、紙幅の都合上とりやめ、(2)についてだけ報告することにする。

子どもが尊敬する人物としてあげた家族成員とその数は、第75表に示すとおりである。

第75表 子どもが尊敬する人物としての家族成員

	福 島 市				梁 川 町			
	1 小	杉妻小 清沢小	1 中	高 校	梁 小	粟野小 五十沢小	梁 中	高 校
	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
父	10(11.1) 15(21.4)	12(15.8) 11(18.0)	39(17.0) 58(28.6)	21(15.0) 13(9.2)	4(4.3) 8(10.3)	7(11.1) 10(17.9)	29(12.8) 44(21.1)	22(32.4) 64(36.6)
母	9(9.7) 17(24.3)	10(12.7) 13(21.3)	38(16.2) 58(26.9)	14(9.2) 19(12.7)	4(4.2) 8(9.9)	7(10.6) 10(17.5)	29(12.4) 51(23.8)	25(36.2) 74(41.3)
祖父	1(6.3)	1(9.1)	2(7.7) 3(11.5)	1(10.0)	3(12.0)	3(12.0) 1(5.0)	3(6.0) 3(6.2)	
祖母		1(4.3) 3(14.3)			3(7.1)	3(8.8) 1(4.2)	2(2.3) 5(5.7)	1(5.3) 4(6.2)
兄	2(5.0)	2(4.3)	3(2.6) 2(1.8)	1(2.5)		1(1.9)	2(1.4) 5(4.0)	1(2.3) 3(3.2)
姉	2(4.3)	2(4.3)	2(1.5) 1(0.9)		1(1.8)		4(2.9) 3(2.3)	3(4.9)
弟	1(2.9) 1(5.6)		1(0.9)					
妹								
家族			1(0.4)				1(0.8) 1(0.4)	
自分					1(1.0)			1(1.4)

備考：各欄カッコ内の数字は選択率。

表中各欄の数字のうちカッコでつままれていない数字は成員数，カッコ内の数字はそれぞれの成員の総数に対する比率，つまり選択率である。この表から次のことがわかる。

(1) 尊敬する人物として父親・母親をあげる子どもの数，つまり選択率は，学校によってかなりでこぼこがあり，一様ではない。

(2) しかし，母親の選択率は，どの学校でも女子のほうが男子よりも高い。父親の選択率も，福島高校を除けば，ほかは全部女子のほうが男子よりも高い。つまり尊敬する人物として自分の親をあげるのは，概してどの学校でも男子より女子のほうが多いのである。

(3) 男子の父親・母親の二つの選択率を比較すると，梁川高校のほかはどの学校でも，わずかではあるが，すべて父親の選択率のほうが母親の選択率より

も大きい。女子の場合は、福島1小、杉妻小・清沢小、福島高校、梁川中、梁川高校の五つでは、これとは反対に（やはりわざわざではあるが）母親の選択率のほうが大きい。残りの梁川小と栗野小・五十沢小の二つは、二つの選択率はほとんど同じ、福島1中だけが母親の選択率が父親の選択率よりもわずかにだけ多いにすぎない。

つまり、親を尊敬するという意味での親に対する子どもの心理的結びつきも、ごく大ざっぱに言って、男子→母親、女子→父親の異性同士の結びつきよりも、男子→父親、女子→母親の同性同士の結びつきのほうが、たとえわずかにもせよ、強いことが多いのである。（男子→父親と男子→母親の場合は、このことが非常にはっきりしている。女子→父親と女子→母親の場合も少なくとも同性同士の親子の結びつきが異性同士の親子の結びつきよりも弱いことは、非常に少ない。）

B 子どもと親の結びつきについて

第22問「困ったことがあったとき、あなたはふつう、家族の中で、だれに最初に相談したいと思いますか。」の回答を集計した結果では、父親に相談するというのは女子よりも男子に多く、母親に相談するというのは反対に男子よりも女子に多い、ということがわかっている。

第32問「家族の中で、あなたがいちばん話のしやすいと思う人は、だれですか。反対に、家族の中で、いちばん話のしにくいと思う人は、だれですか。」の回答を集計した結果では、父親を話しやすいとするものは女子よりも男子に多く、母親を話しやすいとするものは反対に男子よりも女子に多い、ということがわかっている。

第21問「家族の中で、あなたがふだんいちばん多く話をする相手のかたは、だれですか。その次に、あなたが多く話をする相手のかたは、だれですか。反対に、話すことがいちばん少ないと思う相手のかたは、だれですか。その次に、少ないと思う相手のかたは？」の回答を集計した結果では、男子←→父親のコミュニケーションは女子←→母親のコミュニケーションよりも強く、反対に男子←→母親のコミュニケーションは女子←→母親のコミュニケーションよりも弱い、ということがわかっている。

第24問「おとうさんは、あなたといっしょに遊んでくれることがありますか。」と第26問「おかあさんは、あなたといっしょに遊んでくれることがありますか。」、それに第28問「あなたは、おとうさんといっしょに仕事をすることがありますか。」と第30問「あなたは、おかあさんといっしょに仕事をすることがありますか。」の四つの設問に対する回答を集計した結果では、遊びおよび仕事を親といっしょにするということを通しての子どもの親に対する結びつきは、福島・梁川のどの学校でも、男子←→母親、女子←→父親の異性同士の結びつきよりも、男子←→父親、女子←→母親の同性同士の結びつきのほうが強い、ということがわかっている。

最後に、第52問「あなたが尊敬している人をふたりだけ書いてください。」に対する回答を集計した結果では、前述したように、親を尊敬するという意味での親に対する子どもの結びつきも、ごく大ざっぱに言って、男子→母親、女子→父親の異性同士の結びつきよりも、男子→父親、女子→母親の同性同士の結びつきのほうが、たとえわずかにもせよ、強いことが多い、ということがわかったのである。

以上、いくつかの事柄を総合すると、家庭における親と子どもの心理的な結びつき、またはコミュニケーションの上での結びつきは、これを性別にみた場合、男子←→母親、女子←→父親の異性同士の親子の結びつきよりも、男子←→父親、女子←→母親の同性同士の親子の結びつきのほうが強いということが、かなりの程度の強さで言えるのではないだろうか。

16. 向性検査の結果について

福島市と梁川町の中学生と高校生には、前節で述べた第52問「あなたが尊敬している人をふたりだけ書いてください。」につづいて、最後に、次に掲げるような淡路・岡部式向性検査をやらしてもらった。中学生と高校生の調査は、これで全部終わったことになる。

A 学校別・職業別にみた向性指数

次にあげた質問に答えてください。質問どおりであれば、「はい」に○、その反対ならば、「いいえ」に○をつけてください。どちらにも決められない場合は、その

ままにしておいてください。

- | | | |
|------------------------|----|------------|
| 1. ちょっとしたことでも気になりますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 2. すぐ決心がつかますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 3. 大事をとって、実行にひまどりますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 4. 決心をあとから変えることができますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 5. 思案するより活動するほうが好きですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 6. 陰気ですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 7. 失敗にこりますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 8. のんきですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 9. 無口ですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 10. 感情をすぐおもてに現わしますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 11. よくはしゃぎますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 12. 気が変わりやすいですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 13. 物事にこり固まりますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 14. しんぼう強いですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 15. りくつつほいですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 16. 議論が過激になりやすいですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 17. 用心深いですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 18. 動作がきびきびしていますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 19. 仕事が綿密ですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 20. 派手な仕事が好きですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 21. 仕事に夢中になりますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 22. 空想家ですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 23. 潔癖すぎますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 24. 持ち物をなげやりにしますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 25. むだ使いが多いですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 26. 話し好きですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 27. 気むずかしやですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 28. しょうだんを言いますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 29. おだてられやすいですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 30. 強情ですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 31. 不満が多いですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 32. 自分の評判が気にかかりますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 33. 他人の批判がしたいですか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 34. 自分のことを他人にまかせられますか。 | はい | <u>いいえ</u> |
| 35. 人から指図されるのがいやですか。 | はい | <u>いいえ</u> |

- | | | |
|-------------------------------|-----------|------------|
| 36. 人の上に立って、うまく治めてゆくことができますか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 37. 他人の意見をすなおに聞き入れますか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 38. よく気がききますか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 39. かくし立てをしますか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 40. 他人にすぐ同情をしますか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 41. 他人を信じすぎますか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 42. うらみが忘れられないですか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 43. はにかみ屋ですか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 44. ひとりぼっちでいるのが好きですか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 45. 友だちを作るのに骨がおれますか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 46. 人前で平気で話せますか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 47. 人目につくところでは、いつも引込んでいますか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 48. 意見の違う人とでも気軽につき合ってゆけますか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 49. 世話好きですか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |
| 50. おしまずに物を与えますか。 | <u>はい</u> | <u>いいえ</u> |

この淡路・岡部式向性検査は、外向性の徴候に関する問題が25問、内向性の徴候に関する問題が25問の計50問からできており、この50問で情意活動や性格の全般をおおうことができるようにくふうがこらされている。「はい・いいえ」のところで、それぞれ下線を引いてあるのが外向点である。もし全問この下線のひかれているとおりに答えれば、外向点は50点、全問その反対に答えれば、外向点は0点ということになる。

子どもには、この検査用紙を与えて、質問どおりであれば、「はい」に○、その反対ならば、「いいえ」に○をつけてもらう。どちらにもきめかねるものは、そのままにしておいてもらう。

検査者は、その中から外向点にあった回答の数と無答の数をかぞえ出し、次の数式にあてはめて、向性指数（Version Quotient または V・Q）を算出する。

$$\begin{aligned} \text{向性指数} &= (\text{外向点} + \frac{1}{2} \text{無答}) \div 25 \times 100 = (\text{外向点} \times 2 + \text{無答}) \div 50 \times 100 \\ &= (\text{外向点} \times 2 + \text{無答}) \times 2 = \underline{\text{外向点} \times 4 + \text{無答} \times 2} \end{aligned}$$

向性指数は、100を中心として、0から200までの値となって現われる。内向性的傾向が極端に強く、50問全部内向的にのみ答えた子どもは、外向点は0、無答は0となるから、向性指数は0となる。反対に、外向性傾向が極端に強く、50問全部外向的にのみ答えた子どもは、外向点が50点、無答が0となるから、向性指数は200となる。

外向・内向の二つの傾向に優劣がなく、25点の外向点を得た子ども、または、50問の全部を無答とした子どもは、どちらも向性指数が100となる。

第76表は、学校別・学校×男女別・学校×親の職業別に、子どもたちの向性指数の平均値を算出したものである。

第76表 グループ別向性指数

	福島1中	梁川中学	福島高校	梁川高校
全 体	109.8	107.1	107.0	102.8
男	108.6	108.0	106.0	100.9
女	111.1	106.1	108.0	103.5
農 家	106.1	106.6	102.4	101.2
俸 給 生 活 者	108.3	108.4	105.8	110.9
商 家	117.4	116.3	114.5	103.3

この第76表から次のことがわかる。

(1) 中学も高校も、向性指数はわずかではあるが、福島のほうが梁川よりも大きい。これは、男女別にみた場合も、男女をこみにした全体でみた場合も同じである。つまり農村の子どもは、都会の子どもよりも、わずかではあるが、向性指数が小さいのである。

(2) 福島・梁川のどの学校でも、農家の子どもの向性指数がいちばん小さい。つまり都会でも農村でも、農家の子どもの向性指数は、商家の子どもや俸給生活者の家庭の子どもの向性指数よりも、わずかではあるが、おしなべて小さいのである。

17. 農家の子どもの言語行動について

A 学校別・職業別にみた言語行動的性格の型

向性検査の全50問の中には、言語行動に直接関係のあるものとして、次の四つがある。

〔第9問〕 無口ですか。 はい いいえ

〔第26問〕 話し好きですか。 はい いいえ

〔第28問〕 じょうだんを言いますか。 はい いいえ

〔第46問〕 人前で平気で話せますか。 はい いいえ

この四つについて、学校×男女別および学校×職業別に集計してみると、第77・78表のようになる。

第77表 淡路・岡部式向性検査の4問の集計表(学校×男女別)

(イ) 無口ですか。

(単位: パーセント)

			福 島				梁 川			
			1 中		高 校		梁 中		高 校	
			男	女	男	女	男	女	男	女
は	い	い	20.1	15.6	32.7	17.3	22.9	25.7	38.6	28.6
い	い	え	70.7	72.9	43.1	72.7	68.3	66.1	50.0	63.2
無		答	9.2	11.5	24.2	10.0	8.8	8.3	11.4	8.2

(ロ) 話し好きですか。

(単位: パーセント)

			福 島				梁 川			
			1 中		高 校		梁 中		高 校	
			男	女	男	女	男	女	男	女
は	い	い	62.5	76.1	62.7	62.7	60.4	69.3	60.0	70.3
い	い	え	26.4	18.3	23.5	23.3	27.5	26.1	27.1	20.9
無		答	10.9	5.5	13.7	14.0	12.1	4.6	12.9	8.8

(ハ) じょうだんを言いますか。

(単位: パーセント)

			福 島				梁 川			
			1 中		高 校		1 中		高 校	
			男	女	男	女	男	女	男	女
は	い	い	81.6	83.5	86.9	84.0	72.9	77.5	77.1	87.9
い	い	え	11.7	9.6	3.3	10.0	17.5	16.5	12.9	7.7
無		答	6.7	6.9	9.8	6.0	9.6	6.0	10.0	4.4

(二) 人前で平気で話せますか。

(単位：パーセント)

	福 島				梁 川			
	1 中		高 校		1 中		高 校	
	男	女	男	女	男	女	男	女
はい	31.4	39.9	43.1	38.0	31.3	28.4	31.4	31.3
いいえ	54.8	45.9	40.5	50.7	51.7	58.7	58.6	53.3
無答	13.8	14.2	16.3	11.4	17.1	12.8	10.0	15.4

第78表 淡路・岡部式向性検査の4問の集計表(学校×職業別)

(イ) 無口ですか。

(単位：パーセント)

	福 島 1 中						梁 川 中 学					
	農 家		俸給生活者		商 家		農 家		俸給生活者		商 家	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
はい	24.0	14.3	20.0	20.5	16.7	6.5	29.8	28.0	9.1	23.1	13.0	21.4
いいえ	60.0	57.2	72.0	71.4	75.0	83.9	58.2	62.9	86.4	69.2	82.6	78.6
無答	16.0	28.6	8.0	8.0	8.3	9.7	12.1	9.1	4.5	7.7	4.3	0

(ロ) 話し好きですか。

(単位：パーセント)

	福 島 1 中						梁 川 中 学					
	農 家		俸給生活者		商 家		農 家		俸給生活者		商 家	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
はい	44.0	66.7	61.0	80.4	77.8	80.6	56.0	69.2	77.3	84.6	87.0	78.6
いいえ	52.0	23.8	26.0	17.9	11.1	12.9	28.4	25.2	18.2	15.4	13.0	21.4
無答	4.0	9.5	13.0	1.8	11.1	6.5	15.6	5.6	4.5	0	0	0

(イ) しょうだんを言いますか。

(単位：パーセント)

	福 島 1 中						梁 川 中 学					
	農 家		俸給生活者		商 家		農 家		俸給生活者		商 家	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
は い	56.0	76.2	85.0	85.7	80.6	83.9	68.1	76.2	86.4	100.0	87.0	78.6
い い え	36.0	19.0	7.0	8.9	11.1	6.5	18.4	16.8	9.1	0	13.0	14.3
無 答	8.0	4.8	8.0	5.4	8.3	9.7	13.5	7.0	4.5	0	0	7.1

(ロ) 人前で平気で話せますか。

(単位：パーセント)

	福 島 1 中						梁 川 中 学					
	農 家		俸給生活者		商 家		農 家		俸給生活者		商 家	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
は い	20.0	14.3	36.0	38.4	36.1	48.4	30.5	29.4	36.4	7.7	43.5	42.9
い い え	64.0	57.2	53.0	50.9	47.2	32.3	52.5	58.0	40.9	84.6	43.5	35.7
無 答	16.0	28.6	11.0	10.7	16.7	19.4	17.0	12.6	22.7	7.7	13.0	21.4

第77表と第78表から次のことがわかる。

(1) 福島と梁川の比較をすると、「無口ですか」に対して「はい」と答えたのは、中学・高校の男女ともに梁川のほうが多い。(「いいえ」と答えたのは、高校の女子を除けば、全部梁川のほうが少ない。)

「話し好きですか」に対して「いいえ」と答えたのは、高校の女子を除けば、ほかは全部梁川のほうが多い。(「はい」と答えたのは、この逆。)

「しょうだんを言いますか」に対して「いいえ」と答えたのも、高校の女子を除けば、ほかは全部梁川のほうが多い。(「はい」と答えたのは、この逆。)

「人前で平気で話せますか」に対して「いいえ」と答えたのは、中学男子を除けば、ほかは全部梁川のほうが多い。(「はい」と答えたのは、この逆。)

つまり、梁川(農村)の子どもは、福島(都会)の子どもよりも、自分の言語行動について、概して消極的な答えをすることが多いのである。

(2) 異なる職業の間の比較をすると、「無口ですか」に対して「はい」と答えたのは、福島1中の女子のほかは、全部農家の子どもが最も多い。(「いいえ」

と答えたのは、全部農家の子どもが最も少ない。)

「話し好きですか」に対して「いいえ」と答えたのは、福島1中・梁川中学の男女ともに農家の子どもが最も多い。(「はい」と答えたのは、その逆。)

「じょうだんを言いますか」に対して「いいえ」と答えたのは、福島1中・梁川中学の男女ともに農家の子どもが最も多い。(「はい」と答えたのは、その逆。)

「人前で平気で話せますか」に対して「いいえ」と答えたのは、梁川中学の女子を除けば、ほかは全部農家の子どもが最も多い。(「はい」と答えたのは、その逆。)

つまり、農家の子どもは、福島の場合も梁川の場合も、商家の子どもや俸給生活者の家庭の子どもに比して、自分の言語行動について、概して消極的な答えをすることが多いのである。

B 農家の子どもの言語行動について

第35問「おとうさんと話をするとき、ふつうあなたは、話すほうが多いですか。聞くほうが多いですか。」の回答を集計した結果では、「話すほうが多い」と答えた子どもは、男子の場合福島・梁川・松江ともに、農家の子どもが最も少ない。女子の場合も、梁川と松江では農家の子どもが最も少ない、ということがわかっている。

第13問「そのようなとき(注、食事以外のときに、家族のかたが集まって、くつろいで雑談や世間話などをするようなとき)に、あなたは、よく話すほうですか。それとも、だまっているほうですか。」の回答を集計した結果では、「よく話すほうだ」と答えているのは、福島・梁川・松江の男女ともに、農家の子どもが最も少ない。反対に「だまっているほうだ」と答えているのは、福島1中の女の場合を除けば、ほかは全部農家の子どもが最も多い、ということがわかっている。都市(福島・松江)と農村(梁川)の比較をしてみると、「よく話すほうだ」と答えたのは、福島1中と梁川中学の間で例外があるが、そのほかは全部都市のほうが農村よりも多い。反対に「だまっているほうだ」と答えたのは、福島高校と梁川高校の間で例外があるが、そのほかは全部農村のほうが多い、ということもわかっている。

第2問「あなたは、朝起きてから、おとうさんやおかあさんにあいさつしますか。」、第4問「あなたは、食事のはじめに、あいさつをしますか。」、第6問「食事のおわりは、どうですか。」、第8問「あなたは、夜ねるとき、おとうさんやおかあさんにあいさつをしますか。」、第17問「あなたは、朝登校するとき、家族のかたにあいさつして、家を出ますか。」、それに第19問「学校から帰ったときは、どうですか。」の六つのあいさつの場面に関する質問の回答を集計した結果では、あいさつをしないというのは、福島と梁川では、概して男女ともに農家の子どもが最も多い。松江の女子の場合も、これと同じことがみられる、ということがわかっている。

都市（福島・松江）と農村（梁川）の比較をしてみると、あいさつをしないというのは、概して小中高校ともに農村の子どものほうに多い、ということもわかっている。

第45問「先生から答案をかえしてもらいました。よく見ると、正しい答えなのにまちがいにされています。先生に言って、なおしてもらいたと思います。こんなとき、あなたは、そのことを先生にすぐ言えるほうですか。それとも、言えないほうですか。」の回答の集計結果では、「すぐ言えるほうだ」と積極的な答えをするのは、小中高校ともに都市（福島）の子どもに多く、農村（梁川）の子どもに少ない、ということがわかっている。職業間の比較では、消極的な答えをするのは、概して福島・梁川ともに農家の子どもに最も多い、ということもわかっている。

第46問「教室で、先生がみんなに質問をされました。それがあなたに答えられるようなものだったら、あなたは、どうしますか。」の回答の集計結果では、「すぐ手をあげる」という積極的な回答をするのは、小中高校ともに農村（梁川）よりも都市（福島）の子どもに多く、「人が手をあげるのをみてから、手をあげる」という消極的な回答をするのは、反対に小中高校ともに農村（梁川）のほうに多い、ということがわかっている。

職業間の比較をすると、消極的な回答をするのは、概して農家の子どもが最も多い、ということもわかっている。

第47問「ホームルームの時間などで、あなたは、みんなの前で自分の意見を

のべるほうですか。それとも、だまっているほうですか。」の回答を集計した結果では、都市（福島）と農村（梁川）の間に小中高校を一貫した傾向的な違いは現われなかった。しかし、職業別には、積極的な答えをするのは、都市（福島）では男女ともに農家の子どもが最も少なく、農村（梁川）でも男子は農家の子どもが最も少ない、ということがわかっている。

第48問（第47問で「だまっていることが多いほうだ」または「いつもだまっているほうだ」と答えた人だけ）だまっているのは、なぜですか。の回答の集計結果では、「意見があるが、言うのがはずかしいから」という消極的な回答をするのは、栗野小・五十沢小の1例を除けば、ほかは全部農村（梁川）の子どものほうが都市（福島）の子どもよりも多い。職業別にみると、消極的な答えをするのは、農村（梁川）はちょっとちがうが、都市（福島）では、やはり男女ともに農家の子どもが最も多いのである。

第49問「(A) クラスの中で、よく意見をのべるのは、だれとだれですか。（氏名をはっきり書いてください。以下同じ。）(B) だまっているのは、だれとだれですか。(C) おもしろいことを言って、みんなを笑わせるのは、だれとだれですか。」の回答を集計した結果では、次のことがわかっている。

「クラスの中で、よく意見をのべる」と指名された子どもの数がそれぞれの生徒総数に対する比率は、異なり人数でものべ人数でも、農家が最も少ない。これは、都市（福島）でも農村（梁川）でもそうである。

「クラスの中で、だまっている」と指名された子どもの数が全体に対してしめる比率は、異なり人数でものべ人数でも、農家が最も多い。これは、都市（福島）でも農村（梁川）でもそうである。

「おもしろいことを言って、みんなを笑わせる」と指名された子どもの数が全体に対してしめる比率は、異なり人数でものべ人数でも、農家が最も少ない。これは、都市（福島）でも農村（梁川）でもそうである。

第50問「ひとりでバス（電車）に乗りました。切符を買って、車掌さんからおつりをもらいましたが、10円たりません。車掌さんに言って、もらおうと思います。バスにはほかに人が乗っています。こんなとき、あなたは、そのことをすぐ車掌さんに言えるほうですか。」の回答を集計した結果では、「すぐ言え

るほうだ」と積極的な回答をするのは、小中高校ともに都市（福島）のほうに多く、「言えないほうだ」と消極的な回答をするのは、農村（梁川）に多い。職業別には、積極的な回答をするのは、男子では都市（福島）・農村（梁川）ともに、農家の子どもが最も少ない。

以上、前項の(3)にのべた向性検査の場合の四つの設問の結果にあわせて、わたしたちの調査でこれまでにわかったいくつかの事例をあげてみると、農村の子どもは、都市の子どもよりも、また、農家の子どもは、商家や俸給生活者の家庭の子どもよりも、自分の言語行動について消極的な意識をもっていることが多いということが、かなりの程度の強さで言うことができるのではなかろうか。

そして、この農家の子どもの主観的な消極的意識は、第49問の集計結果からも明らかとなり、他のクラスメートの自由な相互評価の結果によって、これまたかなりの程度強く客観的に裏うちされたものであることもわかるのである。

C 農家・商家・俸給生活者の家庭の子どもということの意味について

農家の子どもは、商家や俸給生活者の家庭の子どもにくらべて、自分の言語行動について消極的な意識をもっていることが多い、ということがわかったが、ここで、農家の子ども、商家の子ども、俸給生活者の家庭の子どもということについて、もう少し考えてみよう。

第79表(イ)は、梁川中学の農家・俸給生活者・商家の子どもが梁川町の中でもそれぞれどの地域（町村合併前の旧町村）に住んでいるかをみたものである。また、(ロ)表は、梁川（旧）・東大枝（ひがしおおえだ）・堰本（せきもと）・富野（とみの）・五十沢のそれぞれの地域の子どもの職業別にみたものである。

第79表 梁川中学の農家・俸給生活者・商家の子どもの地域的分布

(イ) 職業を地域別にみた場合

(各欄ともに下の数字は、パーセント)

	梁川 (旧)	東大枝	堰本	富野	五十沢	栗野	丸森	不明	計
農 家 男	24 17.0	13 9.2	52 36.9	27 19.1	22 15.6	1 0.7	2 1.4	0	141 100.0
俸給生活者 男	16 72.7	2 9.1	0	3 13.6	1 4.5	0	0	0	22 100.0
商 家 男	21 91.3	0	0	1 4.3	1 4.3	0	0	0	23 100.0
農 家 女	29 20.3	17 11.9	41 28.7	29 20.3	25 17.5	1 0.7	1 0.7	0	143 100.0
俸給生活者 女	10 76.9	0	1 7.7	1 7.7	1 7.7	0	0	0	13 100.0
商 家 女	11 78.6	0	1 7.1	2 14.3	0	0	0	0	14 100.0
農 家 全体	53 18.7	30 10.6	93 32.7	56 19.7	47 16.5	2 0.7	3 1.1		284 100.0
俸給生活者 全体	26 74.3	2 5.7	1 2.9	4 11.4	2 5.7	0	0	0	35 100.0
商 家 全体	32 86.5	0	1 2.7	3 8.1	1 2.7	0	0	0	37 100.0

(ロ) 地域を職業別にみた場合

(各欄ともに右側の数字は、パーセント)

	農 家	俸給生活者	商 家	そ の 他	計
梁 川(旧)	53 29.9	26 14.7	32 18.1	66 37.3	177 100.0
東 大 枝	30 85.7	2 5.7	0 0	3 8.6	35 100.0
堰 本	93 88.6	1 1.0	1 1.0	10 9.6	105 100.0
富 野	56 75.7	4 5.4	3 4.1	11 14.9	74 100.0
五 十 沢	47 79.7	2 3.4	1 1.7	8 15.3	59 100.0

現在の梁川町は、伊達郡の旧堰本村・富野村・五十沢村・栗野村・白根（しらね）村・山舟生（やまふにゅう）村の6か村の全域と、大枝村の東大枝地区が昭和30年3月に旧梁川町に合併してできた町である。このうちわたしたちの調査の対象になった梁川中学は、旧梁川町と旧堰本村・旧富野村・旧五十沢村、それに東大枝の五つの地区を学区としている。残った旧白根村・旧山舟生村・旧栗野村は、それぞれ梁川町立白根中学校・山舟生中学校・栗野中学校の学区

となっている。(イ)表で、旧栗野村と宮城県伊具郡丸森町の子どもが若干名いるが、これは、学区外からの委託通学生である。

さて、(イ)表をみると、次のことがわかる。

(1) 農家の子どもは、男女ともに旧梁川町に住んでいるものは非常に少なく、大部分は旧村に住んでいる。

(2) これに対して、商家と俸給生活者の家庭の子どもは、旧梁川町に住んでいるものが大部分である。旧村に住んでいるものは、非常に少ない。とりわけ商家の子どもは、そのほぼ9割近くが旧梁川町に住んでいる。

(ロ)表をみると、次のことがわかる。

旧梁川町の子ども177名のうち農家の子どもは、わずかその3割にすぎないが、東大枝・堰本・富野・五十沢の旧村の場合は、8割弱から9割までのものが農家の子どもである。

第80表 地区別にみた梁川町の産業別就業人口

(各欄とも下の数字はパーセント)

	梁川 (旧)	東大枝	栗野	堰本	白根	山舟生	富野	五十沢	合計
1. 農 業	1,115 29.0	479 80.6	1,186 73.8	1,772 86.9	1,057 91.7	1,037 91.8	1,105 83.3	860 82.2	8,611 67.6
2. 林業・狩猟業			2 0.1			2 0.2			4 0
3. 漁業・水産養殖業	2 0.1		1 0						3 0
4. 鉱 業	9 0.2	1 0.2		1 0	9 0.8				20 0.2
5. 建 設 業	237 6.2	8 1.3	38 2.4	22 1.1	17 1.5	19 1.7	22 1.7	18 1.7	381 3.0
6. 製 造 業	877 22.8	30 5.1	151 9.4	127 6.2	5 0.4	14 1.2	56 4.2	57 5.4	1,317 10.4
7. 卸売・小売業	766 20.0	32 5.4	99 6.2	39 1.9	20 1.7	19 1.7	66 5.0	49 4.7	1,090 8.6
8. 金融・保険不動産業	47 1.2	3 0.5	8 0.5	2 0.1	3 0.3	1 0	4 0.3	3 0.3	71 0.5
9. 運輸・通信業	114 3.0	8 1.3	16 1.0	18 0.9	4 0.3	7 0.6	4 0.3	10 1.0	181 1.4
10. 電気・ガス・水道業	5 0.1	1 0.2	2 0.2			3 0.6			11 0.1
11. サービス業	607 15.8	22 3.7	88 5.5	47 2.3	28 2.4	17 1.5	54 4.1	37 3.5	900 7.1
12. 公 務	63 1.6	10 1.7	17 1.1	12 0.6	10 0.9	9 0.8	15 1.1	12 1.1	148 1.2
13. 計	3,842 100.0	594 100.0	1,608 100.0	2,040 100.0	1,153 100.0	1,128 100.0	1,326 100.0	1,046 100.0	12,737 100.0
第1次産業 (%)	29.1	80.6	73.9	86.9	91.7	92.0	83.3	82.2	67.6
第2次産業 (%)	29.2	6.6	11.8	7.3	2.7	2.9	5.9	7.1	13.6
第3次産業 (%)	41.7	12.8	14.4	5.8	5.6	5.2	10.8	10.6	18.9

第80表は、国勢調査(昭和35年)の資料によって、梁川町の産業別就業人口を合併前の旧町村別にみたものである。これから次のことがわかる。

(1) 梁川中学の子どものうち、農家の子どもが多く住んでいる東大枝・堰本・富野・五十沢は、農業就業人口が全就業人口の8割以上の純農村である。

(2) これに対して、商家や俸給生活者の家庭の子どもが多く住んでいる旧梁川町は、農業就業人口が全就業人口のわずか3割、残りの7割は第2・3次産業就業人口である。旧梁川町は、梁川町の中でもかなりの程度都市的な就業構

造をもっている地域なのである。(注)

(注) 旧梁川町は、梁川町の中でもかなりの程度都市的な就業構造をもっている地域である、といったが、旧梁川町は、昭和35年の国勢調査からその大部分の地域が「人口集中地区」(DID, Densely Inhabited District の略)に指定されている。

昭和20年代の後半から30年代の前半にかけて、全国的に実施された町村合併の運動によって、わが国の現在の行政的な市や町は、従来の都市的な地域の外に、純農山漁村的な地域を大幅にかかえこむことになった。そのため国勢調査報告書の行政的市・町別や市部・郡部別の統計表が、必ずしも厳密な意味での都市的地域と農山漁村的地域の特質を明瞭に示さなくなってきた。人口集中地区は、この欠陥を補なうために、昭和35年の国勢調査ではじめて行なった地域区分である。この設定にあたっては、(1) 昭和35年国勢調査の調査区を基礎単位地域として用い、(2) 市区町村の境界内で人口密度の高い調査区(人口密度1km²あたり約4,000人以上)が隣接して、(3) 昭和35年国勢調査区が設定された昭和34年10月1日現在、人口5,000人以上を有する場合、これを「人口集中地区」として設定した。

福島県伊達郡には、町村合併の結果、現在桑折・伊達・国見・梁川・保原・霊山・月館・川俣・飯野の9町があるだけであるが、このうち人口集中地区を設定されているのは、川俣町とこの梁川町だけである。

つまり、農家の子どもや商家・俸給生活者の家庭の子どもといっても、それらは行政的単位としての梁川町の全域に平均的に分布しているのでは決してない。農家の子どもは、梁川町の中でも主として農村的な地域に、同じく商家や俸給生活者の子どもは、梁川町の中でも主として都市的な地域に、それぞれかたまって分布しているのである。

したがって、家庭の中や教室の中などにおける子どもの言語行動の意識について、わたしがこれまでに報告してきた農家の子ども対商家・俸給生活者の家庭の子どもの対立は、そのまま梁川町の中でも都市的な地域(旧梁川町)対農村的な地域(旧堰本村・五十沢村・富野村・東大枝)の対立ということに還元することができる性質のものである、と云ってさしつかえないだろう。農家の

子どもが自分のコミュニケーション行動や言語行動について消極的な意識をもっているということは、つまり農村的な地域の子どもが自分のコミュニケーション行動や言語行動について消極的な意識をもっているということなのである。

福島1中については、第79表のような調査はしていない。しかし、福島市教育委員会学校教育課の話によると、この中学には、福島市立第1小学校・同杉妻小学校・同清沢小学校を卒業した子どもの全部、それに福島市立吉井田（よしいだ）小学校を卒業した子どもの一部が進学するのだそうである。つまり福島1小の学区と杉妻小・清沢小の学区の全部、それに吉井田小学校の学区の一部が福島1中の学区となるわけである。このうち福島1小の学区は、旧福島市の中でも最も都市的な地域であり、杉妻小・清沢小の学区となっている信夫郡旧杉妻村、それに吉井田小学校の学区となっている信夫郡旧吉井田村は、それぞれ昭和22年の2月と3月に福島市に合併された村で、どちらも、もともと都市近郊農村的な色彩をもった地域である。

だから、福島1中の学区にも、一方には福島市の中でも最も都市的である地域と、他方にはどちらかと言えば、農村的な色彩を現在でものこしている地域というように、社会的性質の異なった二つの地域が存在しているのである。したがって、福島1中の場合も、農家の子ども対商家や俸給生活者の家庭の子どもの対立は、梁川中学の場合と同じく、同じ学区の中での都市的な地域対どちらかといえば農村的な地域の対立という地域対地域の対立の問題に還元することができる性質のものなのだろう。

昭和 43 年 12 月

国立国語研究所

東京都北区稲付西山町

電話東京(900)3111(代表)

UDC 301.18

NDC 361.4

本書の市販品発行所

東京都新宿区市ヶ谷佐内町 39 電話 (260) 5281

株式会社 秀英出版

953

国立国語研究所刊行書

国立国語研究所年報

1~18 (昭和24年度~昭和41年度)

国立国語研究所報告

- 1 八丈島の言語調査
- 2 言語生活の実態 (秀英出版刊)
—白河市および付近の農村における—
¥ 300
- 3 現代語の助詞・助動詞
—用語と実例—
- 4 婦人雑誌の用語
—現代語の語彙調査—
- 5 地域社会の言語生活 (秀英出版刊)
—一箇岡における実態調査—
¥ 600
- 6 少年と新聞
—小学生・中学生の新聞への接近と理解—
- 7 入門期の言語能力
- 8 談話語の実態
- 9 読みの実験的研究
—音読にあらわれた読みあやまりの分析—
- 10 低学年の読み書き能力
- 11 敬語と敬語意識
- 12 総合雑誌の用語 (前編)
—現代語の語彙調査—
- 13 総合雑誌の用語 (後編)
—現代語の語彙調査—
- 14 中学年の読み書き能力
- 15 明治初期の新聞の用語
- 16 日本方言の記述的研究 (明治書院刊)
¥ 900
- 17 高学年の読み書き能力
- 18 話しことばの文型 (1)
—対話資料による研究—
- 19 総合雑誌の用字
- 20 同音語の研究
- 21 現代雑誌九十種の用語用字
—総記および語彙表—
- 22 現代雑誌九十種の用語用字
—漢字表—
- 23 話しことばの文型 (2)
- 24 横組みの字形に関する研究
- 25 現代雑誌九十種の用語用字
—分析—
- 26 小学生の言語能力の発達 (明治図書刊)
¥ 2,100
- 27 共通語化の過程
- 28 類義語の研究
- 29 戦後の国民各層の文字生活
- 30 日本言語地図 (1) (2)
- 31 電子計算機による国語研究
- 32 社会構造と言語の関係についての基礎的研究 (1)

国立国語研究所資料集

- 1 国語関係刊行書目(昭和17~24年)
- 2 語彙調査
—現代新聞用語の一例—
- 3 送り仮名法資料集
- 4 明治以降国語関係刊行書目 (秀英出版刊)
¥ 300)
- 5 沖縄語辞典 (大蔵省印刷局刊)
¥ 2,500)
- 6 分類語彙表 (秀英出版刊)
¥ 900)

国立国語研究所論集

- 1 こ と ば の 研 究
- 2 こ と ば の 研 究 第 2 集
- 3 こ と ば の 研 究

国 語 年 鑑

- (昭和 29 年 版) (秀英出版刊)
¥ 459)
- (昭和 30 年 版) (秀英出版刊)
¥ 600)
- (昭和 31 年 版) (秀英出版刊)
¥ 450)
- (昭和 32 年 版) (秀英出版刊)
¥ 480)
- (昭和 33 年 版) (秀英出版刊)
¥ 480)
- (昭和 34 年 版) (秀英出版刊)
¥ 500)
- (昭和 35 年 版) (秀英出版刊)
¥ 550)
- (昭和 36 年 版) (秀英出版刊)
¥ 800)
- (昭和 37 年 版) (秀英出版刊)
¥ 500)
- (昭和 38 年 版) (秀英出版刊)
¥ 950)
- (昭和 39 年 版) (秀英出版刊)
¥ 980)
- (昭和 40 年 版) (秀英出版刊)
¥ 1,100)
- (昭和 41 年 版) (秀英出版刊)
¥ 1,100)
- (昭和 42 年 版) (秀英出版刊)
¥ 1,100)
- (昭和 43 年 版) (秀英出版刊)
¥ 1,200)

-
- 高 校 生 と 新 聞 国立国語研究所 共著 (秀英出版刊)
日本新聞協会 ¥ 280)
- 青年とマスコミュニケーション 日本新聞協会 共著 (金沢書店刊)
国立国語研究所 ¥ 280)

COMMUNICATION CONSCIOUSNESS OF BOYS AND GIRLS IN THEIR HOMES

CONTENTS

Foreword

Outline of Survey

Outline of Results

1. Whom do boys and girls wish to ask advice on their embarrassments in their families?
2. Who are boon companions of boys and girls in their homes?
3. With whom do boys and girls usually talk much in their homes?
4. Do boys and girls like to talk with their parents, or not?
5. Do boys and girls tell their desires and opinions to their parents?
6. Are boys and girls talkative or not, when they talk with their parents?
7. By whom are boys and girls reproved in their homes?
8. Are boys and girls reproved by their parents?
9. How do boys and girls call their parents?
10. How do boys and girls greet in their homes?
11. Do boys and girls work and play with their parents?
12. Who are talkative persons in their homes?
13. Do boys and girls talk positively in their classroom?
14. Do boys and girls talk positively in buses and trams?
15. On the relationship of boys and girls to their parents?
16. On the results of extroversion-introversion test
17. On the language behavior of boys and girls in farmers' families

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
INATUKE-NISIYAMA, KITA, TOKYO

1968